

目 次

ごあいさつ

全国小学校国語教育研究会 会長 佐伯 孝司	2
-----------------------------	---

九州小学校国語教育研究協議会 会長	
-------------------	--

熊本県小学校国語教育研究会国語部会 会長 清田 浩文	3
----------------------------------	---

熊本県教育長 白石 伸一	4
--------------------	---

熊本市教育長 遠藤 洋路	5
--------------------	---

基調提案 研究テーマ	6
------------------	---

分科会Ⅰ

学習指導案	11
-------------	----

分科会Ⅱ

学習指導案	47
-------------	----

分科会提案

提案資料	83
------------	----

大会役員・組織

第52回全国小学校国語教育研究大会熊本大会 役員・大会運営組織	101
---------------------------------	-----

全国小学校国語教育研究会主催 研究大会一覧	102
-----------------------------	-----

全国小学校国語教育研究会 会則	104
-----------------------	-----

九州小学校国語教育研究大会のあゆみ	108
-------------------------	-----

令和4年度九州小学校国語教育研究協議会役員	110
-----------------------------	-----

第63回九州小学校国語教育研究大会 熊本大会役員一覧	
----------------------------------	--



あいさつ

全国小学校国語教育研究会
会長 佐伯 孝司

(渋谷区立臨川小学校校長)

「熊本は森の都だなあ。」夏目漱石が初めて熊本を訪れた際、眼下に広がる熊本の街をこのように言い表したと伝えられています。漱石は、明治29（1896）年に第五高等学校（現熊本大学）に赴任し、ロンドン留学前の4年余りを熊本で過ごしました。漱石が残した俳句のうち40%が熊本時代に作られたとも言われます。漱石は、友人であった正岡子規の指導を受け、俳句を詠んだということです。緑があふれ、歴史と文化の薫り高いこの地で、第52回全国小学校国語教育研究大会、第63回九州小学校国語教育研究大会、第66回熊本県小学校国語教育研究大会を開催することができますこと、関係の皆様にご心より感謝申し上げます。前回51回大会は、漱石の「坊ちゃん」や子規の生誕地として知られる愛媛県（松山市）で開催しました。愛媛から熊本へ。国語教育に携わる者として、すてきな縁を感じます。

今大会は、全国小学校国語教育研究会創立50周年の記念すべき大会です。先達の歩みに敬意を表するとともに、たゆまぬ歩みを皆様と刻むことができる幸運に感謝の念でいっぱいです。令和4年9月17日には、全国各地から多くの皆様にお集まりいただき、50周年記念式典を開催いたしました。本会の半世紀にわたる活動の成果を改めて確かめ、さらなる発展の第一歩を踏み出すことができました。今大会においても、その歩みをより確かなものにすることができるよう努めてまいります。

全国小学校国語教育研究会は、全国の小学校国語教育関係者の力を結集し、我が国の小学校国語教育の推進と発展に寄与することを目的として活動しています。この目的を達成するための事業として、全国大会の開催を継続しています。また、国語科教育の理念等について全国的組織で研究すること、学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善を中心に、確たる実践理論の構築をめざすことを活動方針に掲げています。今大会においても、熊本県はもちろん、九州各県、全国を代表して広島県と東京都の先生方から研究成果を提案していただきます。

今大会の主題は、「未来を拓く言葉の力を培う国語科学習の創造～学びを自覚し、共に更新し続ける子供の育成～」です。大きく速く変化していく社会の中で予測困難な未来を切り拓いて生きていく子供たち。様々な課題に対応する確かな学力、他者と協働し他者を思いやる豊かな人間性、たくましく生きる力を育むためにも、ますます重要になる言葉の力。主体的な学習者としての子供たちと共に創り出す新たな国語の授業。全国の小学校国語教育関係者が関心を寄せる内容を取り上げ、発信します。そして、子供たちが、学びのつながり、学びのゴール、学びの価値を自覚したうえで、協働的に新たな学びを積み重ね続けていく姿。その姿を公開授業や分科会提案等を通じて全国の皆様と共有し、私たちも共に学びを更新してまいりたいと考えます。

昨夏に熊本を訪問した際、私は、大会運営委員会の中心となる方々に、今大会の主題及び副主題、研究理論から学んだことについてお話をさせていただきました。すると、熊本の皆様から、話し合うこと、多様な意見を出し合い課題解決にあたることは、連綿と続く熊本の風土・伝統であるという内容のお話を伺い、感銘を受けました。確かに、熊本県公式観光サイトには「中世の肥後最大の豪族だった菊池一族。」「合議で物事を決定するという民主的な『菊池家憲』を定めるなど先進的な考えを持ち、また、文武にすぐれた一族でした。」という記載があるなど、伺ったお話につながる資料もありますし、何より熊本の皆様が言葉で通じ合い、研究を進めていることを実感しました。今大会は、感染症拡大防止の観点から、多くの皆様には、動画配信による講話や授業公開、オンラインによる講演や実践発表を御視聴いただきます。対面での参加者を限らせていただくこととなりますが、Web上で広く発信でき、遠方からもアクセス可能であること、皆様の御都合にあわせて御視聴できる部分が多くあることは、熊本の皆様の話し合いにより、大会運営に新たな工夫を加えていただけたものと思っております。全国各地の先生方と共に学び、協議を深めることで、我が国の国語教育の充実と発展につながる全国大会となることを信じております。

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 大塚健太郎様には、今大会においても御講話をいただけますこと、感謝申し上げます。また、作家 重松清様、安田女子大学教授 田中宏幸様には、御多用のところ貴重な御講演をいただけますこと、誠にありがとうございます。ことばの力や国語科の授業づくりについて学びを深めたいと思います。

結びになりましたが、本大会の研究や準備を中心となって進めてこられました九州小学校国語教育研究協議会会長 清田浩文様、熊本大会運営委員長 齊藤正信様をはじめ、熊本県小学校教育研究会国語部会及び熊本市小学校国語教育研究会の皆様には、たいへんお世話になりました。また、後援をいただきました文部科学省、全国都道府県教育長協議会、全国連合小学校長会、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県小学校校長会、公益財団法人日本教育公務員弘済会熊本支部の皆様には、大きなお力添えをいただきました。本大会の開催に御支援を賜りました全ての皆様に、心より感謝と敬意を表します。



ごあいさつ ～記念大会開催に感謝～

九州小学校国語教育研究協議会
熊本県小学校教育研究会国語部会
会長 清田 浩文
(熊本市立植木小学校 校長)

「浮草の寄する汀や阿蘇は雪」

熊本の俳人中村汀女が詠んだような、雪をかぶった阿蘇の山々を仰ぎ見ることができる季節に「全国小学校国語教育研究会創立50周年記念第52回全国小学校国語教育研究大会」「第63回九州小学校国語教育研究大会」「第66回熊本県小学校国語教育研究大会」を、火の国熊本で開催できますことを大変ありがたく、また、嬉しく存じます。

本大会は、例年11月に開催県が主になって開催していたとのことでございますが、全国小学校国語教育研究会会長の佐伯孝司様のご配慮により、九州小学校国語教育研究大会と兼ねての開催でも可であるということになりましたので、九州各県の協力をいただきながら、例年冬に開催しておりました九州小学校国語教育研究大会と兼ねて執り行うことにいたしました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、一昨年度の北九州大会が誌上開催、昨年度の愛媛大会がオンライン開催となり、熊本大会をどのような形で開催すべきか検討を重ねてまいりました。従来の対面式の開催も考えましたが、感染症等の急増により直前になって中止となることを避けるために、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形態の開催とすることにいたしました。

コロナ禍での三年間、研修会等の行事を中止したり規模を縮小したりすることが続きましたが、熊本県小学校教育研究会国語部会（略称熊本県小国研）は、熊本県大会を中止することなく研究活動を継続し、オンライン大会を開催し、「学びを止めない熊本県小国研」「学び続ける熊本県小国研」として歩みを進めてまいりました。

今回、大会主題「未来を拓く言葉の力を培う国語科学習の創造～学びを自覚し、共に更新し続ける子供の育成～」を掲げ、基調提案並びに12の公開授業により研究の成果をお伝えいたします。馬原大介研究部長を中心とした本県の研究部員が、九州各県並びに東京都・広島県（次期開催県）の授業者・提案者と文書のやり取りを継続して、より良い授業づくりを模索してまいりました。忌憚のないご意見をいただきまして、私たちの学びにお力添えをいただきたく存じます。

結びになりますが、研究大会開催にあたりまして、ご講演を快諾してくださいました作家 重松清様、文部科学省初等中等教育局教育課程科調査官 大塚健太郎様、安田女子大学教授（九州小学校国語教育研究協議会顧問）田中宏幸様に深く感謝申し上げます。また、ご後援をいただきました文部科学省、全国都道府県教育長協議会、全国連合小学校長会、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県小学校校長会、公益財団法人日本教育公務員弘済会熊本支部をはじめ、全国小学校国語教育研究会会長 佐伯孝司様、そして大会開催に向けて準備に当たってこられた熊本市小学校国語教育研究会会長（全国大会熊本大会運営委員長）の齊藤正信先生並びに熊本県小学校教育研究会国語部会の役員の皆様方に厚くお礼申し上げます。

次年度は全国小学校国語教育研究大会が広島県、九州小学校国語教育研究大会が宮崎県、熊本県小学校国語教育研究大会が宇城地区で開催されます。本大会の成果と課題を引き継ぎ、更なる高みへと発展していかれますことを祈念いたします。



御挨拶

熊本県教育委員会
教育長 白石 伸 一

「全国小学校国語教育研究会創立50周年記念第52回全国小学校国語教育研究会」「第52回 全国小学校国語教育研究大会熊本大会」，「第63回 九州小学校国語教育研究大会」並びに「第66回熊本県小学校国語教育研究大会」が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また、一昨年度より新型コロナウイルスの影響を受け、様々な制約がある中にもかかわらず、これまで準備を進めてこられた大会関係者の皆様及び日々の授業実践を通して子供たちの資質・能力の育成に寄与しておられる先生方に感謝と敬意を表します。本年は全国小学校国語教育研究会創立50周年にあたる年であると聞いております。そのような記念の年に、熊本県では初となる本大会が、対面とオンラインを組み合わせた新しい形態で盛大に開催されることを心より嬉しく存じます。

さて、令和3年1月の中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、これからの学校においては、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう教師が促していくことや、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越えていくこと、すなわち、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが必要だと示されています。本大会のテーマである「未来を拓く言葉の力を培う国語科学習の創造～学びを自覚し、共に更新し続ける子供の育成～」は、まさに国の動向を捉え、子供たちに育むべき資質・能力の育成を具現化する研究だと考えます。また、子供たちが言葉による見方・考え方を働かせながら、学びを自覚し、問いをもちながら主体的に学ぶことで、個々が有する見方・考え方が更新されていくことは、まさに未来を拓く言葉の力へとつながるものであります。

熊本県教育委員会では、「第3期くまもと『夢への架け橋』教育プラン」に基づき、子供たちの「夢」を実現する教育を推進しております。学習指導要領改訂に併せて作成した「熊本の学び推進プラン」においては、「熊本のすべての子供たちが『学ぶ意味』を問いながら『能動的に学び続ける力』を身に付けることを目指す」という理念のもと、学習者の視点から授業を構築し、確かな学力の向上を目指して取り組んでいるところです。本研究大会の先進的な実践や提案、成果と課題を通して得られた未来の創り手となる子供たちの学びは、本県のプランの目指す方向と軌を一にするものであり、本県はもとより、全国の学校や地域で生かされるものと期待しております。

本県において甚大な被害が発生した平成28年熊本地震から7年、令和2年7月豪雨から3年を迎えようとしていますが、全国の皆様方からの温かい御支援により復興が進んでおります。本県には、明治の文豪 夏目漱石の小説「草枕」の舞台となった小天温泉、明治昭和期の俳人 種田山頭火が称賛した日奈久温泉、熊本地震から完全復旧したしたばかりの熊本城天守閣など、長年の歴史・文化の継承と新たな復興への営みを感じられる場所が数多くあります。是非、この機に本県の文学史や震災からの力強い復興に興味をもっていただければ幸いです。

結びに、本大会の成果を生かし、子供たち一人一人の学びが一層充実されますことを期待するとともに、本会のより一層の御発展と国語教育に携わる先生方の益々の御活躍を祈念いたしまして、御挨拶いたします。

ごあいさつ



熊本市教育長

遠 藤 洋 路

「全国小学校国語教育研究会創立50周年記念第52回全国小学校国語教育研究会」「第63回九州小学校国語教育研究大会」「第66回熊本県小学校国語教育研究大会」が、本市において盛大に開催されますことにお喜び申し上げますとともに、全国各地からお越しいただきました皆様方を心から歓迎いたします。また、ご参会の皆様におかれましては、全国の国語科教育の充実に向け、日頃から授業研究に取り組まれ、よりよい教育活動の充実にご尽力されていることに、深く敬意を表します。

さて、グローバル化やAIなどの技術革新が急速に進み、予測困難な時代の中、子供たちには自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められています。学校での学びを通じ、子供たちがそのような「生きる力」を育むために、学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が重要視されています。

本市では、「豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え主体的に行動できる人を育む」を基本理念とし、積極的な教育施策を展開しているところです。特に、この理念に沿って、校則・生徒指導のあり方の見直し、高校・専門学校改革、不登校生への支援等に取り組んでいます。各学校においては、ICTの活用をさらに推進しながら、新学習指導要領で示されている子供たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「教わる」授業から「学びとる」授業へ」をスローガンに子供主体の授業を目指しています。

本大会では、「未来を拓く 言葉の力を培う 国語科学習の創造」という大会主題のもと、副主題として「学びを自覚し、共に更新し続ける子供の育成」とし、「学びを自覚するための手立て」「共に更新するための工夫」、この2つの視点で研究に取り組まれています。これは、主体的に自らの思いや考えを深めることであり、本市が目指す基本理念につながるものと期待しております。

最後になりますが、本大会を開催されるにあたり、準備等ご尽力をいただきました関係者の皆様に深く敬意を表しますとともに、ご参会の皆様の益々のご活躍と本大会の成功が国語科教育研究会の更なる発展につながることを祈念いたしまして、熊本市教育委員会の挨拶といたします。

未来を拓く言葉の力を培う国語科学習の創造

～学びを自覚し、共に更新し続ける子供の育成～

研究部長 馬原 大介

1 これからの社会に求められる力

今日の子供たちが成人して社会で活躍する頃には、Society5.0時代が到来し、社会の在り方そのものが現在とは「非連続」と言えるほど劇的に変わるとされている。生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子供たちが就くことになる職業の在り方についても様変わりすることが予想されるからである。

このような時代にあって学校教育には、一人一人の子供が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、「持続可能な社会の創り手」となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

この資質・能力について考えてみたい。中央教育審議会（以下中教審）は、平成28年答申において、次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力として、「文章の意味を正確に理解する読解力」、「教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力」、「対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力」などを挙げている。また、『「令和の日本型教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年答申）』の中では、従来の日本型教育では『自ら課題を見つけ、それを解決する力』を育成するため、他者と協働し、自ら考え抜く学びが十分になされていないのではないかという指摘もある」としており、今後、授業を通して児童が自らの思いや考えを深めることがさらに重要になる。

以上のことを踏まえ、国語科においても、子供の実態に寄り添い、きめ細かく指導・支援することはもちろんのこと、子供自身が学習の状況を把握し、主体的に学習を調整していく機会や、他者と協働して学び合う場を一層充実させていくことを通して、予測困難な時代を生き抜くために必要な「未来を拓く言葉の力」を子供に培っていくことが重要となる。その鍵となるのが、「言葉による見方・考え方」を働かせることである。

2 求められる国語科の力

国語科における、教科固有の見方・考え方とは、「言葉による見方・考え方」である。この教科固有の見方・考え方を働かせることが、教科の本質に迫る学びを生み出す。学習指導要領では、「言葉による見方・考え方」を働かせるとは、「児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」と示されている。

「言葉による見方・考え方」を働かせるためには、まずは「言葉に着目して、自分なりの考えをもつこと」が必要である。その上で、考えたことを問い直す学びを行うことで、自らの「言葉への自覚を高める」ことができる。このような学びを生み出すことを目指し、子供自身が学びを自覚する授業

を積み重ねることが重要である。これは、国語科の改訂の趣旨及び要点の中の『学習過程の明確化、「考えの形成」の重視』にもつながる。

また、「言葉による見方・考え方」はその子の既有知識・生活経験に大きく左右される。同じ言葉でも、どのように捉えるか、どう使うかについては、納得解はあっても絶対解はないことが多い。その納得解は、他者との交流によって広がり、深まっていく。そのような対話を通して、「言葉による見方・考え方」を働かせながら自らを更新していく学びが求められている。

今後目指すのは、子供が『学びを自覚し、共に更新し続ける』授業である。このような授業を通して、小学校段階における国語科の学びを着実に蓄積し、他教科、日常生活、将来に波及するような汎用性のある資質・能力を育成していく。さらに、その力を活用し、予測困難な未来を仲間と共に切り拓いていきたいと自ら思えるような子供を育てたい。

3 研究の実際

(1) 『学びを自覚し、共に更新し続ける』授業とは

学びの自覚には様々な捉え方があるが、本研究においては、次の三つを重視する(図1)。

一つ目は、「学びのつながりを自覚する」ことである。子供たちが、これまでの学習と単元の学習がどのようにつながっているか自覚し、単元の学習に向けて準備ができるように、学びの土台をつくる場を設定する。

二つ目は「学びのゴールを自覚する」ことである。『学習課題』という学習のゴールを含めた大きな枠組を設定することで、子供は見通しをもって学習に取り組むことができる。

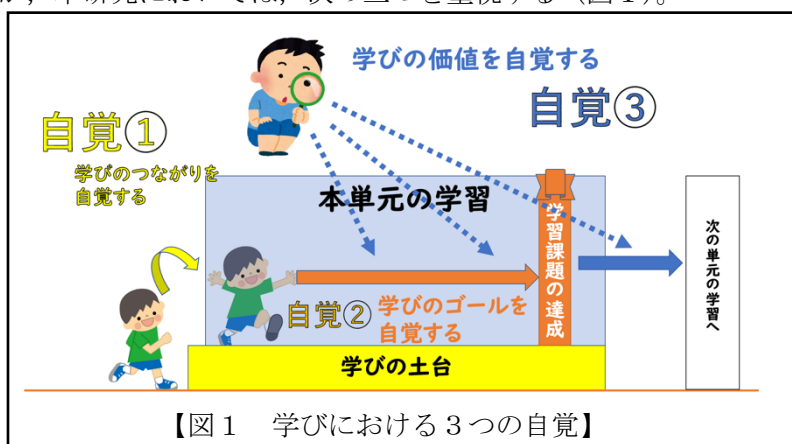
三つ目は、「学びの価値を自覚する」ことである。学びを振り返る視点を、学習内容だけでなく学び方へと広げる。そうすることで、子供たちは学びを立ち止まって振り返り、学んだことを整理したり、これからの学びの方向を修正したりすることができる。このような学びを通して、子供は自らの学びを自覚し、調整しながら学習へと取り組むことができる。

また、そのような学びの自覚には、対話が欠かせない。一人一人が考えを表出し、それを比較して共通点や相違点を見つけたり、主張を述べる際、根拠だけでなく、生活体験や経験などの理由づけを行いながら、対話の中で納得解を導き出したりしていくことで、子供は関わり合いの中で仲間と共に自らを更新していく。

以上のように、『学びを自覚し、共に更新する』ことを大切にしながら取り組むことで、子供は学び方を調整したり、見方・考え方を再構築したりしながら、自らを更新し続ける。このような授業を通して「未来を拓く言葉の力」を培っていくのである。

(2) 視点について

『学びを自覚し、共に更新し続ける子供』を育む授業を展開していくために、以下に示す二つの視点を大切に授業づくりを行う。



【図1 学びにおける3つの自覚】

【視点1：学びを自覚するための手立て】

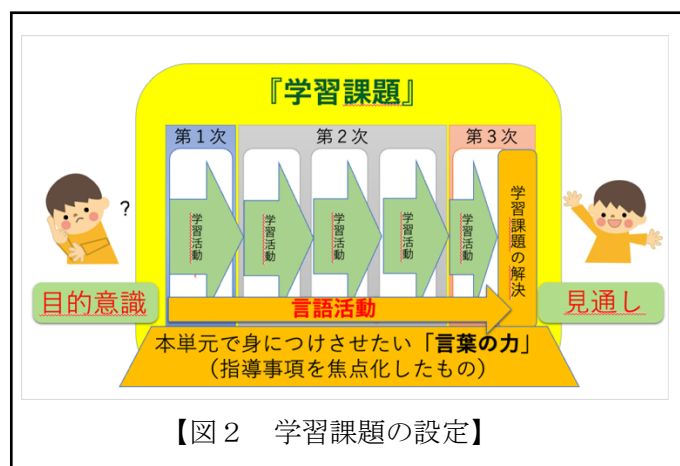
子供たちが自らの学びを自覚するために、三つの手立てを行う。学びの土台づくりでは、既習事項の確認や調べ学習などを行うことで、単元の学習内容へ向かう準備を整え、どの子も学習に取り組めるようにする。学びの指針となる『学習課題』は、子供にとって学習を見通すだけでなく、学びの価値を確認できるよりどころとなる。立ち止まって振り返る場は、学んだことを価値づける場である。このような学びを通して、子供が自らの学びを自覚し、調整しながら学習へと取り組めるようにしていく。

① 学びの土台づくり

子供たちの既有知識や生活経験には、大きな違いがある。これまでは、学校生活の中で、仲間と相互に補完していた部分が多かった。しかし、社会情勢の変化や子供たちの多様化によって、文化や言語活動など、学びの前提となる知識や経験が乏しく、単元の導入からつまづいてしまう子供もいる。そこで、第一次において学びの土台づくりを行う。関連する絵本の読み聞かせや体験活動、既習事項の掘り起こしなど、子供が学びに向かうことのできる土台をつくることで、どの子も学びのつながりを自覚でき、本単元の学習に取り組むことができる。

② 学びの指針となる『学習課題』

『学習課題』を設定する際、「指導事項」と「言語活動」の二つの視点を大切にし、子供の問いから学びをつくっていく。そうすることで、子供にとって、「この言語活動を達成するために、こんなこと（指導事項）を大切にしていく。」という自然な学びの流れができる。これは、教師の側から考えると「この力（指導事項）をつけるために、この言語活動に取り組ませる。」というめざす学習の流れでもある。



【図2 学習課題の設定】

その際、指導事項の焦点化も重要となる。せっかく言語活動で学習意欲が高まったとしても、単元の指導事項に適したものでなければ学びに齟齬が生じる。そのため、教師が本単元（教材）における指導事項を焦点化した「言葉の力」をしっかりと捉え、『学習課題』を設定する必要がある。

このような学びの指針となる『学習課題』を設定し、これまでの学びとのつながりや、これからの学びの価値を単元の導入段階で自覚できるようにすることで、子供たち一人一人が、自らの考えを大切にしながら、見通しをもって学ぶことができるようにする（図2）。

③ 立ち止まって振り返る場の設定

子供が自らの学びの価値を自覚するためには、学びを内省することが大切である。一時間や一単元の学習を通して、「何を学んだのか。自分の学び方（学びのプロセス）はどうだったのか。それは今後の学習にどのように生かされるのか。」等、自らを振り返る場を設定する。さらに、子供が書いた振り返りについて、教師がコメントを記入したり、授業で取り上げたりして丁寧に価値づけする。そうすることで、子供たちは自らの学びの価値を自覚し、学んだことを整理したり、学びの方向を修正したりする。

また、振り返りを子供同士で共有することも重要である。授業の導入や終末において、振り返りを共有する場面を設定することによって、本時の価値や学習内容を、他者の振り返りから学ぶことができる。振り返りの共有を積み重ねることで、子供は他者の振り返りを通して自らの学び見つめ直し、調整していく。

振り返りをきっかけに、子供が立ち止まり、自らの考えを見つめ直す。このような学びを通して、振り返りの価値を一層高めていく。

<視点1における手立て>

○学びの土台づくり ○学びの指針となる学習課題の設定 ○立ち止まって振り返る場の設定

【視点2：共に更新するための工夫】

国語科において、「共に更新する」とは、他者と協働的に学ぶことである。自らの考えを表出し、比較・検討する場を設定することで、子供たちはお互いの考えの共通点や相違点に気づく。さらにその根拠や理由を述べ合いながら納得解を模索する中で、それぞれの「言葉による見方・考え方」が働き、考えが再構築され、更新されていく。

① 考えを表出し、比較する場

考えの比較・検討のためには、子供たちの考えの共通点や相違点が一目でわかるようなようにする手立てが必要である。言葉で伝える際はキーワードにしたり、シンキングツールやイラスト、色、動作化などを用いたりして思考を可視化する。そうすることで、子供たちは自らの考えを形にするために個々の「言葉による見方・考え方」を働かせる。また、どう違うのかだけでなく、なぜそれを選んだのか、それは何を根拠にしているのか検討し合う場を設定することができる。

② 納得解を生み出す根拠や理由づけの充実

他者との対話を通して納得解を生み出すために重要になるのが、自らの意見を支える根拠と、集団を納得解へと導く理由づけである。子供の意見が想像や思いだけに偏るときには、教師が積極的に関わり、問い返ししながら根拠を明確にする必要がある（図3）。そこから、子供の既有知識や生活経験を引き出して理由づけを行いながら、納得解を生み出していけるようにする。

視点2 【共に更新するための工夫】

（2）納得解を生み出す根拠や理由づけの充実

4年下「ごんぎ」

問い返し

そっか！
そこからごんの気持ち
が分かるね。

ごんは兵十のことをどう思っ
ていたのでしょうか。
どこから分かりますか？

兵十と友だちになりたかったと思います。

〇〇ページの△行目に、「おれと同じ、ひ
とりぼっちの兵十か」と書いてあります。
ひとりぼっちだとさみしいので、友だちが
欲しいと思うからです。

【図3 根拠を明確にする問い返し】

さらに、そのやりとりを「根拠」や「理由づけ」が明確になるように、構造的に板書で整理することも大切にしたい。中・高学年では、意見を支える根拠や理由づけが適当か検討し、さらに深く考える場を設ける。このような学びを通して納得解を模索する中で、子供たちは個々の「言葉による見方・考え方」を働かせ、自らを更新していく。

<視点2における工夫>

○全員が考えを表出し、比較する場 ○納得解を生み出す根拠や理由づけの充実

分科会 I

學習指導案

【1年（話すこと・聞くこと）】

よくきいて、ともだちのことをしょうかいしよう「ききたいな ともだちの はなし」

指導者 井上 奈々（新宿区立落合第二小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

児童は2年生への進級に向け、友達のことをよく知ってさらに仲良くなりたいという思いをもっている。友達紹介を通して、知らなかった友達の一面を知り、紹介することでより互いの理解が深めることを目的にこの単元を設定した。児童はこれまで、話し手が知らせたいことは何か、事柄の順序を意識しながら聞くことを学んできた。本単元では、さらに自分にとって大切なことや知りたいことは何かを明確にもち、聞きたいことを落とさないように集中して聞く力を身に付けることを目指す。そして、友達紹介をすることで、互いのよさを共有し、より仲良くできるようにする。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ力。

言語活動

「ともだちしょうかい」をする

学習課題

友達を紹介するために話をよく聞き、聞いたことを他の友達に紹介しよう

<立ち止まって振り返る場>

振り返りカードを活用し、自己の学びを振り返る時間を設定する。振り返りカードには、できるようになったことや気が付いたこと、質問されたときの感想を書くように視点を提示する。指導者が児童の個の変容を捉えるためだけでなく、児童自身が自己評価として、単元を通して学んだことを自覚できるようにする。

<考えを表出し比較する場>

話し手の児童に質問を受けた時の感想を聞き、話し手の満足度を確かめる時間を設定する。話し手による評価から、聞き手が聞きたいことを聞き出せるような聞き方、聞き手側の姿勢、表情、質問などの態度や聞き方のことについてワークシートに書き、振り返ることができるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由付けの充実>

友達の話をよく聞くためには、どのような技能や態度を身に付ければよいかがわかるように、教師が実演する「ともだちしらべ」のモデル動画とシナリオを提示する。それらを基に、なぜ、そのモデルの話し方が良いのかモデルを根拠とすることで、納得できる理由づけをしながら話し合うことができるようにする。

本時

単元終了時の子供の姿

よりよく友達を理解し、互いに交流を深めるためには、自分の聞きたいことを落とさないように聞き、共感する言葉付け足したり、自分の感想を加えたりして対話をするといふことに気付くことができる子供。

第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 新宿区立落合第二小学校

井上 奈々

- 1 単元名 よくきいて、ともだちのことをしょうかいしよう
「ききたいな ともだちの はなし」(光村図書1年)

- 2 学習課題 友達を紹介するために話をよく聞き、聞いたことを他の友達に紹介しよう

指導事項 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。A 話すこと・聞くこと (1) エ

[言葉の力] 自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ力。

[言語活動] 「ともだちしょうかい。」をする。

3 単元について

<教材観>

小学校での生活も約1年が過ぎようとしている。1年生は同じクラスの友達との仲を深め、互いのよさを認め合うことができるようになってきた。しかし、仲のよい友達のことはよく知っていても、あまり交流のない友達についてはまだ知らないことが多い。そこで、本単元では、「友達を紹介するために、よく聞く」ということを目的とし、友達に聞いたことを、他の友達に紹介する活動を設定した。1年生の児童は、自己紹介をする経験はあっても、友達に自分を紹介してもらう機会は少ない。友達紹介をすることで、互いのよさをみんなで共有し、よりよく知って仲良くする機会にしていく。

<児童観>

1年生の児童は自分自身に起こる日々の出来事を話すことに意欲的である。しかし、聞き手となって、友達や先生が知らせたいことを落とさないように最後まで集中して聞いたり、自分が知りたいことを落とさないように聞いたりすることには、まだ難しい実態がある。また、よい姿勢で話を聞いているように見えていても、実際には漠然と聞いているだけで内容を捉えられていなかったり、大事なことを聞き逃したりしている児童も少なくない。

<視点について>

[視点1] 学びを自覚するための手立て

「友達のことをよりよく知って、さらに仲良くなろう」をテーマとして、1時間目の導入では教師によるモデル動画「自己紹介と友達紹介」を見せる。友達紹介には、紹介する人から見た評価や感想が自然と入るため、その子のよさが自己紹介よりも伝わりやすい特性がある。モデル動画を通して、自己紹介にはない友達紹介のよさに気付くことができるように促す。2時間目では、モデル動画「ともだちしらべ」を見て、聞くことの技能や態度などについて学び、簡単に質問して「ともだちしらべ」を行う。そこでは、友達のよさが詳しく聞けたかを振り返り、より詳しくする必要があることに気付かせる。さらに詳しく聞きたい質問を考え、どのような言葉(聞き方のこつ)を使って伝えるかを考える。3時間目では、モデルを再度参考に、聞きたいことを明確にもち、さらに詳しく質問ができるようにする。質問をして得た情報や自分の感想を、メモに記入して内容を整理し、友達紹介をする。1回目と2回目の自分の「ともだちしらべ」をワークシートに書いて振り返ることで、よりよく友達を紹介するためには、自分の聞きたいことを落とさないように聞き、紹介する内容を付け足したり、感想を加えたりして伝えるとよいことに気付くことができるようにする。

[視点2] 共に更新するための工夫

自己紹介と比較した友達紹介のよさや、「ともだちしらべ」の際の聞き方のこつ、共感的に聞く態度などを学ぶために教師が実演するモデル動画とそのシナリオを教材とした。動画から気付いたことを共有し、繰り返し見ることで児童自身が身に付ける力を整理し、対話の中で実践することができるようにする。また、話し手の児童に質問を受けた時の感想を聞き、話し手の満足度を確かめる時間を設定する。そうすることで、聞き手が聞きたいことを聞き出せるような聞き方や、聞き手側の姿勢、表情、質問などの態度や聞き方のこつについて振り返りができるようにする。

4 単元目標

- 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うことができる。(知・技)(1)オ
- 自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。A話(1)エ
- 言葉がもつよさを感じ、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っている。	・自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。	・進んで聞きたいことを落とさないように集中して聞き、学習の見通しをもって友達紹介をしようとしている。

6 指導と評価の計画(3時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準[評価方法]
一	1	○教師の「自己紹介」と「ともだちしょうかい」(他己紹介)の動画を比較して見る。 ○学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。	・「ともだちしょうかい」には、他者から見た評価が入ること、よさが伝わりやすいこと、より詳しく説明していることに気づけるようにする。	主 進んで聞きたいことを落とさないように集中して聞き、学習の見通しをもって「ともだちしょうかい」をしようとしている。 [発言]
〈学習課題〉 よくきいて、ともだちのことをしょうかいしよう。				
二	2 3	○「ともだちしらべ」をし、聞いたことをメモに取る。 ○聞きたいことを考え、その聞き方のこつを学ぶ。 ○「ともだちしらべ」1回目をする。(1年生の思い出) ○1回目の「ともだちしらべ」の感想を伝え合う。 ○「ともだちしらべ」2回目をする。(できるようになったこと) ○2回目の「ともだちしらべ」の感想を伝え合う。	・笑顔、姿勢、相づちなど聞き方のよさにも着目できるようにする。 ・モデル動画を基に、聞きたいことを聞くためにどのような言葉を使うかを問う。 ・自分が聞きたいことをについて、聞いたことをワークシートにメモできるようにする。 ・話し手に自分の感想を伝えることが、話し手の満足感につながることに気づけるようにする。 ・2回目の「ともだちしらべで」、1回目よりもよく聞けたことを、話し手の意見と共に振り返る。	知 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っている。 [発言] 思 自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 [発言・ワークシート] 思 自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 [発言・ワークシート]
朝の会		○朝の会で「ともだちしょうかい」をする。 ○「ともだちしょうかい」を聞いて感想を伝える。		

7 本時の学習（3／3）

（1）目標

「ともだちしょうかい」の内容について、自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
5	1 前時の学習を振り返る。	○前時で書いた児童の振り返りカードから課題を共有する。	
	よくきいて、もっとしるためにしつもんしよう。		
10	2 モデル動画「ともだちしらべ」を見て振り返り、聞き方のこつを確認する。（教師の実演）	＜視点2＞納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○なぜ、そのモデルの話し方が良いのかモデルを根拠とすることで、納得できる理由づけをしながら話し合うことができるようにする。聞き方のよさ、聞き方のこつ、感想をもつことのよさに気づけるようにする。	動画シナリオ
10	3 「ともだちしらべ」1回目をする。（1年生の思い出）	○自分が聞きたいことについて、聞いたことをワークシートに書くように指示する。	ワークシート
5	4 1回目の「ともだちしらべ」の感想を伝え合う。	＜視点2＞考えを表出し比較する場 ○話し手の児童に質問を受けた時の感想を聞き、話し手の満足度確かめる時間を設定する。話し手による評価から、聞き手が聞きたいことを聞き出せるような聞き方、聞き手側の姿勢、表情、質問などの態度や聞き方のこつについてワークシートに書き、振り返ることができるようにする。	
10	5 「ともだちしらべ」2回目をする。（できるようになったこと）	◆進んで聞きたいことを落とさないように集中して聞き、学習の見通しをもって「ともだちしょうかい」をしようとしている。〔発言〕	
	6 2回目の「ともだちしらべ」の感想を伝え合う。	○2回目の「ともだちしらべで」、1回目よりもよく聞けたことを、話し手の意見と共に振り返る。	
5	7 「ともだちしらべ」について、学習を振り返る。	＜視点1＞立ち止まって振り返る場 ○振り返りカードを活用し、自己の学びを振り返る時間を設定する。振り返りカードには、できるようになったことや気が付いたこと、質問されたときの感想を書くように視点を提示する。指導者が児童の個の変容を捉えるためだけでなく、児童自身が自己評価として、単元を通して学んだことを自覚できるようにする。	
		◆自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。〔発言・ワークシート〕	ワークシート

【2年（書くこと）】

まとまりに分けて、お話を書こう（「お話のさくしゃになろう」）

指導者 作花 詞子（広島市立舟入小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単
元

学びの土台

「こんなもの、見つけたよ」を振り返り、「はじめ」「中」「終わり」の構成で文章をまとめたことを想起できるようにする。また事前に、絵本の読み聞かせなどを行うことで、多様な人物像や物語の展開を考えることができるようにする。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

自分の伝えたいことが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える力。

言語活動

想像して物語を書く

学習課題

三つのまとまりに分けて展開を考え、自分だけのお話を書こう

<立ち止まって振り返る場>

終末に、つくりたい物語に近付けられたかを自己評価する時間を確保し、物語の展開が明確になるような構成にするために、本時で学んだことが何かを振り返ることができるようにする。

<考えを表出し比較する場>

「はじめ」「中」「終わり」に分かれたお話シートや「しつものことば」使って活動することで、つくりたい物語に近づくよう構成を考えながら話し合えるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

「始め」と「終わり」がつながるように、「中」の出来事を考えられているかという視点で見直すことで、構成について納得解を生み出すことができるようにする。

本
時

単元終了時の子供の姿

自分の伝えたいことが明確になるように、事柄を三つのまとまりに分けて配置し、簡単な構成を考えることができる子供。

第2学年4組 国語科学習指導案

指導者 広島市立舟入小学校 作花 詞子

- 1 単元名 まとまりに分けて、お話を書こう
「お話のさくしゃになろう」(光村図書2年)
- 2 学習課題 3つのまとまりに分けて展開を考え、自分だけのお話を書こう。

指導事項 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 B書くこと (1)イ

〔言葉の力〕 自分の伝えたいことが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える力。

〔言語活動〕 想像して物語を書く。

3 単元について

<教材観>

本教材の特徴は次の通りである。

- ・冒頭で、表情豊かな動物と色鮮やかな背景が描かれた絵が示され、想像を膨らませることができる。
- ・想像した事柄をもとに、「始め」「中」「終わり」の3つのまとまりを考えて、文章を書く展開になっている。

以上の特徴から、想像した事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる教材であると言える。構成を考えることで、つくりたい物語の内容をより明確にしていくことが期待される。そのような学びを生み出すために、読み聞かせ会をゴールにした単元を構想する。

<児童観>

これまで「かんさつ名人になろう」「こんなもの、見つけたよ」で経験したことについて簡単な構成を考えて書くことを経験している。そのような学習を通して、文章には「始め」「中」「終わり」の組み立て方があることを理解できるようになってきている。

しかし、自分の考えが明確になるように内容のまとまりや事柄の順序を意識している子供はまだ少ない。

<視点について>

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

第一次においては、これまでに読んできた物語を想起し、物語は「始め」「中」「終わり」のまとまりに分かれていることに気付くことができるようにする。そして、「こんなもの、見つけたよ」で学習した、3つのまとまりに分けて文章を書いた経験を生かし、自分が作者となって物語をつくり、4年生に読み聞かせをするという学習課題を設定していく。

第二次においては、毎時間の終わりに、つくりたい物語に近付くことができたかを自己評価し、自らの学習を振り返る場を設定する。物語の展開が明確になるような構成にするために、その時間に学んだことを1枚の用紙に継続して記入することで自分の努力や成長が感じることができるようにする。

〔視点2〕 共に更新するための工夫

物語の内容をメモに書く際に、「始め」「中」「終わり」に分かれたお話シートを活用する。メモを分けて貼ることで、構成を意識しながら、自分の想像した事柄を表現できるようにする。そして、グループで物語を説明し合う活動を通して、想像した事柄をより具体的にする場を設定する。内容メモを増やしたり、順番を考えたりして、自分のつくりたい物語に近付くよう、構成を見直すことができるようにする。

4 単元の目標

- 身近なことを表す語句の量を増し，文章の中で使うことができる。(知・技)(1)カ
- 想像した事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。B書(1)イ
- 語と語や文と文の続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。B書(1)ウ
- 言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近なことを表す語句の量を増し，文章の中で使っている。	・「書くこと」において想像した事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 ・語と語や文と文の続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	・事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え，学習の見通しをもって，物語を書こうとしている。

6 指導と評価の計画（10時間取り扱い）

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準〔評価方法〕
一	1	○既習の物語教材を振り返る。 ○学習課題を設定し，学習の見通しをもつ。	・物語が「はじめ」「中」「終わり」のまとまりに分かれていることに気付くことができるようにする。 ・どんな物語をつくりたいか，考えることができるようにする。	
〈学習課題〉 三つのまとまりに分けて展開を考え，自分だけのお話を書こう。				
二	2 3 4 5 本時 6	○絵を見て，登場人物の人物像を考える。 ○どんな出来事が起きるかを考える。 ○物語の終わりを考える。 ○物語を友達と説明し合い，物語を具体的にする。	・絵をもとに自由に考えて話せるようにする。 ・他の物語の出来事の例を挙げたり，教科書の挿絵を見たりして，考えるヒントを示す。 ・登場人物がどうなったのか，つくりたい物語になるような結末を考えることができるようにする。 ・物語についての質問の例を示す。 ・内容メモを増やしたり，順番を変えたりする時間を十分にとる。 ・お話シートを毎時間の終わりにタブレット端末で写真に撮り，変化を記録に残す。	主 事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え，学習の見通しをもって，物語を書こうとしている。 [お話シート・振り返り] 思 想像した内容のメモを事柄の順序に沿って三つのまとまりに分けて貼っている。 [お話シート]
三	7 8 9 10	○様子がよく分かるように，書き方を工夫して，文章を書く。 ○4年生に読み聞かせをし，学習をまとめる。	・巻末「ことばのたからばこ」等を活用し，表現を工夫することができるようにする。 ・推敲する目的やポイントが分かるようにする。 ・挿絵を入れ，冊子にする。 ・4年生に感想をもらうことで，自分の作品のよいところに気付くことができるようにする。	知 登場人物の行動や様子を表す語句を選び，文章の中で使っている。[お話] 思 内容のまとまりがわかるように，つながぎ言葉を使っている。 [お話]

7 本時の学習（5／10）

（1）目標

友達と物語について説明し合うことを通して、物語の構成を考えながら、「中」の内容を具体的にすることができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○友達と話し合う場を設けることで、もっと物語が詳しくなるという見通しをもち、対話する必要感をもつことができるようにする。	教師作成の内容メモ
	お話がつながるように、「中」の内ようを見直そう。		
10	2 質問の仕方を知る。	○教師作成の内容メモがつながるように、足りない内容を質問し、グループ活動の仕方を確認する。	質問の言葉の例
15	3 グループで説明と質問をする。	○物語のつながりが足りないところを質問したり、困っているところを相談したりして、「中」の内容を具体的にする。 <u>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場合</u> ○「はじめ」「中」「終わり」に分かれたお話シートや「しゅもんのことば」を使って活動することで、つくりたい物語に近付くよう構成を考えながら話し合えるようにする。	
10	4 お話シートを見直す。	○「中」の内容メモを増やしたり、順番を変えたりして、展開を再考することができるようにする。 <u>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</u> ○「はじめ」と「終わり」をつなぐような、「中」の内容になっているかという視点で見直すことで、構成について納得解を生み出すことができるようにする。 ◆「はじめ」と「終わり」がつながるように、「中」の内容メモを増やしたり順番を変えたりしながらお話シートを見直している。 〔お話シート〕	
5	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○つくりたい物語に近付けられたかを振り返り、次の学習にどのように取り組むか見通しをもてるようにする。 <u>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</u> ○物語の展開が明確になるような構成にするために、本時で学んだことが何かを振り返ることができるようにする。1枚の用紙に継続して記入することで自分の努力や成長が感じることができるようになる。	付箋 お話シート

【2年（読むこと）】

文章の中の重要な語や文を考えて選び、「どうして? どうぶつクイズ」を作ろう（「ビーバーの大工事」）

指導者 北川 翔太（川棚町立石木小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単
元

学びの土台

既習事項から、説明文の読み方について共通理解を図る。また、担任が出題する動物クイズを基に、動物について調べ、「『どうして? どうぶつクイズ』を作る」というゴールを共有する。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

知りたいことを本で調べる力。

言語活動

「どうして? どうぶつクイズ」を作る

学習課題

動物について書かれた本や文章などを読み、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、「どうして? どうぶつクイズ」を作ろう

<立ち止まって振り返る場>

「2年生でも知りたいことは、本で詳しく調べることができる。」「友だちと話し合うことで、クイズの問題を作ることができた。」など、調べ学習の仕方や話し合うことの価値づけを行う。

<考えを表出し比較する場>

視覚的に誰がどの項目でクイズを作っているかを表で理解できるようにし、“※わいわいタイム”で意見交流する相手を選択できるようにする。

※ペアによる意見交流の場

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

“わいわいタイム”の中で、“びっくりポイント（動物の秘密）”や、その理由を明確にしたり、自分の考えに自信をもったり、友達の考えを参考にしたりできるようにする。

本
時

単元終了時の子供の姿

調べ学習の際、図書室で本を選び、図鑑や関連図書の中から知りたい情報を見つけ、学習したことを表現する子供。

第2学年1組 国語科学習指導案

指導者 川棚町立石木小学校 北川 翔太

- 1 単元名 どうぶつの本を読んで、「どうして? どうぶつクイズ」を作ろう
「ビーバーの大工事」(東京書籍2年)
- 2 学習課題 動物について書かれた本や文章などを読み、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、「どうして? どうぶつクイズ」を作ろう。

指導事項 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 C 読むこと (1) ウ

【言葉の力】 知りたいことを本で調べる力。

【言語活動】 「どうして? どうぶつクイズ」を作る。

3 単元について

<教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・ビーバーの巣作りについて、体の構造や機能と関連させて説明がされている。
- ・児童が「ビーバーの大工事」という題名に引きつけられ、ビーバーの「ひみつ」を見つけていくことに興味をもって読み進めることができる。
- ・ビーバーが「木を切り倒し川へ運ぶ」「ダムを作る」「巣を作る」という工程が順序よく説明されている。
- ・文章の最後に巣作りの目的が明記されているため、まとめごとに「ひみつ」を見つけることに取り組みやすい。

以上の特徴から、系統性にも留意しながら、自分の調べたいことについて大事な事柄を選び、順序に気をつけてまとめることができる力を得ることが期待される。そのような学びを生み出すために、『「どうして? どうぶつクイズ」を作る。』という言語活動を核にした単元を構想する。

<児童観>

子どもたちは、これまで1年「いろいろなふね」や2年「たんぼぼ」・「サツマイモのそだて方」で説明文を読んだり、説明文の順序や違いについて読み取ったりする経験をしている。

そのような学習を通して、順序を考えながら文章の内容の大体を捉えることはできるようになっている。しかし、重要な語や文を考えて選び出すことができる子どもはまだ少ない。

<視点について>

【視点1】 学びを自覚するための手立て

第一次においては、導入時に担任が作った「どうして? どうぶつクイズ」を出題し、クイズ作りのイメージをもつことができるようにする。そして、クイズ作りを行うためには、動物の秘密を調べる必要があることを共通理解する。また、これまでの説明文の学習では順序に気をつけて読んだり、写真や図などの資料と文を結びつけて読んだりしていることを確かめる。

第二次においては、授業の導入で「前時で何を学んだか」「今日は何を学習するのか」を確認することで、本時の課題を設定する。また授業の振り返りにおいては、「何がわかった・できたか」「次時にどんな学習をするのか」を確認することで、単元のつながりを意識して授業を展開していく。

【視点2】 共に更新するための工夫

「どうして? どうぶつクイズ」で動物の“びっくりポイント(体、行動、餌、巣)”を読み取る際には、“しらべ方名人の技”を使うことで、読み取る手立てとしていく。また、“わいわいタイム(ペア交流)”で自分の考えを積極的に友だちに伝えたり、自分の考えに自信を持ったり、自分の考えのヒントにしたりすることで、自分の考えが持てるようにしていく。更に、読み取った内容を問い返したり、書かれている内容を推敲したりする活動を繰り返す中で、更に言葉の力を高められるようにしていく。

4 単元目標

- 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技) (2) ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。C 読 (1) ウ
- これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし, 学習の見通しを持って, 進んで文章の中の重要な語や文を考えて選び出し, 動物について書かれた本や文章などを読み, 分かったことなどを紹介しようとする。(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	・「読むこと」において, 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。	・進んで文章の中の重要な語や文を考えて選び出し, 動物について書かれた本や文章などを読み, 分かったことなどを紹介しようとしている。

6 指導と評価の計画 (14 時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○担任が出題する「どうして? どうぶつクイズ」を解く活動を通して, 学習の見通しをもつ。	・身近な動物でも子ども達が知らない内容のクイズを出題することで, 「どうして? どうぶつクイズ」に関心を寄せることができるようにする。 ・関連図書を準備し, 児童らが事前に読めるようにする。	
	2	<学習課題> 動物について書かれた本や文章などを読み, 文章の中の重要な語や文を考えて選び出し, 「どうして? どうぶつクイズ」を作ろう。 ○学習課題解決のために必要な既習内容や必要な力について確認をし, 学習計画を立てる。		
二	3	○ビーバーがどうやってダムを作るのか確かめる。 ○ビーバーがどうしてダムを作ることができるのか確かめる。 ○ビーバーの巣の作り方と目的をまとめる。 ○「どうして? ビーバークイズ」を作る。	・「説明の順序」等の既習内容について壁面掲示 (学習の足跡) を活用できるようにする。 ・教科書の内容を通読し, ビーバーの大工事の概要をつかめるようにする。	[知] ダム作りの順序や巣作りとの相違点について, 理解している。 [ワークシート] [思] ビーバーの体の特徴や, ダムを作る理由を読み取っている。 [どうして? ビーバークイズ]
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
三	13	○作ったクイズを 1 年生に出題したり, 全校に紹介したりして, 単元の振り返りを行う。	・関連図書にある動物のびっくりポイントを読み取り, 関係する資料を見ついたり, 文をワークシートに書かせたり, 話し合ったりできるようにする。 ・クイズの文章や内容を推敲する。	[主] 学習を通して, 進んでびっくりポイントを発見し, クイズ作りに取り組んでいる。[ノート・発言] [思] ビックリポイントを資料から読み取っている。 [どうして? どうぶつクイズ]
	14			

7 本時の学習（11／14）

（1）目標

大事な言葉や文を図鑑や本から探したり、友だちと話し合い、問題を推敲したりする活動を通して、「どうして？ どうぶつクイズ」の問題を作ることができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価 [方法]	備考
7	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○単元計画と前時の学習の振り返りから、「動物のびっくりポイントを見つけて、その秘密をクイズにする」という認識を共有し、本時の課題とする。	単元計画
どうぶつのびっくりポイントを見つけて、クイズを考えよう。			
23	2 資料の中から動物の“びっくりポイント”を選び、「どうして？ どうぶつクイズ」の問題文と答えを考える。	○事前に“びっくりポイント”の付箋を貼っておいた資料の中から、クイズに出す箇所を選ぶようにする。 ○資料の“びっくりポイント”を基に、ワークシートにクイズの問題と答えを記入するようにする。	副読本 ワークシート
	3 「どうして？ どうぶつクイズ」をペアで検討する。 (わいわいタイム)	<視点2-①>考えを表出し比較する場合 ○表にどの“びっくりポイント”についてクイズを作っているかを表すことで、視覚的に誰がどの項目でクイズを作っているか理解できるようにし、“わいわいタイム”で意見交流する相手を選択できるようにする。 ○わいわいタイムは随時行い、児童が話し合いをしたタイミングで行う。 ○話し合う相手を選び、問題文や答えの検討を行わせる。その際、選んだ秘密の理由を問い返したり、検討の中で文章を書き直したりできるようにする。 <視点2-②>納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○わいわいタイムの中で、“びっくりポイント”や、その理由を明確にしたり、自分の考えに自信を持ったり、友達の考えを参考にしたりできるようにする。 ○自分の考えに納得できた児童は、タブレット端末で、教師機へ資料とワークシートの画像を送る。 ◆“びっくりポイント”を資料から読み取り、「どうして？ どうぶつクイズ」の問題を作ることができる。 [発言・ワークシート]	タブレット端末
10	4 全体で「どうして？ どうぶつクイズ」の問題を確認する。	○教師機へ送られたデータ（資料・ワークシート）を基に、資料のどこを読み取ってクイズを作ったかを全体に発表できるようにする。	電子黒板
5	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○本時と学習内容の振り返りを行い、次時に今日学習した内容を基に、タブレット端末を使ってクイズ作りを行うことを確認する。	単元計画
		<視点1-③>立ち止まって振り返る場 ○「知りたいことは、本で詳しく調べることができる。」「友達と話し合うことで、クイズの問題を作ることができた。」など、調べ学習の仕方や話し合うことの価値づけを行う。	

【3年（話すこと・聞くこと）】

話の中心が伝わるように、好きな時間を話そう（「話したいな、わたしの好きな時間」）

指導者 佐藤 健一（宮崎大学教育学部附属小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

2年単元「好きな場しよを教えよう」を取り上げ、「始め-中-終わり」、「始めて話すことを伝える」、「理由が伝わるように話すことを選ぶ」といった既習を確認し、全員に想起させることで、既習を基に、既習と本単元との相違点を捉え、学びのつながりを自覚したうえで本単元の学習に取り組むことができるようにする。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

話の中心が伝わるように話す力。

言語活動

「好きな時間」を話す

学習課題

話の中心が伝わるように話を組み立て、「好きな時間」を話そう

<立ち止まって振り返る場>

短冊の並べ方に変容があったかを確認した後、話の中心の配置について、既習の物語文の登場人物に何とアドバイスするかをペアで話し合わせる。それにより、本時の学びを実感したり言葉の力を自覚したりできるようにする。

<考えを表出し比較する場>

タブレット端末で考えを提出した後、各自の短冊の配置や順序、色等を比較させることで、自他の考えの共通点や相違点に気付くことができるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

冒頭部や展開部に提示した内容と異なる終結部の文章を提示し、その是非を問い、理由を説明させることで、結論がずれない話の構成を理解することができるようにする。

本時

単元終了時の子供の姿

話の中心が明確になるように話の構成を考えて、自分の伝えたいことを話することができる子供。

第3学年3組 国語科学習指導案

指導者 宮崎大学教育学部附属小学校

佐藤 健一

- 1 単元名 話の中心が伝わるように、好きな時間を話そう
「話したいな、わたしの好きな時間」（東京書籍3年）
- 2 学習課題 話の中心が伝わるように話を組み立て、「好きな時間」を話そう。

指導事項 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。A 話すこと・聞くこと（1）イ

〔言葉の力〕 話の中心が伝わるように話す力。

〔言語活動〕 「好きな時間」を話す。

3 単元について

＜教材観＞

本題材は、自分の好きな時間について、話の中心が伝わるように話すという設定になっている。「話す材料を集める」、「話すことを選んで組み立てる」、「話す練習をする」、「みんなの前で話す」といった展開で構成されている。話の中心を決めるための書き出しメモや、それを基にしたスピーチが例示され、冒頭部や結論部で話の中心を述べたり、相手のことを踏まえて理由や事例を選んだりすること等を学ぶことができる。

そのため、伝えたいことが相手に分かりやすいように話の構成を考えるという学習に適している。そこで、『「好きな時間」を話す』という言語活動をとおして、相手に伝わるように、理由や事例等を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えられるようにする。

＜児童観＞

本学級の子どもは、前学年において、「始め-中-終わり」、「始めて話すことを伝える」、「理由が伝わるように話すことを選ぶ」等、必要な情報を選んだり、事柄の順序を考えたりして話す学習を行っている。

そのような学習を通して、自分の伝えたいことを相手に伝えるためには、順序が大切であることを意識できるようになっている。一方で、「中」の内容については、想像が十分に広がらなかったり、表現や分量に個人差が見られたりする。

＜視点について＞

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

第一次では、2年単元「好きな場所を教えよう」を取り上げ、「始め-中-終わり」、「始めて話すことを伝える」、「理由が伝わるように話すことを選ぶ」といった既習を確認し、全員に想起させることで、それらを基に既習と本単元との相違点を捉え、学びのつながりを自覚することができるようにする。また、既習の物語文を使った本単元の場合設定や、書き出しメモの特徴を確認することで、単元のゴールイメージや学習課題をもつことができるようにする。

第二次では、毎時間の終末に、本時の始めと終わりの自分の考えを比較し、変容の有無を確認させることで、本時の学びを実感したり、言葉の力を自覚したりして学びの価値を自覚することができるようにする。

第三次では、タブレット端末を使ったアンケートにより、これまでの学びをふりかえったり、身に付けた言葉の力が日常生活のどのような場面等で生かせそうかを言語化したりさせることで、話の中心が伝わるように話すことができるようになっていることを実感し、学んだことを日常生活につなげる意欲や意識を高められるようにする。

〔視点2〕 共に更新するための工夫

第二次では、書き出しや構成のメモを作成する際、タブレット端末によるピラミッドチャートやフィッシュボーンズの思考ツールを活用し、提出した各自の考えを配置や順序、色等の視点で比較させることで、思考を可視化し、自他の考えの共通点や相違点に気付けるようにする。また、本単元で重要となる本時では、冒頭部や展開部に提示した内容と異なる終結部の文章を提示し、是非を問い、理由を説明し、話し合わせることで、結論がずれない話の構成を理解できるようにする。

4 単元の目標

- 相手を見て話したり聞いたりすることができる。 (知・技)(1)イ
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話の中で使うことができる。 (知・技)(1)オ
- 相手に伝わるように、理由や事例等を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。 A話・聞(1)イ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 聞き手の反応を見ながら話したり、反応を話し手に示しながら聞いたりしている。 - 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話の中で使っている。	相手のことを踏まえて理由や事例を選んだり、伝えたいことの中心が聞き手に分かりやすくなるよう話の構成を考えたりしている。	学習課題に沿って、話の中心が明確になるように話の構成を考え、繰り返し話す練習をして話そうとしている。

6 指導と評価の計画（7時間取り扱い）

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準〔評価方法〕
一	1	○ 単元のめあてを設定し、学習の見通しをもつ。	・既習の物語文を使った本単元の場面設定や、書き出しメモの特徴を確認することで、単元のゴールイメージをもてるようにする。	
		〈学習課題〉 話の中心が伝わるように話を組み立て、「好きな時間」を話そう。		
二	2 3 4	○ 単元のゴール『『すきな時間』を話す』に向けた自分のめあてを立てる。	・単元のゴールに向けためあてを立てさせることで、本単元の目的意識を明確にし、適宜、学びを捉え直す意識をもてるようにする。	
		○ 話す材料を集め、書き出しメモに書き出す。	・思考ツールを使って話す材料を書き出しメモに書き出させることで、話すことを可視化し、話の中心を決められるようにする。 ・気持ちを表す言葉を他の言葉でも表せないか考え、修正させることで、話のなかで使いながら語彙を豊かにできるようにする。	知 気持ちを表す言葉を複数考え、そのなかで適切なものを選択し、話のなかで使っている。 〔書き出しメモ〕
三	5 本時	○ 構成メモで話の構成を考える。	・タブレット端末上の短冊を並べ替えさせることで、好きな時間が聞き手に伝わる話の構成を考えることができるようにする。	思 話の中心が明確になるように、構成メモを考えている。 〔構成メモ〕
		○ 話の構成を基に原稿を考え、発表をタブレット端末に録画する。	・オンライン始業式等の代表挨拶を想起させ、視線を意識して録画させることで、対面で話す際にも視線を意識して話せるようにする。	知 視線について声を掛け合いながら、話す様子を録画している。 〔タブレット端末の動画〕
三	7	○ 撮影した動画を視聴し合った後、本単元の学習を振り返る。	・「すきな時間」を視聴し合い、タブレット端末を使ってこれまでの学びを振り返らせる。そうすることで、本単元の学びの実感と言葉の力の自覚につなげられるようにする。	主 終末で撮影した動画を視聴し、話の中心が明確になっていることを実感し、日常生活につなげようとしている。 〔振り返り〕

7 本時の学習（5／7）

（1）目標

短冊化した書き出しメモの並べ替えを基に、聞き手に分かりやすい構成について話し合うことを通して、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
10	1 本時の学習について話し合う。	○自分が既習の物語「すいせんのラッパ」の蟻であり、話の中心が伝わるように物語の出来事を仲間に話すという場面設定を確認することで、相手意識や目的意識をもてるようにする。 ○短冊化した書き出しメモを提示し、話の中心（好きな理由）を「始め－中－終わり」のどこに置くかを問い、ペアで話し合わせることで、問題意識へとつなげられるようにする。	短冊化した書き出しメモ
話の中心は、どこに置けばよいのだろう。			
7	2 学習の見通しと考えをもつ。	○タブレット端末による活動の流れを確認した後、教師が配信した共通の短冊を端末上で並べ替えさせることで、聞き手に分かりやすい話の構成について考えをもてるようにする。	タブレット端末
18	3 共通の短冊で、好きな時間が聞き手に分かりやすい話の構成について考え、話し合う。	＜視点2－①＞考えを表出し比較する場 ○タブレット端末で考えを提出した後、各自の短冊の配置や順序、色等を比較させることで、自他の考えの共通点や相違点に気付くことができるようにする。 ＜視点2－②＞納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○冒頭部や展開部に提示した内容と異なる終結部の文章を提示し、是非を問い、理由を説明させることで、結論がずれない話の構成を理解することができるようにする。	結論のずれた終結部の文章
5	4 前時に作成した自分の短冊で、好きな時間が聞き手に分かりやすい話の構成を考える。	◆好きな時間が聞き手に分かりやすいように、前時に作成した自分の短冊を並べ替えている。 〔タブレット端末上の構成メモ〕 ○終結部への短冊の追加を確認し、各自の話の中心が伝わるようにタブレット端末上の短冊を並べ替えさせることで、話の中心が明確になる話の構成を考えられるようにする。	構成メモ 終結部に追加した短冊
5	5 本時の学習を振り返る。	＜視点1－③＞立ち止まって振り返る場 ○短冊の並べ方に変容があったかを確認した後、話の中心の配置について、登場人物の蟻に何とアドバイスするかをペアで話し合わせる。それにより、本時の学びを実感したり言葉の力を自覚したりできるようにする。	

【４年（書くこと）】

理由や例を示して、よさが伝わるリーフレットを作ろう（「伝統工芸のよさを伝えよう」）

指導者 杉本 竜也（福津市立神興東小学校）

視点１ 学びを自覚するための手立て

視点２ 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

伝統工芸を自分で選択し、自分が伝えたいと思ったことや調べたことを分かりやすく伝えることができるようになるという学習の見通しをもたせる。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

調べたことを整理し、読み手に分かりやすいように、自分の考えと理由や事例を関連付けながら、資料を用いた紹介する文章を書く力。

言語活動

伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作る

学習課題

伝えたいと思った伝統工芸のよさが伝わるようにリーフレットにまとめよう

<立ち止まって振り返る場>

毎時間の自らの学びについて、自分が書いている文章にコメントする形で記述しながら、前回までの自分との考えの変容を自覚する場を設定する。

<考えを表出し比較する場>

自分が伝えたいことが何か、その理由や例示として示そうとしているものが適切かどうか話し合う活動を通して、よりよい書き表し方を追求することができるように、友達の構想段階でのメモを見合い、助言し合う場を設定する。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

書き上げられた文章だけを読んで判断するのではなく、それまでの過程からどのように書き表していったのかを友達と共有し、書き表し方に対する助言をし合う環境を整えることで納得解を生み出すことができるようにする。

本時

単元終了時の子供の姿

伝えたいことを読者の立場に立って分かりやすく伝えるためには、どのような書き表し方の工夫が必要なのか考えて表現する子供。

第4学年1組 国語科学習指導案

指導者 福津市立神興東小学校 杉本 竜也

1 単元名 伝統工芸のよさを伝えよう (光村図書4下)

2 学習課題 伝統工芸のよさが伝わるようにリーフレットにまとめよう。

指導事項 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 B書くこと (1)ウ

〔言葉の力〕 読み手に分かりやすいように、自分の考えと理由や事例を関連付けながら、資料を用いた紹介する文章を書く力。

〔言語活動〕 伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作る。

3 単元について

＜教材観＞

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・ 百科事典やインターネットを活用して、調べたことをまとめてリーフレットに書く活動である。
- ・ 自分が感じたよさを伝えるために、理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

以上の特徴から、調べたことから自分が伝えたいことを整理し、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫して書くことができる教材である。

そのような学びを生み出すために、伝統工芸について伝えたいことをよさとしてまとめたリーフレットを作ろうという言語活動を核にした単元を構成する。

＜児童観＞

子供たちは、これまでに自分の経験したことや意見を書くことはできるようになっている。しかし、読み手を意識してよりよく伝えるために文章表現の適切さを検討したり、資料を選択したりするまでには至っていない。相手の立場に立って物事を考えられるようになるこの期に、リーフレットにまとめる活動を通して、自分が何をどのように伝えていきたいのか振り返りながら、読み手に分かりやすいように書く姿が期待できる。

＜視点について＞

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

単元の導入段階に、さまざまな伝統工芸について調べる活動を通して、子供が他者に伝えたいと感じたものや、興味をもったものを選択できるようにし、学びの土台をつくる。次に、学習課題として、リーフレットでよさを伝えるという言語活動を設定し、どのようなリーフレットにしたいのか、子どもの思いを大切にしながら、伝えたいと感じたことや興味をもったことをよさとして発信していくことを共通理解する。そして、毎時間の学習はタブレット端末を用いて、自らの学びについて、自分自身でコメントを記述していくことで学びの自覚化を促していく。その時間の進捗状況について自分で客観的に振り返ったり、自分の考えがどのように変容していったのかを自覚したりしながら学習を進めていくことができるようにする。また、単元全体を通してふり返りの場を単元終末段階に位置付け、子供が何を学んだのか整理・分析したり、毎時間の振り返りを友達と共有したりすることができるようにする。

〔視点2〕 共に更新するための工夫

子供が自分の考えを表出し、比較することができるように、自分が関心をもったことを、どのようなよさとして伝えたいと考えているのか、構想段階でのメモを作成できるようにする。そのメモを基に、自分が書き表したいことを整理しながら文章に書き変えていく活動の中で、友達から読者の視点でよさが伝わっているかどうか助言することができるようにする。書き上げられた文章を読み合うだけでなく、それまでの過程を共有することで、伝えたいよさとどうしてそのように思ったのかという理由がつながっているかを対話しながら確かめることができるようにする。

4 単元の見目標

- 比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。(知・技)(2)イ
- 幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報をえることに役立つことに気付くことができる。(知・技)(3)オ
- 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫することができる。B書(1)ウ
- 粘り強く，書き表し方を工夫し，学習の見通しをもって伝統工芸のよさを伝える文章を書こうとしている。(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・事典の使い方を理解し使っている。 ・幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	・「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。	・進んで自分の考えとそれを支える理由や事例との関係の書き表し方を工夫しようとし，学習の見通しをもって，調べて分かったことなどをまとめて書こうとしている。

6 指導と評価の計画（9時間取り扱い）

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準〔評価方法〕
一	1	○学習の見通しについて話し合い，よさを伝えたい伝統工芸を決める。	・百科事典を用意し，自分が興味をもった伝統工芸について調べることができるようにする。	
		〈学習課題〉 伝統工芸のよさが伝わるようにリーフレットにまとめよう。		
	2 3	○伝えたい内容を整理しメモとして書き表す。	・伝えたい内容を分類・整理しながらメモすることができるようにタブレット端末を用意する。	
二	4	○組み立てや資料の使い方を考え，構成について話し合う。	・どのような組み立てにすると分かりやすいか話し合うことができるように構成のモデルとなるリーフレットを提示する。	知 事典の使い方を理解し，必要な情報を引用している。 [スライド・発言] 知 知識や情報を得る方法に気付いている。 [スライド・発言] 思 伝えたいことが伝わるように書き表し方を工夫している。 [スライド・記述]
	5 6 本時	○よさと何がいのか理由を明確にして説明する文章を書く。	・タブレット端末を活用して，具体的にどのようにリーフレットの文章を書きあげていくのか過程を記録することができるようにする。	
	7	○伝えたいことが伝わるようになっているか友達と伝え合う。	・書き手の視点と読み手の視点について確認をして，両方の視点から伝えたいことが伝わるリーフレットになっているか話し合うことができるようにする。	
三	8	○リーフレットのよいところを友達と伝え合う。	・友達と読み合って見つけたよさを分類・整理しながら板書にまとめる。	主 これまでの学習を生かし，進んで自分や友達の文章をよさを見付けたり，文章を書く上で大切なことを伝えようとしたりしている。 [コメント・発言]
	9	○他者に説明したり紹介したりする文章を書く上で大切なポイントを話し合う。	・文章を書く上で大切だと気付いたことを出し合うことができるようにタブレット端末上で視点を提示する。	

7 本時の学習（6／9）

（１）目標

理由や例示として示そうとしているものが適切かどうか話し合う活動を通して、伝えたいよさとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書き表すことができる。

（２）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
7	1 前時の学習をふり返し、本時の学習の見通しについて話し合う。	○本時で学習することの見通しをもつことができるようにするために、前時のふり返りの記述を見直したり、単元計画を基に友達と話し合ったりする場を設定する。 〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場 ○スライドに蓄積してきたことを基に自分の現在地を確かめる場を設定する。	単元計画 タブレット端末
伝統工芸のよさが伝わるような文章の書き表し方について話し合おう。			
10	2 自分のメモを基に、伝えたいよさとその理由や事例の関係性について話し合う。	○伝えたいことと事例の関係性について理解することができるようにするために、不適切な事例を用いたモデルを提示する。 〈視点2-①〉考えを表出し比較する場 ○自分が伝えたいことが何か、その理由や例示として示そうとしているものが適切かどうか話し合う活動を通して、よりよい書き表し方を追求することができるように、友達の構想段階でのメモを見合い、助言し合う場を設定する。	モデル文
20	3 伝えたいよさが伝わるようにリーフレットの文章を書き表す。	○自分の文章がどのような変化していくのか変容を記録しふり返ることができるように、タブレット端末上で前の時間までのスライドをコピーし活用していくことができるようにする。 ○自分で学習進度を調整することができるようにするために、活動で区切らずに活動時間を設定する。 〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○書き上げられた文章だけを読んで判断するのではなく、それまでの過程からどのように書き表していったのかを友達と共有し、書き表し方に対する助言をし合う環境を整えることで納得解を生み出すことができるようにする。	タブレット端末
8	4 めあてを基に本時で学んだことについて話し合う。	○リーフレットを作成しながら気付いた相手に分かりやすく伝えるために大切なことについて自分のスライドにコメントとして記録することができるようにする。 ◆自分がメモしていたものを基にどのような工夫をして文章に書き表したのかふり返りを記述している。 〔スライド・発言〕	

【4年（読むこと）】

中心となる語や文をつなげ要約し「大分の伝統工芸のひみつカード」を作ろう（「世界にほこる和紙」）

指導者 成松 千穂（臼杵市立南野津小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

「要約するとき」で、繰り返し出てくる言葉や、形式段落の中心となる語や文に気をつけてまとめたことを思い起こすことができるようにする。要約することで、相手に短時間で内容を伝えることができる要約のよさに気付かせる。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

中心となる語や文をつなげ、目的に合った文量に要約する力。

言語活動

「大分の伝統工芸のひみつカード」を作る

学習課題

中心となる語や文をつなげ要約し「大分の伝統工芸のひみつカード」を作って、南野津小のみんなに紹介しよう

<立ち止まって振り返る場>

本時で学んだことや、自分が選んだ「大分の伝統工芸」の資料の要約カードをつくる時に生かせることを振り返ることで、次時の学習の見通しをもてるようにする。

<考えを表出し比較する場>

1枚につなげた教材文に線を引かせることで、段落のまとまりや個々の考えの違いに目を向けやすくする。

言葉による 見方・考え方を 働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

根拠を明確にしながら中心となる語を検討させることで、段落の役割やまとまりに着目できるようにする。また、要約の目的に立ち返り、具体的な事例をまとめる抽象化された中心となる語を探し納得解を導けるようにする。

本時

単元終了時の子供の姿

中心となる語や文を見つけて要約する活動に進んで取り組み、相手にとってわかりやすい文量や文章に要約することができる子供。

第4学年1組 国語科学習指導案

指導者 臼杵市立南野津小学校 成松 千穂

- 1 単元名 中心となる語や文をつなげ要約し「大分の伝統工芸のひみつカード」を作ろう 「世界にほこる和紙」(光村図書4年)
- 2 学習課題 中心となる語や文をつなげ要約し、「大分の伝統工芸のひみつカード」を作って、南野津小のみんなに紹介しよう。

指導事項 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。
C読むこと(1)ウ

【言葉の力】 中心となる語や文をつなげ、目的に合った文量に要約する力。

【言語活動】 「大分の伝統工芸のひみつカード」を作る。

3 単元について

<教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・「まず」「もう一つ」「このように」などの接続語によって、文章全体の構成が捉えやすくなっている。
- ・「和紙」「やぶれにくい」「長もちする」「気持ち」といった語が繰り返し出てくるため、中心となる語や文を捉えやすくなっている。
- ・形式段落が10段落あるため、形式段落の要点をつなげただけでは、要約文が長すぎることから、より短く要約する必然性が生まれる。そこで、要約文をカードにして作るという言語活動を核にした単元を構想する。

<児童観>

子供たちは、これまで4年「要約するとき」で繰り返し出てくる言葉や、形式段落の中心となる語や文に気をつけてまとめることを経験している。

これらの学習を通して、形式段落の要点をつなげて要約することはできるようになっている。しかし、段落の役割やまとまりの関係に着目して、より短い文章に要約したり、文と文のつながりを意識して整った文章を書いたりする子供はまだ少ない。

<視点について>

【視点1】 学びを自覚するための手立て

第一次においては、既習教材の「要約するとき」を思い出ししながら、繰り返し出てくる言葉や、中心となる語や文に気をつけて形式段落をまとめたことを確かめる。また、要約することで、相手に短時間で内容を伝えることができたり、長文が苦手な人にとっても読みやすかったりするなど、要約することのよさを共有することで、これまでの学びと本単元での学びがどのようにつながっているかを自覚できるようにしていく。さらに、「大分の伝統工芸のひみつカード」を作るために必要な視点や考え方について、子供同士で話し合わせながら、上記のような学習課題を設定していく。

第二次においては、「本時で何を学んだのか」「それは、今後の学習にどのように生かすことができるか」の視点で、自らの学びを振り返る場を設定する。また、前時の振り返りを次時のめあてへとつなげたり、自分の「大分の伝統工芸のひみつカード」に生かしたりできるようにする。

【視点2】 共に更新するための工夫

筆者が和紙を使ってほしい理由につながる中心となる語を見つける際に、1枚につなげた教材文に線を引かせることで、段落や個々の考えの違いに目を向けやすくする。さらに、根拠を明確にしながら中心となる語を検討させることで、段落の役割やまとまりに着目できるようにする。また、具体的な事例を挙げさせ、要約の目的に立ち返らせることで、それらをまとめる抽象化された中心となる語を探し、納得解を導けるようにする。

4 単元の目標

- 全体と中心など情報と情報との関係について理解できる。 (知・技) (2) ア
- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 C 読 (1) ウ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	・ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。	・ 段落の役割について理解し、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する活動に進んで取り組む中で、学習課題に沿って考えをまとめながら、自らの学習を調整しようとしている。

6 指導と評価の計画 (6 時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○ 伝統工芸について関心を持つ。	・ 伝統工芸品の実物や写真などを提示し、知っていることや感じたことなどを交流できるようにする。	
		〈学習課題〉 中心となる語や文をつなげ要約し「大分の伝統工芸のひみつカード」を作って、南野小のみんなに紹介しよう。		
二	2 3 4 5 本時	○ 既習事項を振り返りながら、学習課題達成のために必要な解決すべきことを話し合う。	・ 要約のやり方を振り返り、既習のやり方より、短く要約することに目を向けさせ、課題につなげていく。	
		○ 教師が作成した要約カードから、要約の仕方を考える。 ○ 「大分の伝統工芸」の資料を読む。 ○ 「大分の伝統工芸」の資料を読み、筆者の伝えたいことを中心に要約する。	・ 要約カードの文が教科書のどこに対応するか、線で囲ませ、意味段落を要約していることに気づくようにする。 ・ 段落構成や中心となる語や文に着目しながら資料を読む時間を与え、学びを自覚できるようにする。 ・ 「大分の伝統工芸」の資料を基に、それぞれの伝統工芸について、筆者が伝えたいことを読み取ることができるようにする。	知 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 [発言・教材文] 思 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 [発言・ワークシート]
三	6	○ 要約カードをお互いに読み合い、感想を伝え合う。	・ 筆者の考えやその理由を視点に聞き合うように指導し、自他の働かせた見方・考え方について共有できるようにする。	主 中心となる語や文を見つけて要約する活動に進んで取り組み、自らの学習を引き続き調整しようとしている。 [振り返り]

7 本時の学習（3／6）

（1）目標

200字程度の要約文を書くことを意識して、中心となる語や文を見付ける活動を通して、筆者が和紙を使ってほしい理由が述べられた段落を要約することができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○教師が作成した要約カードに理由を入れた方が、より相手に伝わる要約文になりそうだという前時の見通しを想起させ、課題につなげる。	教師が作成した要約カード1枚につなげた教材文
20	2 理由につながる中心となる語を探す。	○第3～9段落に理由が述べられていることを確認し、理由につながる中心となる語に線を引かせ、全体で共有する。 <u>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場合</u> ○1枚につなげた教材文に線を引かせることで、段落のまとまりや個々の考えの違いに目を向けやすくする。 <u>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</u> ○根拠を明確にしながら中心となる語を検討させることで、段落の役割やまとまりに着目できるようにする。また、具体的な事例を挙げさせ、要約の目的に立ち返らせることで、それらをまとめる抽象化された中心となる語を探し、納得解を導けるようにする。	
10	3 中心となる語を使って、理由の文を書く。	○見つけた中心となる語を使って、文字数に合わせて、理由の文を書く。 ◆要約文に必要な語や文を見つけ、要約している。	ワークシート
10	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	〔発言・ノート〕 <u>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</u> ○本時で学んだことや、自分が選んだ「大分の伝統工芸」の資料の要約カードを作る時に生かせることを振り返ることで、次時の学習の見通しをもてるようにする。	「大分の伝統工芸」の資料

【5年（書くこと）】

自分の考えが伝わる「なるほどレポート」を書こう（「グラフや表を用いて書こう」）

指導者 藤田 沙織（甲佐町立龍野小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

「固有種が教えてくれること」で学んだ筆者の説明の工夫を振り返り、伝えたいことを表現するときは、読み手を意識した説明の工夫を活用することが効果的であるという必要感をもって活動に臨めるようにする。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

資料から分かることや資料を基に伝えたいことを、相手に伝わるように書き表し方を工夫して書く力

言語活動

「なるほどレポート」を書く

学習課題

今泉さんの説明の工夫を生かして、自分の考えが伝わる「なるほどレポート」を書こう

<立ち止まって振り返る場>

提示文を検討する際、筆者の書き方の工夫を振り返り、どの説明のポイントが使えるか全体で確認することで、見通しをもって書き直すことにつなげる。

<考えを表出し比較する場>

資料と文章を赤線でつないだり、班同士の書き方の違いに注目させたりすることで、より納得する文はどれか比べながら検討できるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

班や全体での話し合いを通して、「自分の文章は筆者の書き方の工夫を生かしているか」、「資料と関係付けた説得力ある内容になっているか」等について見直す姿を価値づけることで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

本時

単元終了時の子供の姿

自分の考えを伝えるために効果的な資料を選んだり、資料から分かることと自分の考えを関係付けたりしながら、粘り強く論の構成や書き方の工夫を捉え直し、学んだことを活用しながら自分の考えを書き表すことができる子供。

第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 甲佐町立龍野小学校

藤田 沙織

1 単元名 自分の考えが伝わる「なるほどレポート」を書こう

「固有種が教えてくれること」、「グラフや表を用いて書こう」（光村図書5年）

2 学習課題 今泉さんの説明の工夫を生かして、自分の考えが伝わる「なるほどレポート」を書こう。

指導事項 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 B書くこと（1）エ

【言葉の力】 資料から分かることや資料を基に伝えたいことを、相手に伝わるように書き表し方を工夫して書く力。

【言語活動】 「なるほどレポート」を書く。

3 単元について

<教材観>

本単元は「読むこと」と「書くこと」の複合単元であり、本教材の特徴は次の通りである。

- ・説明文教材で学んだ書き方の工夫を生かして自分の意見文を書く活動である。
- ・自分の考えに説得力をもたせるために、資料の選択や情報の読み取り方、情報と文章との関係付け方について捉え直すことができる。

以上の特徴から、筆者の書き方の工夫（双括型の構成、読み手を引き付ける表現の工夫、複数資料の提示）が、実際に自分の文章にどのように生かすことができるか検討しながら文章を書くことができる教材である。

このような学びにつなぐため、自分の考えが伝わるような「なるほどレポートを書く」という言語活動を核にした単元を構想する。

<児童観>

子供たちは、1学期「みんなが過ごしやすい町へ」で報告書の基本的な構成を学び、役場の方に向けて写真を基に説明する文章を書くという経験を積んでいる。

このような学習を通して、図を基に伝えたいことを説明することは概ねできている。よって本単元では、筆者の書き方の工夫を活用し、自分の主張を伝えるために資料等と関連付けて説明することや、構成を意識して書くことのよさを実感できるような学習を積み重ねていく必要がある。

<視点について>

【視点1】 学びを自覚するための手立て

第一次では、「社会はくらしやすい方向に向かっているか」というテーマで一つの資料と関係付けたレポートを実際書き、書き方の課題や疑問を児童自身が出し合えるようにする。また、児童が作成する「なるほどレポート」は甲佐町役場に展示することを伝え、活動への意欲や書くことへの相手意識をもてるようにする。

第二次では、筆者の書き方の工夫やよさを繰り返し確認することで、「自分たちの文章に使える」という活用することへの見通しがもてるようにする。さらに、工夫を取り入れた児童の文章を取り上げ、どんな効果があるか、筆者の工夫のどこにつながるか問い返すことで、学んだことを活用するという意識を高められるようにする。また、推敲する際に、それぞれの考えのよさを児童同士が伝え合ったり教師が価値付けたりすることで、一人一人が自らの学びを自覚できるようにする。

【視点2】 共に更新するための工夫

本論を書く際は、まず、資料と自分の考えを関係付ける書き方の工夫を班や全体で確認した後自分の文章を実際書いていく。このような学習過程を経ることで、自分の文章に書き方の工夫が活用できているか自覚し、納得して書けるようにしたい。

また、レポートを推敲する際は、ペアや班による少人数の交流を複数回設け、「なぜこの表現の工夫を使ったのか」「もっと分かりやすい資料の説明の仕方はないか」など、一人では気付けない見方ができるようにする。

4 単元目標

- 情報と情報との関係付けのしかた，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
(知・技)(2)イ
- 表やグラフを用いて，書き方の工夫を生かしながら，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
B書(1)エ
- 自分の考えを伝えるために，これまでの学習を生かして見通しをもって取り組み，粘り強く文章を推敲して書こうとする。
(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使っている。	・ 「書くこと」において，引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	・ 文章全体の構成や展開を粘り強く考え，学習の見通しをもって資料を説明する文章を書こうとしている。

6 指導と評価の計画（12時間取り扱い）

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準〔評価方法〕
一	1	○ 資料を基に意見文を書き，単元の見通しをもつ。	・ 意見文を書いてみての疑問等を出し合い，課題意識がもてるようにする。 ・ 作成物は甲佐町役場に掲示することを伝え，相手意識と必要感につなぐ。	
〈学習課題〉 今泉さんの説明の工夫を生かして，自分の考えが伝わる「なるほどレポート」を書こう。				
二	2	○ 教材文を読み，感想を書く。	・ 資料を切り離して読み，どの段落と関係付ける必要があるか，その際に効果的な表現の工夫は何かについて，主体的に読み進めていけるようにする。	〔知〕 資料から読み取った事実や意見を区別して書き出している。 〔シート，発表〕 〔思〕 書き方の工夫を用いて文章を書いている。 〔シート，発表〕
	3	○ 資料と文との適切な組み合わせを考える。	・ 論を構成する形式や内容を検討し，説得力ある文章構成について自分なりの納得解を生み出せるようにする。	
	4	○ 書き方の工夫や論の構成を検討する。	・ 考えをまとめる際，事実と意見が区別できているか振り返りながら書き進めるようにする。	
	5	○ 筆者の考えに対する自分の考えを書く。	【テーマ：社会はくらしやすい方向に向かっている？】	
	6	○ 資料を選び，情報を整理する。	・ 自分の主張と資料の情報が関係しているかという視点で資料を選ぶよう促す。	
	7	○ 資料の注目点を決め，「序論」の段落を作成する	・ 特に注目したい点を資料に赤で書き込むことで，伝えたいことを明確にして序論を書くことができるようにする。	
	8	○ 「本論」の段落を検討する。	・ 共通資料を用い，班や全体で書き方を検討することで，実際に自分の本論を書く際に説明のポイントを活用して取り組めるようにする。	
	9	○ 「本論」「結論」を作成する。	・ 自分の考えが伝わる論の構成になっているか確認しながら書き進める。	
	10	○ 文章全体を推敲し，清書する。	・ 筆者の書き方の工夫や説得力ある表現を用いている児童の文を全体共有し，活用への意識を高める。	
	11	○ 班で記事を読み合い，感想を交流する	・ 第1時で書いた文と比較し，書き方の工夫が活用できているか振り返る。	
三	12			〔主〕 相手意識をもち文章を推敲している 〔シート，ノート〕

7 本時の学習（9／12）

（1）目標

これまで学習した書き方の工夫を生かし、班や全体で提示文を検討することを通して、より効果的な表現や資料の読み取り方について考えるとともに、自分の本論の書き表し方を工夫することができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
5	1 資料の説明のポイントを振り返る。	○筆者の書き方の工夫を振り返り、資料を読みとる4つのポイントを想起できるようにする。	説明のポイントシート(掲示)
	読み手に「なるほど」と思わせる本論を書こう。		
15	2 説明のポイントを基にして、提示文をより説得力ある文に書き直す。 (個人⇔班)	○提示文で不十分だと考える点や、使えそうな説明のポイント等を問いかけることで、検討する視点を明確にして書き直すことができるようにする。 〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場 ○提示文を検討する際、筆者の書き方の工夫を振り返り、どの説明のポイントが使えそうか全体で確認することで、見通しをもって書き直すことにつなげる。 ○必要に応じて、ペアや班同士で文を交流し、相違点や参考点を伝え合いながら、よりよい文を書きたいという意欲を促す。 〈視点2-①〉考えを表出し比較する場 ○資料と文章を赤線でつないだり、班同士の書き方の違いに注目させたりすることで、より納得する文はどれか比べながら検討できるようにする。	提示文
10	3 交流し合った相違点や参考点を全体で共有する。	○意見を書く際、筆者の述べ方の効果を考えることで、主観的な見方と客観的な見方の違いを押さえ、よりふさわしい書き方について考えることができるようにする。 〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○班や全体での話合いを通して、「自分の文章は筆者の書き方の工夫を生かしているか」、「資料と関係付けた説得力ある内容になっているか」等について見直す姿を価値づけることで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。	
10	4 全体で共有した書き表し方を生かして自分の本論を書く。	◆説明ポイントを活用し、事実と意見に分けて資料から分かることを文章で書き表している。 [シート]	構想シート
5	5 本時を振り返る。	○自分が書いた本論を読み、活用した説明のポイントや表現の工夫に赤線を引くことで、自分の学びを自覚しその書き方のよさを実感できるようにする。	

【5年（読むこと）】

作品を自分なりにとらえ、「大プロジェクトX」を製作し、朗読をしよう（「大造じいさんとがん」）

指導者 花島 宏明（鹿島市立鹿島小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単
元

学びの土台

「ごんぎつね」の描写に、人物の気持ちや性格などが表れていることを思い起こすことができるようにする。人物像として捉えることができる児童もいる。また、これまでに解説朗読を「注目の多い料理店」や「交流朗読」で経験しており、学習に向かう意欲が非常に高い。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

人物の行動や会話、残雪の呼び名や情景描写などから人物の心情やものの見方、考え方を捉え、それらを基に人物像を具体的に想像する力。

言語活動

「大プロジェクトX」を製作する

学習課題

人物の行動や会話、残雪の呼び名や情景描写などから人物像を捉え、「大プロジェクトX」を製作しよう

<立ち止まって振り返る場>

前時を振り返りながら、本時の課題を確認していく。また、今までの振り返りを見直し、大造じいさんの人物像を見つけていけるようにする。

<考えを表出し比較する場>

「結局、大造じいさんとはどんな人物なのだろうか。」と問い、解説カードからその内実に迫るようにする。また、『残雪』に対する大造じいさんの見方や考え方を、作品中の言葉から考え、自分の言葉で表現できるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

同じ叙述への解説でも、友だちと内容が違っていることがある。その違いをお互いに比較し合うことで、考えの根拠や理由付けを整理したり、再検討したりする場を設定する。このことから、児童一人一人が言葉への自覚を高めながら、自らの朗読表現に生かせるようになっていくと考えた。

本
時

単元終了時の子供の姿

行動や会話、残雪の呼び名や情景描写から、自分の想像した登場人物の気持ちや性格、ものの見方や考え方を更新していき、それらを基に具体的な人物像を想像することができる子供。

第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 鹿島市立鹿島小学校 花島 宏明

- 1 単元名 作品を自分なりにとらえ、「大プロジェクトX」を制作し、朗読をしよう
「大造じいさんとがん」（東京書籍5年）
- 2 学習課題 人物の行動や会話、残雪の呼び名や情景描写などから人物像を捉え、
「大プロジェクトX」を製作しよう。

指導事項 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりすることができるようになる。 C読むこと(1)エ

〔言葉の力〕 人物の行動や会話、残雪の呼び名や情景描写などから人物の心情やものの見方、考え方を捉え、それらを基に人物像を具体的に想像する力。

〔言語活動〕 「大プロジェクトX」を製作する。

3 単元について

<教材観>

本教材は、場面の転換や物語の山場の部分などに、大造じいさんの行動を表す細かい描写が見られ、自然の描写、さらに残雪の行動描写の巧みさなどで児童が物語の世界に引き込まれる作品である。また、「大造じいさんは、なぜ最初はあるに憎たらしいと思っていた残雪の傷を治し、放してやったのだろうか」など、大造じいさんの心情の変化についての疑問をもったり、子供同士が教材への解釈についての思考のずれを検討し合ったりすることが期待される。

これらの学びを生かすために、自分たちの朗読に「解説しよう！つまり、〇〇という言葉は、〇〇のでアール！ではもう一度」と自分なりの解釈を加え、『「大プロジェクトX」を製作する。』という言語活動を核にした単元を構想する。

<児童観>

これまで「ごんぎつね」や「注文の多い料理店」などで登場人物の心情の変化を捉えたり、表現の効果を考えたりする学習をしている。

このような学習を通して、会話文に着目して心情を想像することについては、多くの児童ができるようになってきている。しかし、行動描写や情景描写などと登場人物と関連付けて考えられる児童はまだ少ない。

<視点について>

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

第一次においては、既習教材の「ごんぎつね」を使って教師が作成したモデルを提示し、音読と朗読の違いに気付けるようにする。また、朗読では自分が作品をどう捉えているかを表現していくことを共有していく。既習教材の「ごんぎつね」を基に登場人物の心情の変化や、人物像をどのように捉えてきたか振り返っていくことで、これまでの学びと本単元での学びがどのようにつながっているかを自覚できるようにしていく。さらに、「大プロジェクトX」を製作するためには、どのような学習が必要になってくるかを子供同士で話し合わせながら、それを基にして学習計画を設定していく。

第二次においては、「人物像を捉えるためには、どのように解決したか」「どんな言葉に着目して問いを解決したのか」「どこで困ったり迷ったりしたか」等、自らの学習を振り返る場を設定する。その振り返りを授業の始まりに全員で共有し、それぞれの考え方のよさを問うたり、教師が価値づけたりすることで、学びの価値を自覚できるようにしていく。

〔視点2〕 共に更新するための工夫

大造じいさんの心情や人物像を考える際に、子供同士の考えや思考のずれを可視化したり、比較したりするためにタブレット端末等を活用し、それぞれの考えを表現させる。その根拠となっている叙述に関連付け、全体で検討していく場を設定する。

特に、残雪への見方や大造じいさんの考え方などについては、言葉を基にしていることを価値づけ、人物像の更新をしていき「大プロジェクトX」を製作することに生かしていけるようにする。

4 単元の見目標

- 文章を読んで考えたことを踏まえ、表現性を高めて朗読することができる。(知・技)(1)ケ
- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。(知・技)(1)ク
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。C読(1)エ
- 言葉がもつよさを認識し、進んで朗読に生かそうとし、国語の大切さを自覚して思いや考えをもつことができる。(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 ・文章を読んで考えたことを踏まえて朗読している。	・人物の言動や描写を結び付けて人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	・表現の工夫に気付き、人物の言動や描写から人物像を具体的に想像する活動に粘り強く取り組み、学習課題に向かって取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画(9時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準[評価方法]
一	1	○既習教材を基に単元の見通しをもつ。	・指導者作成の「ゴングェクトXあるきつねの孤独なつぐない」を提示し、言語活動のイメージをもてるようにする。	
	2	〈学習課題〉 人物の行動や会話、残雪の呼び名や情景描写などから人物像を捉え、「大ゴングェクトX」を制作しよう。 ○教材文を読んで内容の大体を捉え、学習課題達成のために、どんな学習が必要かを考え、話し合う。	・教材文を読み、人物の関係や設定、大まかな流れを板書で整理する。 ・疑問に思ったことを中心に自分の考えを整理できるようにする。 ・中心人物の人物像とその根拠を書くことができるようにする。	[知] 人物と人物の言動や描写を結び付けて人物像を捉えるという学習課題との関連を理解している。 [ワークシート]
二	3 4 5 6 本時 7	○人物の心情の変化を手がかりに人物像を捉え、朗読の仕方を考える。 ○人物の性格や考え方など、読み取ったことを基にして人物像を捉え直し、大ゴングェクトXを書く。	・人物の行動や情景描写などを基に、中心人物の会話に根拠をもって朗読に生かそうとしている姿を価値付け、一人一人が言葉への自覚を高められるようにする。 ・第一次で考えた中心人物の人物像や性格とこれまでの読みを比較したり、振り返りをさせたりしていく中で、自己の考えを更新し、変容が自覚できるようにする。	[知] 行動や情景を表した表現の工夫に気付いている。 [台本] [思] 登場人物の行動や描写から、人物の心情や人物像をとらえている。 [大ゴングェクトXシート]
	8 9	○「大ゴングェクトXある狩人の壮絶な戦い」を録音する。 ○互いの朗読を聞き合い、身に付けた力を振り返る。	・聞き手により伝わりやすくするために自分の意図を明確にし、朗読に取り組めるようにする。 ・朗読を聞く際には、朗読する人がどのように捉えていて、どのように表現しているかをという視点で聞き合うように指導し、自他の働かせた見方・考え方について共有できるようにする。	[知] 人物の言動や情景描写から人物像を捉え、朗読している。 [台本] [主] 学習を通して、粘り強く人物像を想像し、自らの学習を調整しようとしている。 [振り返り]

7 本時の学習（6／9）

（1）目標

大造じいさんの「やっつけたかないぞ。」と言った理由について話し合うことを通して、大造じいさんの人物像を考え、朗読台本を見直すことができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
10	1 単元計画と前時の学習の振り返りから、本時の課題を捉える。	○単元計画と前時までの学習の振り返りから、「今まで記していたシートからみんなの問いを解決する」という認識を共有し、本時の課題とする。 〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場 ○前時を振り返りながら、本時の課題を確認していく。また、いままでの振り返りを見直し、大造じいさんの人物像を見つけていくようにする。	台本 大ジェ クトX シート
大造じいさんは、がんをやっつけたいのだろうか。			
20	2 なぜ「じゅうをおろしてしまったのか。」という大造じいさんの行動について話し合い、正々堂々と戦うということなのかを考える。	○今までの計略を振り返ったり、ひきょうなやり方とはどういうことなのかを朗読を通して考えたりする等、大造じいさんの計略に焦点化している子供を価値づけ、じゅうをおろした大造じいさんの行動の理由を考えられるようにする。また、正々堂々と戦おうとはどういうことなのかを朗読を通して考える。 ○話し合いのめあてを「自分の考えをみんなに納得してもらおう」とすることで、根拠を確かなものにし、理由を豊かにすることができるようにする。 〈視点2-①〉考えを表出し比較する場 ○各グループでそれぞれの朗読の解説について納得できる根拠・理由があるかを十分に検討した後、全体での話し合いで更に検討する場を設ける。 ○大造じいさんが残雪を空に話した後に「大造じいさんは、がんをやっつけたいのだろうか。」と問い、叙述からその内実に迫ることができるようにする。	大ジェ クトX シート
10	3 大造じいさんの人物像を見直し、大ジェクトXを書く。	〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○全体での話し合いを基に、自分の考えた根拠や理由づけを整理したり再検討したりしながら大造日誌を見直している姿を価値づけることで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。 ◆正々堂々と戦うということを自分なりに捉え、人物像を考え直すなどして、大ジェクトXシートを見直している。〔発言・シート〕	
5	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○本時で解決したことを朗読にどのように反映させたのかを振り返ることで、次の学習にどのように取り組むか見通しをもてるようにする。	

【6年（話すこと・聞くこと）】

卒業タイムカプセルプロジェクト～8年後の「あなた」へ送る「わたし」の動画メッセージ～（「海の命」「今、私は、ぼくは」光村6年）

指導者 原之園 翔吾（鹿児島大学教育学部附属小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

単元の初めに動画撮影に挑戦し、成果と課題を自覚して学習に取り組めるようにする。また、「海の命」の「読むこと」の学習を通して、自分の「生き方」についての考えを明確にもつことができるようにする（「読むこと」領域との接続）。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

相手や目的に応じて、話の構成や効果的な伝え方について考えたり、吟味・修正したりする力。

言語活動

卒業タイムカプセルに入れるために、
8年後の自分に向けた動画メッセージを作成する

学習課題

「相手・目的」と「話の構成や伝え方」を結び付けて動画メッセージを撮影し、「卒業タイムカプセル」で8年後の自分に送ろう

<立ち止まって振り返る場>

- ・「何をどのような順序で伝えるか」という児童の「構成」に関わる困り感を基に、本時の課題を設定する。
- ・本時の学びについて「書く」「話す」の両方で振り返る活動を設定する。

<考えを表出し比較する場>

- ・音声言語を視覚的に捉えられるようにスピーチを文字化した資料や、動画資料を活用する。
- ・構成について吟味・修正する際には、想像した8年後の自分という「相手」や「目的」と関係付けて考えているかを問う。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

「根拠を明確にする」「他者の発言に付け加えたり質問したりして、考えを深める」「課題を解決するための見通しをもつ」「方略を選択する」「話し合いの状況を確認・整理する」等、自分たちで深い言葉学びを生み出すための「学び方」を発揮した際には価値づけたり、授業者が「学び方」を発揮するモデルを示したりする。

本時

単元終了時の子供の姿

「相手・目的」と「話の構成や伝え方」を結び付けながら、相手や目的に応じたよりよい話の構成や伝え方を考えたり、粘り強く吟味・修正したりすることができる子供。

第6学年ろ組 国語科学習指導案

指導者 鹿児島大学教育学部附属小学校 原之園 翔吾

- 1 単元名 卒業タイムカプセルプロジェクト～8年後の「あなた」へ送る「わたし」の動画メッセージ～
「海の命」「今、私は、ぼくは」（光村図書6年）

- 2 学習課題 「相手・目的」と「話の構成や伝え方」を結び付けて動画メッセージを撮影し、「卒業タイムカプセル」で8年後の自分に送ろう。

指導事項 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 C話すこと・聞くこと（1）ウ

〔言葉の力〕 相手や目的に応じて、話の構成や効果的な伝え方について考えたり、吟味・修正したりする力。

〔言語活動〕 卒業タイムカプセルに入れるために、8年後の自分に向けた動画メッセージを作成する。

3 単元について

<教材観>

本教材の特徴は次の通りである。

- ・文学的文章教材「海の命」は、主人公である「太一」が、父や与吉じいさ、母、瀬の主などの登場人物との関係の中で、自分の生き方を選択していく姿を描いた物語である。
 - ・教材「今、私は、ぼくは」は、これからの目指す自分の生き方について考え、話の構成、伝え方を工夫しながらスピーチする学びの過程やモデルが示されている。
- 以上の特徴から、「海の命」は子供が「太一」の生き方を捉えると同時に、自分自身の生き方について具体的に考えられる教材であると言える。また、「今、私は、ぼくは」は、具体的に考えた自分自身の生き方について、話の構成や効果的な伝え方を考えたり、吟味・修正したりしながらスピーチすることに適した教材であると言える。そのような学びを生みだすために、「8年後の自分に向けた動画メッセージを撮影し、卒業タイムカプセルに入れる」という言語活動を核とした単元を構成する。

<児童観>

子供たちは、これまで5年「提案しよう、言葉とわたしたち」で、資料を示しながら説得力のある提案をすることを経験している。

そのような学習を通して、自分の考えを相手に論理的に伝えることについては、ほとんどの子供ができるようになってきている。しかし、「相手や目的」と「話の構成や伝え方」とを結び付けて考えられる子供はまだ多くはない。

<視点について>

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

第一次においては、卒業タイムカプセルに入れる「8年後の自分自身に送る動画メッセージ」を試しに撮影する活動を設定する。試しの撮影後に、感想交流を行い、成果と課題を明確に自覚できるようにする。そして、「8年後の自分が具体的に想像できていなかった」「何を、どのような順序で話せばよいか分からなかった」「どのような伝え方がよいかまで考えられていなかった」等、子供から出された課題を基に、『相手・目的』と『話の構成や伝え方』を結び付けて動画メッセージを撮影し、『卒業タイムカプセル』で8年後の自分に送ろう。』という学習課題を設定する。

また、第二次においては、「海の命」を「読む」学習では、登場人物「太一」の生き方を読み取るだけに終始するのではなく、子供が自分自身の生き方を見つめ、目指す生き方を具体的に自覚できるようにする。

第三次においては、「どのようなことが分かったのか」「今後、どのように生かすことができるか」等、自らの学習を振り返る場を設定する。その際には、ノートに記述するだけでなく、振り返りを動画で撮影するという「書く」「話す」の両方で取り組む活動を設定する。

〔視点2〕 共に更新するための工夫

子供たちに提示する教材は、言葉を視覚的に捉え、話の構成を吟味・修正することができるようにするために、動画教材（音声言語）だけでなく、文字化教材（文字言語）の両方を用いる。また、両教材を用いて話し合う際には、教材の中のどの言葉に着目したのかという根拠を明確にしたり、「相手・目的」と関係付けながら「構成や伝え方」の工夫を考えたりしている子供の「学び方」を価値づけるようにする。

4 単元の見目

- 心情描写や人物描写、象徴表現などの工夫に気付くことができる。
(知・技)(1)ク
- 文と文と接続の関係、話の構成や展開に応じて理解することができる。
(知・技)(1)カ
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
C読(1)エ
- 資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。
A話(1)ウ
- 人物や自分自身の生き方を捉えること、相手や目的に応じて話の構成や効果的な伝え方を考えたり、吟味・修正したりすることに粘り強く取り組もうとしている。
(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・心情描写や人物描写、象徴表現などの工夫に気付いている。 ・文と文と接続の関係、話の構成や展開に応じて理解している。	・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ・資料を活用して考えが伝わるように表現を工夫している。	・登場人物や自分自身の生き方を捉えること、相手や目的に応じて、話の構成や効果的な伝え方を考えたり吟味・修正したりすることに粘り強く取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画(12時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準[評価方法]
一	1	○【試しの活動】動画メッセージを撮影し感想を交流する。	・試しの活動後に、感想を交流させ、成果と課題を自覚させるようにする。 ・課題を共有し、学習課題を設定する。	
〈学習課題〉 「相手・目的」と「話の構成や伝え方」を結び付けて動画メッセージを撮影し、「卒業タイムカプセル」で8年後の自分に送ろう。				
二	2 3 4 5	○文学的文章教材「海の命」を読解し、登場人物の人物像や生き方を具体的に想像するための「読み方」を習得する。 ○人物の生き方について具体的に想像したり、自分の生き方を明確にしたりする。	・「なぜ、太一は自然な気持ちで両方を合わせることができたのか。」「なぜ、太一は瀬の主を殺さないで済んだのか。」等、具体的な問いを協働的に解決する中で、登場人物の人物像や生き方を捉えるための読み方(方略)を身に付けられるようにする。 ・毎時間、太一や父、与吉じいさの生き方に対して、自分はどのように評価しているかを語り、動画で撮影する活動を設定する。	知 心情描写や人物描写、象徴表現などの工夫に気付いている。[記述] 思 人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。[ノート記述・動画] 主 粘り強く登場人物や自分自身の生き方を捉えようとしている。[ノート記述・動画]
三	6 7 8 本時	○動画を送る「相手・目的」を考えたり、動画メッセージのメモを書いたりする。 ○よりよい話の構成や伝え方について話し合う。	・8年後の自分を具体的に想像させたり、何のために動画メッセージを送る(残す)のかを考えたりさせ、話す「相手・目的」を明確にさせるようにする。 ・「動画メッセージモデル」について批評する活動を設定することで、よりよい話の構成や伝え方について理解できるようにする。	知 文と文との接続の関係、話の構成や展開に応じて理解している。[ノート記述・動画] 思 資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。[ノート記述・動画]
四	9 10 11 12	○第8時の学びを手掛かりに、自分自身のメモを吟味・修正する。 ○第8時の学びを手掛かりに、よりよい伝え方になるよう練習する。 ○動画を撮影する。 ○単元全体を振り返り、自己評価する。	・「相手・目的」と「話の構成・伝え方」を関係付けながら、自分自身のメモや伝え方を吟味・修正できるようにする。 ・単元全体の学びを振り返る際には、「どのような言葉の力を身に付けたのか」「どのような学びを通して身に付けたのか」「身に付けた力は、なぜ有効なのか」「今後、どのように生かすことができるのか」等の視点で振り返ることができるようにする。	主 粘り強く、相手や目的に応じて、話の構成や効果的な伝え方を考えたり、吟味・修正したりしている。[観察・ノート記述・動画]

7 本時の学習（8／12）

（1）目標

動画メッセージモデルを評価する活動を通して、「相手・目的」と「話の構成・伝え方」とを関係付け、よりよい話の構成や効果的な伝え方を考えることができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
10	1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○前時までの課題を見直す場を設けることで、本時の課題を解決すれば、よりよいものができそうだという見通しをもたせ、解決する必要感をもたせるようにする。 〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場 ○前時のノート記述や動画を振り返らせ、「構成」「伝え方」についての課題を想起させる。 ○動画メッセージモデルと出合わせ、感想を交流することで、「話の構成」「伝え方」の二点に課題があることを自覚できるようにする。	ハート タブ レッ ト端 末
どのような「構成」「伝え方」に修正すればよいのだろうか。			
20	2 動画メッセージモデルに対する評価について互いの考えを伝え合う。そして、よりよい話の構成や効果的な伝え方について話し合う。	○「構成」と「伝え方」のどちらを重点的に評価するかという立場を明確にするよう促す。 〈視点2-①〉考えを表出し比較する場 ○動画メッセージモデルを「動画教材」と「文字化教材」の両方で提示する。 ○動画メッセージモデルの「8年後の自分を、①夢や目標に向かって頑張ろうという気持ちにさせる、②8年後の自分や家族に懐かしさや楽しさを感じさせ、家族の会話を弾ませる。」という「目的」に着目して、よりよい話の構成や効果的な伝え方について考えさせるために、「8年後の自分は、ただ動画を観るだけでいいのだろうか。」と問う。 〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○文字化教材の中のどの言葉に着目したのかという根拠を明確にしたり、「相手・目的」と関係付けながら「構成や伝え方」の工夫を考えたりしている子供の「学び方」を価値付けるようにする。 例・「目的」に、「楽しさ」や「家族の会話を弾ませる」とあるから、「覚えていますか？」と問いかけを入れ、「どうして医者を目指したのか」を未来の自分や家族に考えさせてから、理由を伝えるという構成がよいと考えます。	タブ レッ ト端 末 模造紙
10	3 自分のメッセージメモを吟味・修正する。	◆粘り強く、相手や目的に応じて、話の構成や効果的な伝え方を考えたり、吟味・修正したりしている。〔発言・ノート記述〕	
5	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○本時で解決したことや、解決のプロセスを振り返ることで、次の学習にどのように取り組むか見通しをもてるようにする。 〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場 ○振り返りをノートに記述することに加え、動画に「話す」ことで残す活動を設定する	ハート タブ レッ ト端 末

分科会Ⅱ

學習指導案

【1年（書くこと）】

思い出したことを順序に気をつけて書こう「とっておきの思い出作文」（「おもい出して かこう」）

指導者 中島 麗子（熊本市立託麻原小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

今まで書いてきた日記や生活科の絵日記シート、行事等の写真を振り返ることで、楽しかったことを思い出すことができるようにする。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

経験した順序に沿って簡単な構成を考え、語と語や文と文との続き方に注意しながら書くことができる力。

言語活動

「とっておきの思い出作文」を書く

学習課題

思い出したことを順序に気をつけて書き「とっておきの思い出作文」を書こう

<立ち止まって振り返る場>

学習を進める中で学んだことや友達・先生からのアドバイスで気付いたことを振り返り、次時以降の書く活動に生かせるようにする。

<考えを表出し比較する場>

出来事の順序が異なる文章を提示することで、正しい順序について考えることができるようにする。また、その理由を友達と話し合う中で、構成についても考えることができるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

文章の比較によって考えたことや互いの文章のよさを共有したことを基に、伝えたいことが明確になる順序について考え、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

本時

単元終了時の子供の姿

自分の経験したことを基に伝えたいことを見つけ、相手に伝わるように事柄の順序を考えて表現する子供。

第1学年2組 国語科学習指導案

指導者 熊本市立託麻原小学校 中島 麗子

- 1 単元名 思い出したことを順序に気をつけて書こう「とっておきの思い出作文」
「おもい出して かこう」(東京書籍1年下)
- 2 学習課題 思い出したことを順序に気をつけて書き「とっておきのおもい出作文」
を書こう。

指導事項 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 B書くこと (1)イ

〔言葉の力〕 経験した順序に沿って簡単な構成を考え、語と語や文と文との続き方に注意しながら書くことができる力。

〔言語活動〕 「とっておきの思い出作文」を書く。

3 単元について

＜教材観＞

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・生活の中で印象に残っている出来事を、友達や教師に伝える文章を書く活動である。
- ・自分の伝えたいことが明確になるように、時間的な順序に沿って、順序を表す言葉を用いながら、内容を整理して考えることができる。

以上の特徴から、自分しか知らない出来事を相手に伝えるために、内容の順序に気をつけて考え、自分の思いを明確にしながら、文と文をつないで書くことができる教材である。

そのような学びを生み出すために、「とっておきの思い出作文を書こう」という言語活動を核にした単元を構想する。

＜児童観＞

子供たちは、これまで生活科では対象を詳しく観察して、その特徴を説明する文章を書いたり、伝えたい相手に簡単な手紙文を書いたりする学習をしてきている。しかし、主述の関係や事柄の順序性などを考えながら書く子供は少ない。そこで、事柄の順序を並べ替えることで、文章の順序について簡単な構成を考える時間や体験が必要である。

＜視点について＞

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

第一次においては、モデルとなる文章をもとに、今までの生活の中からとっておきの思い出を書くという言語活動のイメージをもつことができるようにする。また書いた文章は、学級の友達に読んでもらうという形にすることで、相手に明確に自分の思いを伝えるためにどんなことが必要か、今まで学習してきたことから生かせることなどを全員で出し合い、確認しながら学習計画を共に立てていくことができるようにする。

第二次においては、学習のゴールに向かって進めているか、全体で確認する時間をとることで、うまくいかないことや困っていることについて共に解決できるようにする。また、学びを教師が価値づけたり、子供の振り返りを共有したりすることにより、子供自身が学びの価値を自覚できるようにする。

〔視点2〕 共に更新するための工夫

文章の順序について考えるときは、事柄の順序が異なる文章を提示することで正しい順序について考えることができるようにする。その際、タブレット端末のカードを活用し、カードの順序を入れ替える活動を通して考えることができるようにする。入れ替えた理由を明確にしながら友達と意見を交流する時間を取り、順序について考えることを通して自分が伝えたいことが伝わる構成になるようにする。

4 単元の見目

- かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技）（1）ウ
- 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。B 書（1）イ
- 文章を読み返す習慣を身に付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。B 書（1）エ
- これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しを持ち、進んで事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、経験したことを報告しようとする。（学・人）

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。	・自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 ・文章を読み返す習慣や間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりしている。	・粘り強く、事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、学習課題に沿って文章を書こうとしている。

6 指導と評価の計画（9時間取り扱い）

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準〔評価方法〕
一	1	○今までの生活の中で心に残っている思い出を出し合う。	・行事の写真や日記などを振り返り、思い出に残っている出来事やその時の気持ちを出し合うことができるようにする。	
	2	○モデルの文章を読み、単元の見通しをもつ。	・モデルの文章を読み、これからの学習の見通しをもち、学習計画が立てられるようにする。	
〈学習課題〉 思い出したことを順序に気をつけて書き「とっておきの思い出作文」を書こう。				
二	3	○班の友達と思い出を出し合い、書きたいことを決める。	・話し合いの中で、自分が伝えたい思い出を決めることができるようにする。	〔思〕 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 〔タブレット端末〕 〔知〕 かぎの使い方を理解して書いている。 〔シート〕 〔主〕 これまでの学習を生かして構成を考えながら、粘り強く文章を書こうとしている。 〔シート〕
	4	○作文メモを書く。	・タブレット端末のカードに出来事や気持ちを書くことで構成を考えることができるようにする。	
	5 本時	○メモを基に構成を考える。	・順序が異なる文章を示し、タブレット端末を活用して並び替え、構成について考えることができるようにする。	
	6 7	○考えた構成を基に文章を書く。	・原稿用紙やかぎの使い方を確認し、下書きができるようにする。	
三	8	○書いた文章を読み直し清書をする。	・教師のアドバイスなどをもとに、清書ができるようにする。	〔思〕 文章を読み返し、間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりしている 〔シート・観察〕
	9	○完成した文章を友達と読み合い、感想を交流する。	・互いの文章を読み合う中で、表現のよさに着目できるようにし、相手のよさを伝え合うことができるようにする。また、自分の表現のよい点にも気付くことができるようにする。	

7 本時の学習（5／9）

（１）目標

事柄の順序性に着目して話し合うことを通して，作文メモを見直し，簡単な文章の構成を考えることができる。

（２）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
5	1 前時の学習を振り返り，本時の課題を捉える。	○自分の「作文メモ」を振り返り，読む人に自分が伝えたいことがよくわかるためには，どんなことに気を付けるとよいのかを考え，本時の学習の見通しがもてるようにする。	タブレット端末
読む人がよくわかる「順序」のひみつを見つけよう。			
20	2 順序に誤りのある例を読み，話し合う。 (1) モデルの文章を読み，気づきを話し合う。 (2) どんな順序だとわかりやすいか考え話し合う。	○出来事の順序に誤りのある例を提示すること，順序の大切さに気付くことができるようにする。 〈視点2-①〉考えを表出し比較する場 ○出来事の順序が異なる文章を提示すること，正しい順序について考えることができるようにする。また，その理由を友達と話し合う中で，構成についても考えることができるようにする。 ○モデルの文のよさを出し合うことで，時間の順序性などに気付き，自分の「作文メモ」をさらによりよいものにできるようにする。 ○順序を表す言葉に着目し，さらに自分の作文がよりよいものになるということに気付くことができるようにする。	例文提示（用紙）
12	3 「作文メモ」の構成を考える。	○学んだことを基に「作文メモ」の順序を考え，自分の思いが伝わるように簡単な構成を考えることができるようにする。 〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○文章の比較によって考えたことや互いの文章のよさを共有したことを基に，伝えたいことが明確になる順序について考え，一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。 ◆「作文メモ」を並び替え，簡単な構成を考えている。 〔タブレット端末〕	タブレット端末
8	4 本時の学習を振り返り，次時の見通しをもつ。	〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場 ○学習を進める中で学んだことや友達・先生からのアドバイスで気付いたことを振り返り，次時以降の書く活動に生かせるようにする。	

【1年（読むこと）】

せつめいする文しょうをよんで、じどう車ずかんをつくろう（「じどう車くらべ」）

指導者 江藤 駿（福岡市立田島小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

既習学習「くちばし」「うみのかくれんぼ」で、「問いに対する答えを読む」「書かれている事柄の順序を読む」「挿絵や写真を手がかりにしながら内容を読む」といった経験を想起させる。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取る力・文章の中の重要な語や文を考えて選ぶ力・事柄の順序や文と文との続き方に注意して書く力。

言語活動

「デジタルじどう車ずかん」を作る

学習課題

じどう車は、「どんなしごとをしているのか」「どんなつくりになっているのか」をよんで、1年〇組のじどう車ずかんをつくろう

<立ち止まって振り返る場>

前時学習を振り返る際、自動車図鑑を書くために詳しく読むことを確認する。終末時には、内容と説明の理解度を自己評価する活動を位置付け、書く活動につなぐ。（読む活動と書く活動を連動させた単元構成）

<考えを表出し比較する場>

「広い荷台になっている」よさや「たくさんさんのタイヤがついている」よさについて考えさせ、構造的に板書に表すことで、子供の発言（表現したこと）について共通点、相違点を整理する。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

- トラックの「しごと」と「つくり」を説明する文章や言葉について、「どんな荷物を運ぶのか」等、具体化する発問をして挿絵や知識、生活経験と結び付けることで、トラックの「しごと」と「つくり」の内容や言葉が理解できるようにする。
- 「しごと」と「つくり」を入れ替えて音読し、順序の意味を考えさせることで「しごと」「つくり」の順序で書かれているよさや「そのために」の言葉の働きに気付くようにする。

本時

単元終了時の子供の姿

- ・「しごと」→「つくり」の順序で書かれていることを読み取ることができる子供。
- ・「しごとをしています」や「あります」といった言葉に着目したり挿絵や生活とつないだりして内容を読み取る子供。
- ・読み取ったことをもとにしたり、自分で選んだ自動車について学んだ文章構成を生かしたりして「じどう車ずかん」をつくることができる子供。

第1学年2組 国語科学習指導案

指導者 福岡市立田島小学校 江藤 駿

- 1 単元名 せつめいする文しょうをよんで、じどう車ずかんをつくろう
「じどう車くらべ」(光村図書1年)
- 2 学習課題 じどう車は「どのようなしごとをしているのか」と「どんなつくりになっているのか」をよんで、1年〇組のじどう車ずかんをつくろう。

指導事項 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。C読むこと(1)ウ
自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成
を考えること。B書くこと(1)イ

〔言葉の力〕 事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取る力・文章の中の重要な語
や文を考えて選ぶ力・事柄の順序や文と文の続き方に注意して書く力

〔言語活動〕 「デジタルじどう車ずかん」を作る。

3 単元について

<教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・自動車は多種多様で子供にとって身近な話題であり、興味をもちやすい。
- ・問いの答えが「しごと」「つくり」の順に書かれており、明確な文章構成である。
- ・「じどう車くらべ」の次の単元で、自動車図鑑を作る言語活動が設定されている。

以上の特徴から「しごと」と「つくり」の関係を捉えたり、学んだ文章構成を使いながら、自分が選んだ自動車について説明の文章を書いたりできる教材である。

読みを深めるために、「じどう車の『しごと』と『つくり』をせつめいするじどう車ずかんをつくろう」という言語活動を核に、「読む」と「書く」を連動させた単元を構成する。

<児童観>

子供たちは、これまで事柄の順序を考えながら内容の大体を捉える学習を繰り返している。また、対象をよく観察して分かったことや見つけたことを文章にする経験をしている。

これらの学習を踏まえ、本単元では、事柄の順序に注意しながら、文章中の重要な語や文を考えて選び出したり、図鑑や絵本の文字や写真・絵から情報を取り出し、取り出した情報どうしを結び付けて構成を考えて書いたりする力を身に付けるようにする。

<視点について>

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

第一次では、まず、これまでの説明文の学習を振り返り、ICTを活用して「問いに対する答えを見つけて読む」「事柄の順序を読む」「挿絵や写真を手がかりにして内容を読む」といった経験を想起させる。次に、題名と冒頭文を読み、挿絵とつながながら自動車の形や大きさ、車同士の違いに目を向けさせ、それぞれの自動車がどんな「しごと」をしていて、そのためにどんな「つくり」になっているのかを読んでいくことをおさえる。そして、モデルとなる「デジタルじどう車ずかん」を提示し、学んだことを生かして自分が選んだ自動車の図鑑を作るという言語活動のイメージをもつことができるようにする。その際、振り返りシート兼学習計画を提示し、学習の見通しがもてるようにする。

第二次では、「読むこと」と「書くこと」を交互に位置付けることで、読んだことを生かしながら書く活動を繰り返し、学習を進めるごとに図鑑が増えることや書き方が分かることで、満足感や達成感を味わわせる。そして、毎時間の振り返りを蓄積したり、共有したりしながら、学びの価値を自覚できるようにする。

〔視点2〕 共に更新するための工夫

読む活動の際に、子供がどの文や言葉に立ち止まり、どう考えたのかが分かるように、文章と挿絵をつないだり、文章と生活をつないだりしながら構造的に板書に表す。また、本当に「しごと」と「つくり」がぴったりなのかどうか、発問や問い返しの工夫を行うことで、「しごと」と「つくり」の関係を捉えさせると共に「そのために」の働きを捉えさせる。書く活動においても、「しごと」にあった「つくり」になっているか確かめながら、読み取ったことを基に図鑑をまとめることができるようにする。

4 単元目標

- じどう車同士の共通，相違点やしごととつくりの順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技）（2）ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出し，しごととつくりの関係を捉えることができる。C 読（1）ウ
- しごととつくりが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。B 書（1）イ
- これまでの学習を生かして，デジタル自動車図鑑を粘り強く作ろうとする。（学・人）

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	・ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 ・ 自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。	・ 粘り強く，事柄の順序に沿って簡単な構成を考え，これまでの学習を生かして，文章を書こうとしている。

6 指導と評価の計画（12時間取り扱い）

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準[評価方法]
一	1	○既習学習を確認し，題名や冒頭文を読む。 ○モデルのデジタル自動車図鑑をもとに単元の見通しをもつ。	・「くちばし」「うみのかくれんぼ」で「問いに対する答えを見つけて読む」「書かれている事柄の順序を読む」「挿絵や写真を手がかりにしながら読む」といった経験を想起できるようにする。	
<学習課題> じどう車は，「どんなしごとをしているのか」そのために「どんなつくりになっているのか」をよんで，1年〇くみのデジタルじどう車ずかんをつくろう。				
二	2 3 4 本 時 5 6 7	○単元に出てくる自動車それぞれの「しごと」と「つくり」を読む。 ○自動車それぞれの説明文を書く。 ※2・3時 バスや乗用車 4・5時 トラック 6・7時 クレーン車	・「読む」と「書く」活動を連動させるために「自動車のしごととつくりを読み取る」「読み取ったことを基に自動車図鑑を作る」を繰り返す。 ・内容(しごととつくり)を読み取るために，挿絵と言葉をつないだりする。 ・内容(しごととつくり)の関係を捉えさせるために，発問の工夫を行う。 ・「そのために」が示す言葉の働きに気付かせるために，叙述を並び替えて音読する。	知 自動車を比べていく中で，共通・相違を見つけながら読んでいる。 [振り返り・学習プリント] 思 文章の中の重要な語句を選び出している。 [学習プリント]
三	8 9 10 11 12	○二次で学んだことを生かし，はしご車の説明文を書く。 ○自分が選んだ自動車の説明文を書く。 ○作った図鑑を読み合い，感想を交流し，学習のまとめをする。	・クラゲチャートを使ってしごととつくりにつながりを持ち，正しい順序で書けているかどうかを確かめることで，学んだことを活用できるようにする。 ・完成したデジタル自動車図鑑を読み合い，表現の良さを伝え合うことができるようにする。	思 自分の考えが明確になるように，事柄の順序に沿って構成を考えている。 [学習プリント] 主 これまでの学習を生かし，しごととそのつくりを捉えて，文章を書こうとしている。 [学習プリント]

7 本時の学習（4／12）

（1）目標

挿絵や自分の経験とつないで叙述をとらえる活動を通して、トラックの「しごと」と「つくり」について理解を広げたり、深めたりすることができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○前時の学習プリントや自分たちが書いたバスや乗用車の説明文を振り返り、詳しく読み取るとはどういうことか想起できるようにして、本時の学習の見通しがもてるようにする。 <u>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る</u> ○前時に書いたバスや乗用車の説明文のうち、「しごと」や「つくり」について具体的に読み取ったことをまとめているものを紹介し、本時の学習の視点と意欲をもつことができるようにする。	前時に書いた説明文
<u>〈学習課題〉</u>トラックは、どんな「しごと」をしていて、そのために、どんな「つくり」になっているのかをくわしくよもう。			
10	2 トラックの「しごと」について話し合う。	○説明文を読んで、「しごと」と「つくり」を取り出すことができた理由を問うことで、文末表現に着目できるようにする。 ○運ぶものに注目させて、トラックの「しごと」とバスや乗用車の「しごと」を比べることで、「しごと」に合った「つくり」になっていることに気付くことができるようにする。	学習プリント
24	3 トラックの「つくり」について話し合う。	<u>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</u> ○「広い荷台になっていると、どんないいことがあるのか」「たくさんのタイヤが付いているとどんないいことがあるのか」について考えさせ、子供の考えを構造的に板書に表すことで、共通点や相違点を整理する。 <u>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</u> ○トラックの「しごと」と「つくり」を説明する文章や言葉について、「どんな荷物を運ぶのか」等、具体化する発問をして挿絵や知識、生活経験と結び付けることで、トラックの「しごと」と「つくり」の内容や言葉を理解できるようにする。 ○「しごと」と「つくり」を入れ替えて音読し、説明の順序を考えることで、「しごと」「つくり」の順序で書かれているよさや「そのために」の言葉の働きに気付くようにする。	
3	4 「しごと」と「つくり」の順序性について考える。		学習プリント
3	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	◆「しごと」と「つくり」について読み取ったことを具体的にプリントに書き込むことができる。 〔学習プリント〕	振り返りプリント

【2年（話すこと・聞くこと）】

みんなで話をつなげて、「おなやみそうだん会」を開こう（「そうだんにのってください」）

指導者 秋山 紗貴子（神崎市立神崎小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

相手の話の大事なところを落とさずに話したり聞いたりしてきたこと、質問をして相手の考えを引き出してきたことを思い起こさせるために、教師によるモデルを動画にして視聴させる。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

相手の話を引き出し、受け止めて、相手が喜ぶように、自分の考えを伝える、話をつなぐ力。

言語活動

「おなやみそうだん会」を開く

学習課題

あいてがよろこぶ「おなやみそうだん会」をしよう

<立ち止まって振り返る場>

時間毎に話し方・聞き方の視点を増やしていき、そうだん会の様子はタブレットで動画に残し、自分の聞き方・話し方を振り返られるようにする。

<考えを表出し比較する場>

相談者の悩みに対する回答を順にする中で、友達の回答と自分の回答を比べながら、共通点や相違点を見出す。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

内容としての納得解の発見（相手がよろこぶ回答）、話し方・聞き方としての納得解（相手がよろこぶ話し方・聞き方の視点）が見つかるように、どのような点がよいのか、その理由や根拠を考え、交流する。

本時

単元終了時の子供の姿

相手の話の大事なところを聞き、話し方・聞き方を工夫して、話をつなぐことのできる子供。

第2学年1組 国語科学習指導案

指導者 神崎市立神神崎小学校 秋山 紗貴子

- 1 単元名 みんなで話をつなげて、「おなやみそうだん会」を開こう
「そうだんにのってください」（光村図書 2年）
- 2 学習課題 あいてがよろこぶ「おなやみそうだん会」をしよう

指導事項 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。
A 話すこと・聞くこと（1）オ

〔言葉の力〕 相手の話を引き出し、受け止めて、相手が喜ぶように、自分の考えを伝える、話をつなぐ力。

〔言語活動〕 「おなやみそうだん会」を開く。

3 単元について

<教材観>

本単元のねらいは、相手の話を受け止めて、相手のことを考え、話をつなぐ力を身に付けることである。本教材「そうだんにのってください」は、身近なことや経験したことから悩みを考え、グループで考えを広げていく拡散的な話し合いである。相手の悩みに対して、話を引き出し、受け止めて、相手のことを考えながら話をつなぐことができる。

話し合う活動を通して、話がつながることの楽しさ、話し合ってよかったという実感をもてると考える。

<児童観>

子供たちはこれまで、1年生の「これは、なんでしょう」で相手の話の大事なところを落とさずに話したり聞いたりすること、2年生の「あったらいいな、こんなもの」で質問をして相手の考えを引き出すことを学んできている。

そのような学習を通して、事前に話すことを準備した状態で発言することはできる児童が多い。友達の話を聞くこともできる児童は多いが、自分と友達の考えを比べたり、友達の発言に対して自分の考えを述べたりする児童は少ない。

<視点について>

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

第一次においては、教師が作成した「おなやみそうだん会」の動画モデルを見せることで、学習の見通しをもたせる。動画モデルをもとに「あいてがよろこぶ『おなやみそうだん会』をしよう」という学習課題を設定する。学習課題の「あいてがよろこぶ」とは、相手の悩み事に対して、相手に寄り添った質問をし、相手のことを考えることである。

第二次においては、身近なことや経験したことから友達に相談したいことについて決めたことをもとに、4人グループで「おなやみそうだん会」を開いていく。その際、毎回タブレット端末を用いて自分の話し合いの様子を動画に撮り、振り返り時に活用する。その際、「スターアップチャレンジ（以下、SUCとする）」を用いて自分の話し合いのレベルを自ら確かめ、学びを自覚できるようにしていく。

〔視点2〕 共に更新するための手立て

毎時間の「おなやみそうだん会」の様子を1人1台のタブレット端末で動画に撮影することで、自分の話し合いの様子を振り返り、友達と自分を比較することができるようにする。また、「おなやみそうだん会」でメンバーを変えながら何回も経験させる中で、自ら「SUC」の段階を上げている児童の様子を取り上げる。そのように、段階的にステップアップさせることで、より多くの児童が主体的に取り組むことができるようになる。

「おなやみそうだん会」では、他の友達の意見と比べながら、共通点や相違点を見出させる。同じグループの友達の意見と比べるだけでなく、教師が全体の場で児童の話し合いの様子を紹介する中でも、比較できるようにしていく。また、相手が喜ぶ回答が見つかるように、その回答のどのような点がよいのか、その理由や根拠を考えさせていくようにする。

4 単元目標

- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
(知・技) (2) ア
- 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。
A話・聞(1) ア
- 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。
A話・聞(1) オ
- 積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとする(学・人)
- 話し合いを振り返り、自らの学びを調整して、次の学習やこれからの生活に生かそうとする。
(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・友達の話や質問を聞いて、自分の考えとの共通点や相違点を伝えている。	・身近なことや経験したことから、友達に相談したいことを選んでいる。 ・友達の相談したいことに関心を持ち、友達の発言を受けて話をつないでいる。	・学習に関心を持ち、見通しをもって友達との話し合いに取り組もうとしている。 ・友達との話し合いを振り返り、自らの学びを調整して次の時間につなげようとしている。 ・自分の話し合いの様子を振り返り、これからの生活に生かそうとしている。

6 指導と評価の計画(7時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準[評価方法]
一	1	○教師作成の話し合いの動画を見て、学習の見通しをもつ。	・動画を見せることで、具体的にイメージできるようにする。	主学習に関心を持ち、友達との話し合いに取り組もうとしている。【振り返り】
	2	○相談ごとを決める。	・友達に相談することを考える。その際、選択肢を与え、自分で考えることが難しい児童は、その中から選べるようにする。	主身近なことや経験したことから、友達に相談したいことを選んでいる。【ノート】
二	3 4 5 6 本時	○4人グループで、「おなやみそうだん会」(話し合い)をする。 ＜1時間の流れ＞ 4人グループでの話し合い 全体での紹介／動画を見て振り返る メンバーを変えて4人グループでの話し合い 振り返り	・1時間に1人、相談する人を決める。 ・話し合いの様子を1人1台タブレット端末を用いて動画に撮り、その都度振り返り、次に生かすことができるようにする。 ・話し合い後、相手のことを考えた児童の発言や様子を全体の場で紹介し、ステップアップにつなげる。 ・1時間に2～3回グループのメンバーを変え、話し合いをさせる。 ＜SUC＞ ☆あいづち ☆☆理由なしで答える ☆☆☆理由あり(自分中心) ☆☆☆☆付け加え(○○さんと同じで、違って) ☆☆☆☆相手のことを考えて ☆☆☆☆相手の質問をして	主友達との話し合いを振り返り、自らの学びを調整して次の時間につなげようとしている。【話し合い、ノート】 思友達の話をうなずいて聞いたり、復唱したりするなどして、話をつなぐことができる。【話し合い、ノート】 思友達の話を聞いて、理由とともに共感の気持ちを表し、話をつなぐことができる。【話し合い、ノート】 知友達の話や質問を聞いて、自分の考えとの共通点や相違点を伝えることができる。【話し合い、ノート】 思友達の話を聞いて、相手の立場に寄り添った質問をし、話をつなぐことができる。【話し合い、ノート】
三	7	○単元を振り返り、友達に伝える。	・これまでの振り返りを見ながら、自分ができるようになったことを書かせる。(相談してよかったこと・自分の話し合いのレベルについて)	主自分の話し合いの様子を振り返り、これからの生活に生かそうとしている。【ノート、発言】

7 本時の計画（6/7）

（1）本時の目標

友達の悩みを聞いて、相手の立場に寄り添った質問をし、相手のことを考えながら話をつなぐことができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価[方法]	備考
5	1 前時の学習を振り返り、 本時の課題を捉える。	○「SUC」を見ながら前時までの「おなやみそうだん会」を振り返り、自分がどのレベルの話し合いができているのかを確認める。 ○前時の振り返りや動画を数名紹介し、学習への意欲につなげる。 ○本時が最後の「おなやみそうだん会」であることを伝え、相手が喜ぶよりよいものにしようという意欲をもたせる。	SUC
10	2 4人グループで「おなやみそうだん会」をする。 ＜取りあげたい児童の発言＞ ・〇〇さんは△△がすきだから…（レベル☆☆☆☆☆） ・〇〇さんの弟は何色が好きなの？（レベル☆☆☆☆☆）	○机間指導で、話し合いの様子を見ながら、相手のことを考えながら話をしていくことができる児童を賞賛する。 ○それぞれ1人1台のタブレット端末を机の前に置き、「おなやみそうだん会」の様子を動画に撮ることで、自分の話し合いの様子を後で振り返りができるようにする。 ○終えた班から、動画を見ながら「SUC」で確かめさせる。	
25	3 「おなやみそうだん会」の様子を振り返り、グループのメンバーを変えて「おなやみそうだん会」をする。 ＜SUC＞ ☆☆あいづち ☆☆理由なしで答える ☆☆☆理由あり（自分中心） ☆☆☆☆付け加え （〇〇さんと同じで、違って） ☆☆☆☆相手のことを考えて ☆☆☆☆相手に質問をして	＜視点1－③＞立ち止まって振り返る場 ○タブレットで撮影した動画を振り返り、「SUC」を見ながら、自分の話し合いのレベルを確認める。 ＜視点2－①＞考えを表出し比較する場 ○友達の回答と自分の回答を比べながら、共通点や相違点を見出す。 ○相手の好きな色や好きな食べ物など、相手のことを尋ねることができていた児童を紹介し、相手に寄り添い、相手のことを考えるとはどういうことを全体で共有する。 ○「SUC」に「相手のことを考える」と「相手に質問をする」を追加する。 ○相手に質問ができていたか、動画を見ながら振り返りをさせる。 ○相手が喜ぶ答えが導き出せるように、相手に質問しながら「おなやみそうだん会」をするように伝え、相談者を入れ替えて、取り組ませる。 ＜視点2－②＞納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○相手が喜ぶ回答になるように、どのような点がよいのか、なぜ相手に質問をすることがよいのかについて考えさせる。	タブレット端末
5	4 本時の学習を振り返り、 次時の見通しをもつ。	◆相手のことを考えて話をつなぐことができる。 【話し合い・振り返り】 ○本時でどのレベルの「おなやみそうだん会」ができたのか、自分なりにどのように相手に寄り添うことができたのかについて振り返らせる。	

【3年（読むこと）】

食べ物のひみつ巻物を作ろう（「すがたをかえる大豆」）

指導者 水間 清香（大分市立明治小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

既習事項から、説明文の組み立ての確認をする。栄養教諭と連携して、給食週間で紹介するための「食べ物のひみつ巻物」を作るというゴールを共有する。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる力。

言語活動

「食べ物のひみつ巻物」をつくる

学習課題

国分さんの説明の仕方の工夫を探しながら読み、「食べ物のひみつ巻物」を作ろう

<立ち止まって振り返る場>

国分さんの例の書き方のよさを見つけ、今後自分が巻物を書く際に取り入れたい「書き方のよさ」を考え、次時につなげることができる。

<考えを表出し比較する場>

国分さんの例の並び順のいいところを、ふせんに書き出し、全体発表の際に、意見ごとにグルーピングして板書する。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

「国分さんの例の書き方はなぜ違和感なく読めたのか」について考える際に、エラーモデルとの比較や、既習事項を根拠とすることで、国分さんの例の書き方のよさについて実感することができるようにする。

本時

単元終了時の子供の姿

説明文を読む際に、話題と例とのつながりを捉え、それぞれの段落の役割を考えたり、筆者の書き方の工夫を見つけたりして、読むことができる子供。

第3学年6組 国語科学習指導案

指導者 大分市明治小学校 水間 清香

1 単元名 「食べ物のはみつ巻物」を作ろう

「すがたをかえる大豆」(光村図書3年)

2 学習課題 国分さんの説明の仕方の工夫を探しながら読み、「食べ物のはみつ巻物」を作ろう

指導事項 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 C読むことア

〔言葉の力〕 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる力。

〔言語活動〕 「食べ物のはみつ巻物」を作る。

3 単元について

<教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・大豆が姿を変えた例がいくつか挙げられているので、その分類の仕方や順番を検討できる。
- ・接続語に着目することで、段落同士の関係が捉えやすい。
- ・段落のはじめに「～のくふうがあります」と書かれているので、中心文が捉えやすい。
- ・大豆とダイズの書き分けにより、例の挙げ方の工夫に気付くことができる。

以上の特徴から、既習教材の「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」と同じ段落構成になっていることや、中の例の挙げ方の工夫をしていることに気付くことができる。筆者の書き方の工夫を見つけながら読むことで、自分が「食べ物のはみつ巻物」を作るときに参考にできる。

<児童観>

子供たちは、これまで「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」で段落構成図を用いて、組み立てや段落とその中心をとらえる経験をしてきた。

説明文に「はじめ」「中」「おわり」があることや、問いと答えがあることは理解している。しかし、それぞれの段落がどのように繋がっているのかを自力で読むことはできない。また、「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」の学習の際に、中の例の順番については検討していない。

<視点について>

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

第一次においては、既習教材の「じどう車くらべ」「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」を読む。説明文は「はじめ」「中」「終わり」で構成されていることや、どのような言葉を使っているかなどを想起させ、これまでの学びと本単元の学びがつながっていることを自覚できるようにする。また、教師の言語活動モデル(未完成)を提示することで、巻物を作るにはどのように書けばいいのか、国分さんの書き方の工夫を読んていこうという必然性のある学習課題を設定する。

第二次においては、教師が「すがたをかえる大豆」を読んて巻物を作ったことから、子供たちは自分たちも国分さんの書き方の工夫について読んていくようにする。

第三次においては、これまでに身につけた読みの力を用いて、自分で選んだ食べ物の本から、巻物を書くための情報を読み取っていく。その後、国分さんの書き方の工夫を取り入れながら、自分の巻物作りに繋げていく。

〔視点2〕 共に更新するための工夫

国分さんの例の書き方のよさについて考える際に、ふせんに意見を書いていく。書いた後に、班で話し合い、考えを広げていく。その際に、同じ意見はまとめるようにすることで、子供たちが自ら自分の意見と相手の意見の共通点や相違点を考えて話し合う場を設定する。また、エラーモデルとの比較や、既習事項を根拠とすることで、国分さんの例の書き方のよさについての納得解を共に生み出す。

4 単元の見通し

- 筆者の考えとそれを支える事例との関係について理解できる。(知・技)(2)ア
- 段落の役割について理解できる。(知・技)(1)カ
- 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。C読(1)ア
- 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えようとする。(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・筆者の考えとそれを支える事例との関係について理解している。 ・段落の役割について理解している。	・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。	・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えようとしている。

6 指導と評価の計画(15時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準〔評価方法〕
一	1	○学習の見通しを立てる。	・栄養教諭に食べ物のひみつを紹介してほしいと投げかけてもらう。 ・巻物にした教材文をだんだん開きながら見せ、学習の意欲や見通しをもてるようにする。	
〈学習課題〉 国分さんの説明の仕方の工夫を探しながら読み、「食べ物のひみつ巻物」を作ろう				
		○「じどう車くらべ」「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」を読み、既習事項を振り返る。	・これまでの説明文ではどんなことを学んだか想起できるようにする。	☒ 段落の役割について理解している。 〔発言〕
二	2 3 4 本時	○「はじめ」にはどんなことを書くか、「終わり」にはどんなことを書くかまとめる。 ○中の部分を国分さんはどのように書いているか考えながら読む。 ・大豆の例について整理する。 ・国分さんの例の書き方のよさについて考える。	・「はじめ」「終わり」の文章のみを配布し、どんな内容が書かれているか確認できるようにする。 ・九つの食品カードをロイロノートで配布し、仲間分けをできるようにする。 ・叙述をもとにして仲間分けをできるようにする中心文の見つけ方) ・教師のエラーモデルを見せ、その違和感から、国分さんの考えた順序のよさについて考えることができるようにする。	☒ 段落の役割について理解している。 〔ノート・発言〕 ☒ 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えようとしている。 〔発言〕 ☒ 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 〔付箋・発言〕
三	6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	○自分が紹介したい食べ物を決め、「はじめ」「終わり」を書く。(2) ○中の部分に使う例を短冊に書いていく。(3) ・例の順番を決め、下書きをする(2) ・推敲する。(1) ○友達と読み合い、友達の書き方の工夫を見つける。(1)	・第2時で学んだことを思い出させ、「はじめ」「終わり」の文章をそれぞれカードに書くよう指導する。 ・自分が選んだ食べ物の本から、紹介したい食品の名前を付箋に書けるように指導する。 ・付箋を並び替えて例の順番を考えることができるようにする(同じ工夫のものを分類できるようにする。) ・それぞれの食品の説明を詳しくカードに書けるようにする。 ・推敲チェックシートを用いて推敲できるようにする。	☒ 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 〔カード・発言〕

7 本時の学習（5／15）

（１）目標

本文を，エラーモデルや既習教材と比較することを通して，筆者の例の順序のように気付くことができる。

（２）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
5	1 今までの学習，前時の学習を振り返り，本時の課題を捉える。	○国分さんは9つの食品を工夫ごとにまとめていることを振り返ることができるようにする ○教師が作った巻物を提示し，違和感を感じることができるようにする。 ・わかりにくい ・ひみつ感がない ・おにぎりはもう知っている食品 ○国分さんの文章は読んでいて「何か変だ」と思うところはなかったか問い，国分さんの例の書き方のよさを見つけ，教師のモデル文を良くしていこうと投げかける。	掲示物
国分さんの例の書き方の良いところは何か。			
5	2 「すがたをかえる大豆」の例の挙げ方の良さを考える。	○一人で考え，付箋に書くよう指導する。 ・考えがもちにくい場合や，手が止まった場合は，エラーモデルの違和感に立ち返ったり，「じどう車くらべ」の順番を思い出したりするよう指導する。	付箋
15	3 班で考えを広げたり，まとめたりする。	○グループで意見を出すよう指導する。 ＜視点2-②＞納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 「国分さんの例の書き方はなぜ違和感なく読めたのか」について考える際に，エラーモデルとの比較や，既習事項を根拠とすることで，国分さんの例の書き方のよさについての納得解を生み出す。	
15	4 全体で話し合い，まとめる。	○付箋に書いたことをもとに発表するよう指導する。 ＜視点2-①＞考えを表出し比較する場 国分さんの例の並び順の良いところを，付箋に書き出し，全体発表の際に，意見ごとにグルーピングして板書する。 国分さんは例の順序を工夫して書いている。	
5	5 本時の学習を振り返る。	○教師の例の順番を入れ替えて修正する。 ○振り返りを書くよう指導する。 ◆国分さんの例の順序のよさに気付いている。 〔ノート・発言〕 ＜視点1-③＞立ち止まって振り返る場 今後自分が巻物を書く際に取り入れたい「書き方のよさ」を考え，次時につなげることができるようにする。	

【3年（書くこと）】

登場人物や組み立てを考えて、ぼうけん物語を書こう「たから島のぼうけん」「三年とうげ 他」

指導者 瀬戸口 礼果（鹿児島市立喜入小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単
元

学びの土台

「お話のさくしゃになろう」で学んだ構成を思い起こすことができるようにする。また、既習の物語を基に事件や解決に至る展開の違いに気付くことができるようにする。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

登場人物の役割や、事件と解決に至る展開の構成を考え物語を書く力。

言語活動

ハラハラドキドキさせる宝島の冒険物語を書く

学習課題

登場人物や組み立てを考え、4年生をハラハラドキドキさせるぼうけん物語を書こう

<立ち止まって振り返る場>

「事件がすぐに解決してしまうと面白くない。」「事件と解決の間があった方がハラハラドキドキさせられるんじゃないかな。」等の子供たちの前時の感想を取り上げて、以下のような課題を設定する。

<考えを表出し比較する場>

「三年とうげ」のおじいさんが転んでから元気になるまでの叙述を根拠に、主人公の繰り返す行動描写が、読み手のハラハラドキドキにつながっているかを考えさせる。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

全体での話し合いを基に、おじいさんの心情の変化と、それを読む人の心理の変化の関係を価値づけることで、ハラハラドキドキさせる物語の展開についての納得解を生み出すことができるようにする。

本
時

単元終了時の子供の姿

相手や目的を意識した表現になっているか何度も見直ししながら、粘り強く材料を集めたり、内容のまとまりをつくったりして、自分の考えや思いを書くことができる子供。

第3学年い組 国語科学習指導案

指導者 鹿児島市立喜入小学校 瀬戸口 礼果

- 1 単元名 登場人物や組み立てを考えて、ぼうけん物語を書こう
「たから島のぼうけん」「三年とうげ 他」(光村図書3年下 他)
- 2 学習課題 登場人物の組み立てを考え、4年生をハラハラドキドキさせるぼうけん物語を書こう。

指導事項

書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。 B 書くこと (1) イ

〔言葉の力〕 登場人物の役割や、事件と解決に至る展開の構成を考え物語を書く力。

〔言語活動〕 ハラハラドキドキさせる宝島の冒険物語を書く。

3 単元について

<教材観>

本教材「たから島のぼうけん」は、1枚の「たから島の地図」を基に、子供たちが、ハラハラドキドキする物語を書きたいという思いをもたせやすい教材となっている。また、「始まり」「事件」「解決」「結び」という、物語を書く際に参考になる4つのまとまりが示されている。

しかし、学習指導要領B書くこと(2)ウの解説に書かれている作家が物語を書く際の工夫「登場人物の役割」「発端から結末へといった展開」については、十分だとは言えない。

そこで、補助教材として「三年とうげ」やこれまで学習してきた物語を扱い、物語における主人公の役割や、事件と解決に至る展開などの構成を本教材と関連付けて指導していく。

このようなことを踏まえ、読み手をハラハラドキドキさせる「たから島のぼうけん物語」を書くという言語活動を核にした単元を構成した。

<児童観>

子供たちは、これまで、2年「お話のさくしゃになろう」で想像したことなどから、登場人物を決め、簡単なお話を書くことを経験している。

それらの学習を通して、絵を基に簡単な構成を考えながらお話を書くことができる。

しかし、主人公の役割や、物語の事件と解決に至る展開などの構成を考えて物語を書く子供はまだ少ない。

<視点について>

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

第一次においては、子供たちにハラハラドキドキするお話を、既習の物語教材やその他の本、漫画などから想起させ、その理由が登場人物やストーリー展開(組み立て)に関係していることに気付くことができるようにする。その上で、「たから島の地図」を提示し、「登場人物や組み立てを考え、4年生がハラハラドキドキするぼうけん物語を書こう」という学習課題を設定していく。その際、物語づくりのコツを「三年とうげ」やこれまでの物語から見つけていき、物語を書いていくという見通しをもたせるようにする。

第二次においては、「登場人物の性格と物語の面白さは関係しているのか」読み手をハラハラドキドキするためには、「物語の『中』では、『事件』や『解決』が書かれているのか」「『事件』と『解決』の間には、どんなことを書けばいいのか」等、自らの学習を振り返る場を設定する。その振り返りを共有する場を設け、それぞれの考え方のよさを問うたり、教師が価値づけたりすることで、学びの価値を自覚できるようにしていく。また、第三次では、第二次で得た視点を基に、グループで物語づくりを行う中で、授業の始めに書いたものを共有しながら、互いのよさを認め合ったり、子供の作品を教師が価値づけたりしながら学びの価値を自覚できるようにする。

〔視点2〕 共に更新するための工夫

複数の物語やお話などから、人物の特徴や、多様な事件や解決の方法を類型化する際は、カードを用いて比較・分類・関係付けながらラベリングを行わせるために、根拠として挿絵や叙述、既有的知識や読書経験等をふまえた検討の場を設定する。また、物語を書いていく際には、登場人物の性格や特徴、事件や解決などの物語の方向性、表現のよさをグループやクラス全体で検討する。そうすることで、自分なりに納得できる物語づくりへと導けるようにする。

4 単元の見目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知)(1)オ
- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思B)(1)イ
- 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝えあい、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思B)(1)オ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、国語の大切さにして、思いや考えを伝え合おうとする。(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。	・「書くこと」において、相手や目的を意識して、書く内容の中心を明確にしながら文章の構成を考えている。 ・書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。	・粘り強く構成を工夫しようと、学習課題に沿って、物語を書こうとしている。

6 指導と評価の計画(15時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準[評価方法]
一	1	○ハラハラドキドキする物語を話し合い、単元の見通しをもつ。	・「たから島〇〇の大冒険」という児童作品を提示し、言語活動のイメージをもてるようにする。	
〈学習課題〉 登場人物や組み立てを考え、4年生をハラハラドキドキさせるぼうけん物語を書こう。				
二	2 3 4 5 6 本時 7 8	○「三年とうげ」の内容を捉える。 ○登場人物と物語の関係について話し合う。 ○ハラハラドキドキさせる物語の組み立てについて、複数の物語から考える。 ○グループで物語の構想(人物設定等)を話し合う。	・物語をつくる際の人物設定や、事件や解決に至る展開などの組み立てについて、「三年とうげ」やこれまでに学習した物語の叙述や挿絵を根拠に話し合わせ、意識できるようにする。 ・子供たちの考えを視覚化するためにカードを用いて比較・分類しながらラベリングを行わせる。 ・同一人物を主人公とするグループを作り、人物設定、それぞれが書く場面を決定させる。	思 相手や目的を意識して、書く内容の中心を明確にしながら文章の構成を考えている。 [ワークシート]
三	9 10 11 12 13 14 15	○グループで互いのよさや物語の方向性を話し合いながら、冒険物語を書く。 ○冒険物語を書くことで身につけた力を振り返る。	・グループ内で書いたものを読み合う場を設け、登場人物の性格や特徴、事件や解決などの物語の方向性、表現のよさを共有させる。 ・子供たちの作品の中から数点を紹介しながら、表現の工夫のよさを価値づけ、それぞれの物語づくりの生かしていけるようにする。 ・個人での振り返りの前に、学級全体で身につけた力やできるようになったこと、考えたことなどを共有する。	知 登場人物の様子や行動などを表す語句を話や文章の中で使っている。[物語] 思 互いの文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。[振り返り] 主 人物や構成を工夫しようと、粘り強く物語を書こうとしている。[振り返り]

7 本時の学習（6／15）

（１）目標

ハラハラドキドキさせる物語の事件や解決の間に書くことを考える活動を通して、事件から解決に至る展開の効果を捉え物語を書くための構成例を見直すことができる。

（２）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○前時に気付いた構成に対する疑問・感想を基に、本時の課題を解決すれば、よりよいものができそうだという見通しをもたせ、解決する必要感をもたせるようにする。 <u>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</u> ○「事件がすぐに解決してしまうと面白くない。」「事件と解決の間があった方がハラハラドキドキさせられるんじゃないかな。」等の子供たちの感想を取り上げて、以下のような課題を設定する。	
ハラハラドキドキさせる物語の事件と解決の間には、どんなことを書けばいいのだろうか。			
30	2 ハラハラドキドキさせる物語の事件と解決の間にはどんなことを書けばいいかについて話し合う。	○「くじらぐも」を例に、「天までとどけ、一、二、三」の繰り返しに着目させ、その時の読み手の心理を捉えさせた上で、「三年とうげ」の事件から解決までの展開で繰り返される失敗を連想させる叙述が、読み手のハラハラドキドキにつながっていることに気付くようにする。 <u>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</u> ○「天までとどけ、一、二、三」を3回も言うことで、くじらと遊びたいという子供たちの気持ちの高まりと、読み手の応援したくなる気持ちの高まりの関係を捉え、「三年とうげ」のおじいさんが転んでから元気になるまでの間の叙述を根拠に、主人公の繰り返す行動描写が、読み手のハラハラドキドキにつながっているかを考えさせる。 <u>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</u> ○「真っ青になる」「がたがたふるえる」「おばあさんにしがみつき、おいおいなく」などの叙述を根拠に挙げ、事件から解決に至る展開を読んだ時の気持ちの変化の関係を基に、ハラハラドキドキさせる物語の事件から解決に至る展開についての納得解を生み出すことができるようにする。	心理曲線
5	3 物語づくりの構成例を見直す。	◆読み手をハラハラドキドキさせるために、構成例の事件と解決の間に、繰り返す失敗やピンチを付け加えている。 【発言・構成例】	構成例
5	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○本時で解決したことを振り返ることで、物語づくりの見通しをもてるようにする。	

【4年（話すこと・聞くこと）】

目的や役わりをいしきして話し合う みんななっとく学級会を開こう「クラスみんなで決めるには」

指導者 高濱 寿枝（あさぎり町立免田小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単
元

学びの土台

これまでの話し合いの経験を振り返り、そこで感じた課題点を共有することで、どのようにすれば課題点が解決し、みんなの考えが生かされる学級会になるのかという本単元の課題につなげるようにする。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

目的を考えて話し合い、多くの意見の中から多くの人が納得できる結論へと導く力。

言語活動

みんな納得学級会を開く

学習課題

みんななっとく学級会のひけつを見つけよう

<立ち止まって振り返る場>

前時と本時で「どのようなひけつを見つけたか。」「特にどのひけつを生かしたいか。」という2つの視点で振り返り、次時の話し合いの準備へと繋げるようにする。

<考えを表出し比較する場>

具体的な話し合い場面で、絞り込みの視点を複数提示する。それらを視点としてふさわしいかどうかベン図を用いて分類・整理する。迷う場合は中間にしておくようにすることで、全員が考えを表出できるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

意見の絞り込み方を確認した後、具体的な話し合い場面を提示する。そして、どんな絞り込みの視点にすると意見をまとめられるのかを考え、理由と共に伝え合う。そこから、決め方の視点の必要性を感じることができるようになる。

本
時

単元終了時の子供の姿

誰もが納得できるような話し合いをするためには、「目的」「役割意識」「視点を踏まえて比べること」が大切なことだと自覚し、これからの学級会などでも学んだことを生かそうとする子供。

第4学年1組 国語科学習指導案

指導者 あさぎり町立免田小学校 高濱 寿枝

- 1 単元名 目的や役わりをいしきして話し合う みんななっとく学級会を開こう
「クラスみんなで決めるには」(光村図書4年)
- 2 学習課題 みんななっとく学級会のひけつを見つけよう

指導事項 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめることができるようにする。 A 話すこと・聞くこと (1) オ

〔言葉の力〕 目的を考えて話し合い、多くの意見の中から多くの人が納得できる結論へと導く力。

〔言語活動〕 みんな納得学級会を開く。

3 単元について

＜教材観＞

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・ 司会などの役割を果たしながら、学級全体で話し合う際のよりよい進め方について考える活動を設定している。
- ・ 話し合いの準備の仕方や進め方の例やよい話し合いの見本が示されている。

以上の特徴から、見本を基に、参加者の多い話し合いで、多くの人が納得できる結論へと導いていく話し合い方について考えることができる教材である。それらを考えていく際に、子供たちが、自分の課題と結びつけ、解決策を見だし、生かそうとする姿が期待できる。そのような学びを生み出すために、「みんななっとく学級会のひけつを見つけよう」という学習課題を核にした単元を構想する。

＜児童観＞

子供たちは、これまで少人数のグループで司会などの役割を果たしながら、一つの観点で意見をまとめる経験をしている。

そのような学習を通して、話し合いの役割にはどのようなものがあるのか、どのような進め方をするのか等を理解している。しかし、学習後、継続した話し合いの活動は行っていないため、十分に定着しているとは言いがたい。また、学級全体での話し合いの経験は少なく、意見が発表できないことや、考えがまとまらないことを課題と感じているようである。一方で、自分の考えを積極的に発言できる子供は多く、学習意欲も高い。

＜視点について＞

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

第一次においては、これまでの話し合いの学習や経験を振り返り、学んだことや課題と感じていることを共有していく。その際3年生での学習内容と本単元での学習の共通点や相違点を明確にすることで、これまでの学びと本単元での学びがどのようにつながっているかを自覚できるようにしていく。また、みんなの意見が生かされる話し合いに近づくための学習計画をクラス全体で立てていくことで、見通しをもってゴールに向かうことができるようにする。

第二次においては、話し合いの見本を基に課題を解決する方法を考えていく。見つけた解決方法を確認したり、共有したりする場を授業の導入や終末等に設けることで、学びの価値を自覚できるようにしていく。

〔視点2〕 共に更新するための工夫

第一次において、うまくいかなかった話し合いの課題を共有する。第二次において、教科書の見本動画と改善すべき点が多い話し合いの動画を見比べ、課題の解決方法を探す場面を設定する。その際、意見のまとめ方に重点を置き、見本の話し合いから絞り込みの視点はどのように見つけるのかを考える。そこから「話し合いの目的」や「実行可能か」という視点で意見を整理する必要があることに気付くことができるようにする。その後、具体的な話し合いの場面を取り上げ、どのような絞り込みの視点にすればよいかを考えることで、絞り込みの視点の必要性を実感し、三次の話し合いへ繋げようとする姿を引き出すようにする。

4 単元目標

- 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。
(知・技)(2)イ
- 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。A話・聞く(1)オ
- 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり、分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。A話・聞く(1)ア
- 学習の見通しをもって、進んで司会などの役割を果たしながら話し合い、考えをまとめようとする。
(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解して使っている。	・目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり、分類したりして伝え合うために必要な事柄を選んでいく。 ・目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめている。	・目的を意識して課題を決め、学習の見通しをもって学級全体で進んで話し合っている。

6 指導と評価の計画(8時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準[評価方法]
一	1	○これまでの話し合い活動を振り返り、学習課題を設定する。	・話し合いの様子動画を視聴し課題を共有する。そこから、それらを解決しようという課題へと結び付けられるようにする。	
		〈学習課題〉 みんななっとく学級会のひけつを見つけよう。 ○学習計画を立て、取り上げる議題を決める。	・2回の話し合いを設定し、一つは子供たちが議題を選ぶことで、話し合いへの意欲を高めることができるようにする。	
二	2 3 本時 4	○話し合いの見本を基に、課題の解決方法を見つける。 ○話し合いの役割を決め準備をする。	・これまでの話し合いでの課題を再度提示し、それらを意識して話し合いの2つの動画を見ることができるようになる。 ・それぞれの役割の気をつけることを意識して次時の話し合いのための準備ができるように、役割ごとに個別に支援をする。	思 目的や進め方を確認し、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる方法について考えている。 [発言・ノート]
三	5	○1回目の学級会をする。	・二次の学習を基に、ポイントを確認し、それらを意識して話し合い、振り返ることができるようにする。	知 挙げられた意見を比較したり、分類したりして整理している。 [黒板・ノート] 思 目的を確認し、役割を果たしながら話し合い、互いの意見を比較して考えをまとめている。 [発言] 主 学習を通して、よさや課題を明確にし、自らの学習を調整しようとしている。[振り返り]
	6	○1回目の学級会を振り返り、2回目の学級会の準備をする。	・1回目のよさや課題を明確にして、2回目の話し合いのめあてへと繋げられるようにする。	
	7	○2回目の学級会をする。	・2回目の話し合いの振り返りをすると同時に、単元全体を振り返り、どのようなことが分かり、できるようになったか、身に付いた力についても確かめられるようにする。	
	8	○2回目の学級会を振り返り、どのような力が付いたか確かめる。		

7 本時の学習（3／8）

（1）目標

2つの動画を見比べることを通して、目的にそった絞り込みの視点を考えることができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
7	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○「みんな納得学級会」の秘訣として、どんな工夫を見つけたかを振り返る。 ○2本の動画を見て、みんなが納得する意見に絞り込むためには、意見を比べる必要があることに気付くことができるようにする。	カード 動画
表のし点はどのように決めればよいのか考えよう。			
28	2 表の絞り込みの視点について考える。 (1)絞り込みの視点は、どのように決まったのか考える。 (2)絞り込みの視点を考える具体的な場面を示し、どのような視点がよいか考える。	○ 表の絞り込みの視点がどのように決まったのかを知るために、話し合いの見本をもう一度確認するよう促す。 ○なぜ「時間がかからない」方がよいのかを尋ね、その理由にも目を向けることができるようにする。 ○表の絞り込みの視点は、一般化すると「話し合いの目的」と「本当にできるか」という視点になっていることを確認する。 ○具体的な話し合い場面を提示し、どのような視点にすればよいかを考える。 <u>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</u> ○意見の絞り込み方を確認した後、具体的な話し合い場面を提示する。そして、どんな絞り込みの視点にすると意見をまとめられるのかを考え、理由と共に伝え合う。そこから、絞り込みの視点の必要性を感じることができるようにする。 <u>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</u> ○具体的な話し合い場面で、絞り込みの視点を複数提示する。それらを視点としてふさわしいかどうかベン図を用いて分類・整理する。迷う場合は中間に置くようにすることで、全員が考えを表出できるようにする。	タブレット 端末
5	3 見つけた解決方法をまとめる。	◆話し合いの目的や状況を踏まえて、絞り込みの視点を分類している。〔発言・ノート〕	
5	4 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○役割ごとにまとめることで、次時の準備や話し合いの振り返りに生かせるようにする。 <u>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場の設定</u> ○前時と本時で「どのようなひけつを見つけたか。」「特にどのひけつを生かしたいか。」という2つの視点で振り返り、次時の話し合いの準備へと繋げるようにする。	

【5年（話すこと・聞くこと）】

相手にはっきり伝わる構成を考え、伝えたいことを資料にまとめて、「学校生活をよりよくするための『5年2組プレゼン大会』」をしよう。

指導者 近藤 拓斗（長崎市立西町小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

既習事項を想起したり、中学生のプレゼンや教師の模範を観たりして、プレゼンとは何かを知り、意欲を高められるようにする。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

事実と感想、意見を分けて構成を考え、伝えたいことと資料を関連させて話す力。

言語活動

学校生活をよりよくするための
「5年2組プレゼン大会」をする

学習課題

相手にはっきり伝わる構成を考え、伝えたいことを資料にまとめて、
「学校生活をよりよくするための『5年2組プレゼン大会』」をしよう

<立ち止まって振り返る場>

子供が視点をもとに、タブレット端末に自分の学びを振り返るようにする。自分の振り返りだけでなく、友達の振り返りを見ながら、次時の学習で身に付けていきたいことを見通せるようにする。

<考えを表出し比較する場>

タブレット端末を用いて、構成を考えたり、事実や意見、感想を色分けしたりすることで、意見を交流する必要性を感じられるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

構成の決め手やどんな言葉が相手にはっきり伝わる構成の手がかりになるか話し合うことで、「文末表現」を根拠として説明し、納得解を生み出すことができるようにする。

本時

単元終了時の子供の姿

事実と感想、意見を区別して、話の内容が明確になっているか粘り強く調整しながら、資料を効果的に用いて、説得力のあるスピーチをすることができる子供。

第5学年2組 国語科学習指導案

指導者 長崎市立西町小学校 近藤 拓斗

- 1 単元名 説得力のある提案を作り、「5年2組プレゼン大会」をしよう。
「提案しよう、言葉とわたしたち」（光村図書5年）
- 2 学習課題 相手にはっきり伝わる構成を考え、伝えたいことを資料にまとめて、「学校生活をよりよくするための『5年2組プレゼン大会』」をしよう。

指導事項 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。A 話すこと・聞くこと（1）イ

〔言葉の力〕 事実と感想、意見を分けて構成を考え、伝えたいことと資料を関連させて話す力。

〔言語活動〕 学校生活をよりよくするための「5年2組プレゼン大会」をする。

3 単元について

<教材観>

本単元は事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をすることが主な活動となる。提案という活動の特徴をしっかり押さえ、最も伝えたいことを明確にすることを意識できるようにする必要がある。そのために、「文末表現」や「接続語」に気を付けて構成を考えたり、詳しい内容を付け加えたりすることが重要である。

また、音声言語だけでは伝わりにくい部分を補うために、資料を用いることもねらいの一つである。提案の説得力を増すために、資料と伝えたい内容を整合させたり、提示するタイミングを検討したりすることが大切になってくる。

そこで、以上の学びを生み出すために、学校生活をよりよくするための『5年2組プレゼン大会』を行うという言語活動を核にした単元を構想する。

<児童観>

子供たちは、毎朝スピーチすることを通して人前で自分の考えを話す経験を重ねている。しかし、聴者の理解を確認しながら話すことや話の中心を明確にしたり、「はじめ・中・終わり」といった話の構成を考えたりして話すことについては、向上の余地がある。

そこで、本単元では、はっきりと相手に伝わる構成について検討したり、資料を効果的に扱っているか友達同士で見合ったりして、相手意識をもって、学習を進められるようにしていきたい。

<視点について>

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

第一次においては、これまでの既習事項を想起したり、中学生のプレゼンや教師の模範を観たりして、プレゼンとは何かを知り、意欲を高める。プレゼンの定義を確認する際に、みんなでより良くしていきたいことはないか問うと、学校生活のことが自ずと出てくるだろう。そこで、プレゼンのテーマを「学校生活をよりよくするため」とし、単元で身に付けたい力を考え、子供は、単元のゴールを見通すことができるだろう。

第二次においては、毎時間子供たちは、振り返りを「なしともも」(な)にをしたか、知ったこと、友達のよかったこと、もっと知りたいこと)の観点でタブレット端末に投稿する。その際、全員分の振り返りを可視化することで、自分達の学びを自覚しながら、振り返られるようにする。ここで困り感のある子供には、早く書けた子供の振り返りを参考にして書くように促していく。

〔視点2〕 共に更新するための工夫

構成がばらばらになった動画を視聴後、どうすれば相手にはっきり伝わる構成になるか課題を共有する。その後、タブレット端末を用いて、構成を整理したり、事実や意見、感想を色分けしたりする場を設けることで、話し合う必要感をもてるようにしたい。また、構成の決め手やどんな言葉が相手にはっきり伝わる構成になるか話し合うことで、「文末表現」を根拠として説明し、納得解を生み出すことができるようにする。

4 単元の日標

- 情報と情報との関係付けの仕方,図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
(知・技)(2)イ
- 話の内容が明確になるように事実と感想,意見とを区別するなど,話の構成を考えることができる。
A 話・聞(1)
- 学習課題を意識しながら,粘り強く話の構成を考えたり資料と関係付けたりし,自分の考えを発表しようとしている。
(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・図に話の構成を整理したり,伝えたいことを資料に表したりすることができる。	・何について話すかを明確にし,生活の問題点や調べたこと(事実)と考えたこと(感想),提案(意見)を分けて,話の構成を考えている。	・見通しをもって粘り強く話の構成を考えたり,資料と関係付けたりして自分の考えを伝えようとしている。

6 指導と評価の計画(8時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準[評価方法]
一	1	○これまでの学習を想起したり,動画や模範を観たりして,身に付けたい力を考え,学習計画を立てる。	・既習の単元を想起したり,実際に動画や模範を観たりして学習の意欲を高める。そして,これから身に付けたい力を確認し,学習の見通しをもたせられるようにする。	
〈学習課題〉 相手にはっきり伝わる構成を考え,伝えたいことを資料にまとめて,「学校生活をよりよくするための『5年2組プレゼン大会』」をしよう。				
二	2	○提案したいことを決める。	・事前のアンケートから集約した学校生活の課題と改善案を提示し,提案したいことを決められるようにする。	思 事実と感想,意見を分けて,話の構成を考えている。(第4時) [ワークシート・振り返り] 知 図に話の構成を整理したり,伝えたいことを資料に表したりすることができる。(第5時) [動画・振り返り]
	3	○目的に応じて根拠となる情報を集める。	・タブレット端末のアンケート機能やインターネット・文献などの方法から選んで情報を集められるようにする。	
	4 本時	○スピーチの構成について考え,スピーチメモ作成にとりかかる。	・構成がばらばらの動画モデルをもとに事実と感想,意見を分類する話し合いを行い,スピーチの構成を考えられるようにする。	
	5	○スピーチメモとスライドを作る。	・タブレット端末(スライド)を用いて,効果的な資料を作る。	
	6	○スピーチメモとスライドをもとに練習する。	・タブレット端末の動画撮影を行ったり,友達と見合ったりして,効果的に発表の練習をする。	
三	7	○『5年2組プレゼン大会』を行う。	・視点を与え,友達の良かったところをタブレット端末(スプレッドシート)に書き込みながら,提案を聞き合う。	主 見通しをもって粘り強く話の構成を考えたり資料と関係づけたりして自分の考えを伝えようとしている。 [振り返り]
	8	○単元の学習を振り返り,力が身についたかテストする。	・説得力のある提案にするために大切なことを班やクラス全体で共有しながら,学習を振り返り学んだことを自覚する。 ・自作の「話す・聞くテスト」を行い,力が身についたか確かめる。	

7 本時の学習（４／８）

（１）目標

構成について話し合うことを通して、「事実と感想、意見を分けて考えること」が相手にはっきりと伝わる構成であることを理解し、スピーチメモを作ることができる。

（２）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
5	1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○単元のめあてを提示し、計画をもとに、今日の学習活動を確認する。その後、構成がばらばらになった教師のプレゼン動画を見せ、課題意識をもてるようにする。	プレゼン動画
	どうすれば相手にはっきり伝わる構成になるだろう。		
15	2 スピーチの構成を整理する。	○3人グループや全体で、正しい構成を整理したり、事実と感想、意見を当てはめたりできるよう支援する。	タブレット端末
10	3 事実と感想、意見を明らかにすることのよさを話し合う。	〈視点2-①〉考えを表出し比較する場合 ○タブレット端末を用いて、構成を考えたり、事実や意見、感想を色分けしたりすることで、意見を交流する必要性を感じられるようにする。 〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○構成の決め手やどんな言葉が相手にはっきり伝わる構成になるか話し合うことで、「文末表現」を根拠として説明し、納得解を生み出すことができるようにする。	
	事実・感想・意見を分ければ、相手にはっきり伝わる構成になり、説得力が増す。		
10	4 本時のまとめや押さえたポイントをもとに、スピーチメモを簡条書きする。	○事実と感想、意見を明らかにしながら、ワークシートに書けるよう支援する。 ◆事実と感想、意見を分けて、構成を考えながら、スピーチメモを考えている。〔ワークシート〕	ワークシート
5	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場 ○「なしともも」の視点で、タブレット端末に自分の学びを振り返る。自分の振り返りだけでなく、友達の振り返りを見ながら、次時の学習で身に付けていきたいことを見通せるようにする。	タブレット端末

【6年（書くこと）】

書き表し方を工夫して、経験と考えをまとめた「卒業文集」を作ろう（「大切にしたい言葉」）

指導者 斉藤 友則（宮崎市立大塚小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

6年間でいろいろな言葉に出会ったり様々な経験を積んだりしていることを確認し、「座右の銘を選び、自分の経験や考えを結び付けながら卒業文集を書く」という学習の見通しをもつ。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

自分の経験と、そのときの自分の気持ちについて、簡単に書いたり詳しく書いたりしながら、考えたことや感じたことを伝える力

言語活動

座右の銘となる言葉を選んで「卒業文集」を作る

学習課題

座右の銘にしたい言葉を選び、それに結び付く経験と考えを伝えよう

<立ち止まって振り返る場>

「構成メモを自分の考えが十分に伝わるような文章にするにはどうしたらよいのか」等、前時学習後の思いを生かし、本時の課題を設定する。

<考えを表出し比較する場>

モデルの文章と不十分な文章の具体的な文章箇所と付箋を取り上げながら友達の考えを比較させ、「書き表し方のポイント」に対するそれぞれの考えを検討し合うことができるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

見つけたものがどのような書き表し方の工夫なのか根拠や理由付けをしながら話し合うとともに、教師が適宜、問い返しを行うことで考えをより深めさせ、「書き表し方のポイント」（納得解）としてまとめることができるようにする。

本時

単元終了時の子供の姿

目的や意図に応じて、よりの確な言葉を選んだり、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、書き表し方を粘り強く吟味し、自分の考えたことや感じたことを表現できる子供。

第6学年1組 国語科学習指導案

指導者 宮崎市立大塚小学校 斉藤 友則

- 1 単元名 書き表し方を工夫して、経験と考えをまとめた「卒業文集」を作ろう
「大切にしたい言葉」（光村図書6年）
- 2 学習課題 座右の銘にしたい言葉を選び、それに結び付く経験と考えを伝えよう。

指導事項 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 B書くこと（1）ウ

〔言葉の力〕 自分の経験と、そのときの自分の気持ちについて、簡単に書いたり詳しく書いたりしながら、考えたことや感じたことを伝える力。

〔言語活動〕 座右の銘となる言葉を選んで「卒業文集」を作る。

3 単元について

＜教材観＞

本教材の特徴としては、次の通りである。

- ・「座右の銘」と自分自身の経験とを結び付けて書く際に、これまでに書きためてきた読書記録や日記、道徳ノート等を活用することで、感動した言葉との出会いや、実生活の中で自分のものの見方や考え方が変わったエピソードを振り返ることが可能である。
- ・既習の文章構成を活用したり、下書きの文章表現について友達と推敲を行ったり、推敲後の文章を交流したりすることで、相手意識や目的をもち、協働的で対話的な学びにつなげることができる。

以上の特徴から、本教材の学習は、学びを自覚し、共に更新し続ける子供の育成を具現化する上で大変意義深い教材であると言える。そのような学びを生み出すために、『座右の銘となる言葉を選んで「卒業文集」を作る』という言語活動を核にした単元を構想する。

＜児童観＞

子供たちは、5年「日常を十七音で」や、6年「私たちにできること」及び「日本文化を発信しよう」を通して、伝えたい内容等に合わせた言葉や表現、構成を考えて文章を書く経験を積んできている。

そのような学習を通して、効果的に伝えるための構成や表現方法を意識することについては、ほとんどの子供が概ねできるようになってきている。しかし、自分の生活経験を結び付けて簡単に書いたり詳しく書いたりすることのできない子供もいる。

＜視点について＞

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

学習の学びの土台作りには、写真や日記、道徳のノート、読書記録を用いながら、6年間で経験してきた出来事を想起させ、自分を励ましたり目標としたりする言葉と出合っていることに気付かせる。また、これまで子供たちが出合ってきた言葉を蓄積させることで、目的意識をもって「座右の銘」にしたい言葉を選ぶことができるようにする。これらの活動を通して、「座右の銘となる言葉を選んで『卒業文集』を作る」という言語活動を設定し、学習課題へとつなげる。

単元全体を通しては、毎時間の学習計画と学習の振り返りを一枚のシートに書き留めさせ、「何を学んだのか、学び方はどうだったのか、今後の学習にどのように生かされるのか」等、自らの学びを自覚させ、立ち止まって振り返る場を設定する。

〔視点2〕 共に更新するための工夫

第二次において、「書き表し方のポイント」をまとめる際には、モデルの文章から書き表し方の工夫が見られる箇所を見つけて付箋に書いたり、それらをタブレット端末で共有したりさせることで、考えを表出したり比較したりする場を設ける。さらに、モデルの文章を基にして、自分の考えの根拠や理由を示して話し合わせるとともに、教師が積極的に問い返しをしながら子供たちの考えを充実させ、納得解を生み出させる。

第三次では、清書した文章を全体で読み合わせ、よりよい書き表し方や作品全体の感想について互いに交流させる。そのことにより、言葉による見方・考え方を働かせながら、自分の考えを再構築したり更新したりし、今後の学習や生活に生かすことができるようにする。

4 単元目標

- 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
(知・技)(1)オ
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
B書(1)ウ
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。
B書(1)カ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
(学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。	・自分の考えが伝わるように書き表し方を粘り強く吟味し、見通しをもって大切にしたい言葉についての文章を書こうとしている。

6 指導と評価の計画（7時間取り扱い）

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準〔評価方法〕
一	1	○「座右の銘」にしたい言葉を選び、経験と考えを結び付けながら書く、という学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	・教師のモデルの文章を提示し、「座右の銘」の言葉の意味を把握させることで、言語活動のイメージをもてるようにする。 ・教師のモデルの文章を基に、卒業文集にまとめるという目的意識をもたせ、どのような活動が必要かを考えさせることで、単元全体の学習課題を設定できるようにする。	
		〈学習課題〉 座右の銘にしたい言葉を選んで、書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えるための卒業文集を書こう。		
二	2	○座右の銘にしたい言葉と、それに関わる経験を決める。	・これまで蓄積させてきた言葉を振り返らせ、目的意識をもって「座右の銘」を選ぶことができるようにする。	
	3	○書く文章の構成を考える。	・タブレット端末で、カードを並べ替えさせることで構成メモを作る。	知 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、適切な語や語句を使っている。〔記述〕 思 目的や意図に応じて、簡単にしたり詳しくしたりして、経験や出来事等の描写と自分の考えを区別して書いている。〔記述〕 態 自分の考えが伝わるように書き表し方を粘り強く吟味し、見通しをもって書こうとしている。〔観察・記述〕
	4 本時	○モデルの文章と不十分な文章を比較して読み、「書き表し方のポイント」を整理する。	・モデルの文章と不十分な文章を比較し、「書き表し方のポイント」を見つけて整理する。例えば、どの部分を簡単に書いたり詳しく書いたりするかについて考えるようにする。	
	5 6	○下書きをする。 ○下書きを友達と読み合い、推敲箇所を見つける。 ○推敲箇所について、書き表し方を工夫しながらよりよい表現に書き改め、清書する。	・作成した構成メモを参考にする。 ・下書きを友達と読み合わせ、簡単に書いたり詳しく書いたりする表現について、付箋を使ってお互いに指摘できるようにする。 ・推敲箇所について、書き表し方を工夫しながら、よりよい表現に書き改めることができるようにする。	
三	7	○文章を読み合い、学習のまとめをする。	・心を動かされた内容や表現のよさを全体で共有させるとともに、学んだことを他の学習領域や今後の生活で活用できるようにする。	思 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところに気付いている。〔発言・記述〕

7 本時の学習（4／7）

（１）目標

モデルの文章と不十分な文章を比較検討することを通して、自分の考えが伝わるような書き表し方の工夫を考えることができる。

（２）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
10	1 前時学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○前時に作成した自分の構成メモを確認させ、モデルの文章と不十分な文章を提示することで、本時のめあてを把握できるようにする。 〈視点1－③〉立ち止まって振り返る場 ○「構成メモを自分の考えが十分に伝わるような文章にするにはどうしたらよいのか」等、前時学習後の思いを生かし、本時の課題を設定する。	モデルの文章 不十分な文章
自分の考えが十分に伝わる文章を書くには、どのような「書き表し方のポイント」があるのだろうか。			
10	2 モデルの文章と不十分な文章を比較して読み、「書き表し方のポイント」を見つける。	○モデルの文章と不十分な文章を比較し、相違点に着目させることで、よりよい文章にするための表現方法を「書き表し方のポイント」として見つけ、付箋に気付きを書く。 ○付箋はモデルの文章の該当箇所付近に貼らせ、その後の交流へとつなげることができるようにする。 〈視点2－①〉考えを表出し、比較する場 ○モデルの文章と不十分な文章の具体的な文章箇所と付箋を取り上げながら友達の考えを比較させ、「書き表し方のポイント」に対するそれぞれの考えを検討し合うことができるようにする。	付箋
20	3 それぞれが見つけた「書き表し方のポイント」について根拠を示しながら話し合い、全体でまとめる。	○共通のモデルの文章に付箋を持ち寄って、考えを集約させることで、友達との意見の共通点や相違点に気付くことができるようにする。 ○黒板上にはモデルの文章を、黒板横には不十分な文章を拡大して掲示し、それぞれを比較しながら話し合いを進めることができるようにする。 ○短冊に「書き表し方のポイント」についてのそれぞれの考えを書かせ、それに対応する具体的な文章箇所について、全体で整理することができるようにする。 〈視点2－②〉納得解を生み出す根拠や理由づけの充実 ○見つけたものがどのような書き表し方の工夫なのか根拠や理由付けをしながら話し合うとともに、教師が適宜、問い返しを行うことで考えをより深めさせ、「書き表し方のポイント」（納得解）としてまとめることができるようにする。	短冊
5	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○本時の学習を通して次時に生かしたいことを、振り返りカードに書かせることで、下書きにどのように生かすのか見通しをもつことができるようにする。 ◆自分の考えが伝わるような書き表し方の工夫を考え、下書きに生かしたいことを書いている。 〔振り返りカード〕	振り返りカード

【6年（読むこと）】

物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考え、伝え合おう（「海のいのち」）

指導者 内田 麻衣（合志市立西合志東小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に更新するための工夫

単元

学びの土台

既習の文学教材を通して、読み方の技能を確認するとともに、「自分に最も強く語りかけてきたこと」（主題）を考えることについてのイメージを揃える。

本単元で身に付けさせたい言葉の力

多様な描写を基に、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしながら読み、自分に最も強く語りかけてきたことを考える力。

言語活動

物語が自分に最も強く語りかけてきたことを伝え合う

学習課題

言葉に着目して物語を読み、自分に最も強く語りかけてきたことを考えて、伝え合おう

<立ち止まって振り返る場>

本時の学習につながる読みの視点から前時の学習を振り返っている児童を紹介し、課題解決に向かうための学び方を本時に生かせるようにする。

<考えを表出し比較する場>

グループでの話し合いの際には、ノートに書いた人物関係図や本文に書き込んできた気づき等を示しながら説明することで、考えの根拠や理由をはっきりさせるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

必要に応じて教師が問い返し、意見の根拠となる叙述を明確にしたり、児童の既有知識や生活経験を引き出したりして、納得解を生み出すことができるようにする。また、根拠となる叙述が同じでも意見や理由が違う場面を大切に、自分が着目している言葉を自覚しながら課題解決に向かうことができるようにする。

本時

単元終了時の子供の姿

言葉に着目して読むことで、より深く物語を味わうことができることに気づき、言葉を通して考えることを楽しみながら、進んで色々な本を読んで、自らの考えを広げようとする子

第6学年4組 国語科学習指導案

指導者 合志市立西合志東小学校 内田 麻衣

- 1 単元名 物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考え、伝え合おう
「海のいのち」(東京書籍6年)
- 2 学習課題 言葉に着目して物語を読み、自分に最も強く語りかけてきたことを考えて、伝え合おう。

指導事項 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるようにする。 C読むこと (1)オ

【言葉の力】 多様な描写を基に、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしながら読み、自分に最も強く語りかけてきたことを考える力。

【言語活動】 物語が自分に最も強く語りかけてきたことを伝え合う。

3 単元について

<教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・中心となる人物・太一が海に生きる様々な登場人物との関わりを通して成長していく様子が、時の経過とともに描かれている。
- ・人物の行動や台詞、情景描写から人物像や心情を読み取ることができる。
- ・山場での太一の変化から、作品の主題に迫ることができる。

以上の特徴から、文章の理解に基づいて、自分の考えをもつことに適した教材であると言える。また、教材の随所に描かれている示唆に満ちた細かな表現にも着目して読み、考えを交流することで、児童は多くの発見を得て、その気付きを伝えたいという主体的な思いをもつことができると思う。

<児童観>

子供たちはこれまで、比喻や情景描写に着目したり、人物の相互関係を考えたりしながら物語を読む経験を積み重ねている。しかし、自ら文章に根拠を求め、理由づけをして意見をまとめていく学習の経験は少なく、どこを読めばいいのか分からずに自信をもつことができない子供も多い。

このことから、単元前半で本文にもどって考えるという活動を丁寧に行い、学び方を定着させていくことが必要である。

<視点について>

【視点1】 学びを自覚するための手立て

第一次においては、既習の文学教材を読むことを通して、「物語の構成」「比喻」「情景描写」等の読み方の技能を確認し、主題を考えることについてのイメージを揃える。言葉に着目して読んだことで、今まで気付いていなかったことに気付くことができたという経験をする中で、読むことの楽しさや奥深さを味わわせたい。それにより、きっと、成長した自分たちは「海のいのち」も同じように読むことができそうだと、もっと深く考えながら読んでみたいという気持ちを喚起したい。また、毎時間の問いが最終的な学習課題の解決につながっているということを意識させながら問いの精選を行い、学習計画を立てることで、児童にゴールをはっきりと自覚させたい。

第二次においては、児童の課題意識を軸に学習を進めていく。毎時間、内容面についてまとめるとともに、「何に着目して読んだか」「読み方がどう変わったか」「なぜ変わったか」等の視点でも振り返りをさせるようにすることで、自分が立ち止まった言葉や学びの道筋を自覚させ、次時の学習に生かせるようにしたい。

【視点2】 共に更新するための工夫

学習課題について考える際には、必要に応じて教師が問い返したり、児童のつぶやきを広げたりしながら、児童の意見とその根拠となる叙述を明確にする。根拠となる叙述が同じでも、意見や理由が異なる場面を大切に、児童が多様な意見から常に自分の考えを広げたり再構築したりすることができるようにしたい。

また、児童が話したい時・聞きたい時を逃さずに話し合うことができるような場づくりや授業展開を工夫し、対話に必然性が生まれるようにする。それが、児童の学びに向かう力を引き出すことにつながると考える。

4 単元の見目

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 (知・技) (1) ク
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 C読 (1) エ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 C読 (1) オ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 (学・人)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。	・複数の叙述を結びつけて、人物像や物語の全体像を想像し、それと関わらせながら様々な表現が読み手に与える効果を考へている。 ・既宧の知識や理解した内容と結びつけて自分の考えを形成している。	・学習経験や読書経験を振り返って学習課題を確かめ、学習の見通しをもって粘り強く文章を読み、理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、伝え合おうとしている。

6 指導と評価の計画 (11時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○既習の文学教材を用いて読み方の技能を確認し、主題を捉えることに対するイメージを揃える。	・活動を通して「物語が自分に最も強く語りかけてきたこと」がどういふことなのかを、全員が捉えられるようにする。	
		〈学習課題〉 言葉に着目して物語を読み、自分に最も強く語りかけてきたことを伝え合おう。		
	2	○教材文を読み、場面構成やあらすじを確かめる。	・太一を中心に出来事や影響を与えた人物についてまとめ、物語のあらすじと場面構成を捉えることができるようにする。	
	3 4	○問いを出し合い単元計画を立てる。	・子供が出し合った問いを、学習課題の解決に向けて精選し、単元計画を立てる。 ・最初の時点で中心となる問いや最も強く語りかけてきたことについて考え、学習後の考えの深まりを感じられるようにする。	
二	5 6 7	○児童の問いを基に、太一と登場人物との関係を考へる。	・本文を根拠にして理由づけをしながら、人物同士の関係や、太一に与えた影響をまとめることができるようにする。	知 比喩や情景描写などの表現の工夫に気付いている。 [ノート・振り返り]
	8 本時	○山場における太一の変化を考へる。	・海中やクエの様子や描写、太一的心情が投影されている表現に着目させ、変化を説明する際の根拠となるようにする。	思 叙述を結びつけて人物像や物語の全体像を想像し、その表現の効果について考へている。 [ノート・振り返り・学習シート]
	9 10	○「海のいのち」とはどのようなことか考へ、物語が自分に最も強く語りかけてきたことをまとめる。	・問いに対する考えを毎時間まとめるとともに、表現面や学び方の面からも自分の学習を振り返らせ、考えの変化や深まりが自覚できるようにする。	
三	11	○まとめたことを交流 (読書会) し、話し合ったことを基に、自分の考えをまとめ直す。	・これまでまとめてきた問いに対する自分の考えや人物関係図等を、考えの根拠として示しながら交流させるようにする。 ・友達の話は視点に沿って聞くようにさせることで、交流しながら自分の考えを再構築していくことができるようにする。	思 理由と根拠を明らかにしながら、考えを形成している。 [学習シート] 主 学習を通して粘り強く考え、自分の考えを再構築しようとしている。 [学習シート・観察]

7 本時の学習（8／11）

（１）目標

比喩や情景描写などの言葉に着目して読むことを通して，中心人物の心情の変化の理由を考えることができる。

（２）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
5	1 単元計画と前時の学習を振り返り，本時の課題を捉える。	○児童が一番疑問に思っている「クエを殺さなかった太一の心情の変化とは？」という考えを共有し，本時の課題とする。 〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場 ○前時の学習を，本時の学習につながる読みの視点から振り返っている児童を紹介し，課題解決に向かうための学び方を本時に生かせるようにする。	振り返り
どうして，太一はクエを殺さなかったのだろう。			
10	2 本時の課題についての自分の考えをもつ。	○あらすじのまとめや，これまでに考えてきた問いとそれに対する児童の意見など学習の足跡を示し，課題解決に活用できるようにする。 〈視点2-①〉考えを表出し比較する場 ○グループでの話し合いの際には，ノートや本文に書き込んできた気付き等を示しながら説明することで，考えの根拠や理由が明確になるようにする。また，共通点や相違点，新たな気付きをその場で出し合いながら，話し合いを深めるようにする。	学習の足跡ノート
27	3 本時の課題について全体で話し合う。	○太一の心情が投影されている表現に着目している児童を起点に話し合いを進め，課題について多面的に考えることができるようにする。 〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由づけの充実 ○必要に応じて教師が問い返し，意見の根拠となる叙述を明確にしたり，児童の既有知識や生活経験を引き出したりして，納得解を生み出すことができるようにする。また，根拠となる叙述が同じでも意見や理由が異なる場面を大切にし，自分が着目している言葉を自覚しながら課題解決に向かうことができるようにする。 ○話し合ったことを基に，学習の始めにもった考えを問い直しながら，最終的な自分の考えをまとめることができるようにする。 ◆叙述を根拠に，太一がクエを殺さなかった理由について考え，自分の意見をもつことができる。 〔発言・ノート〕	
3	4 本時の学習を振り返り，次時の見通しをもつ。	○表現や学び方の面での気付きを促せるように，振り返りシートに視点を例示しておくようにする。	振り返り

分科会
提案資料

第1学年1組「話すこと・聞くこと」分科会提案

提案者 東京都 新宿区立落合第二小学校 井上 奈々

1 分科会テーマ

自己充実を目指し、「求めて聞く子」を育成する指導と評価の工夫

2 はじめに

本分科会は、伝え合う力の基礎となる「聞くこと」に焦点を当て、「話し手が伝えたいことと自分が聞く必要のあることの両面を意識しながら聞き、感想や考えを形成すること」を目指し、テーマを「自己実現を目指し、『求めて聞く子』を育成する指導と評価の工夫」とした。友達と話題を共有しながら、聞くことを通して自分の考えや感想が形成され、聞いてよかったという満足感や充実感を互いに味わうことで自己実現を目指す。また、自分の聞き方を評価し、学びを自覚しながらよりよく聞こうとする主体的な態度「求めて聞く子」を育成する。

1年生の子供は、学校生活や学校行事、家庭での出来事など、自分の経験の中で「楽しかったこと」「嬉しかったこと」を積極的に伝えている。「昨日は家でこんなことがあったよ。」「〇〇さんとこんなことをしたよ。」と自分自身に起こる日々の出来事を話すことに意欲的である。

しかし、聞き手となって、友達や先生が知らせたいことを落とさないように最後まで集中して聞いたり、自分が知りたいことを落とさないように聞いたりすることには、まだ難しい実態がある。また、よい姿勢で話を聞いているように見えていても、実際には漠然と聞いているだけで内容を捉えられていなかったり、大事なことを聞き逃したりしている子供も少なくない。

このことから、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさずに集中して聞くことが難しいという課題が挙げられる。この課題を受け、本単元では、「自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ力」を育むことが必要であると考えた。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

本単元では、「友達を紹介するために、よく聞く」ということを目的とし、友達に聞いたことを、他の友達に紹介する活動を設定した。友達紹介をするためには、1年生の思い出やできるようになったことなど、友達に聞きたいことを質問し（ともだちしらべ）、その回答をよく聞かなければならない。また、その子のよさをもっと伝えるためには、「なぜ」や「どのように」などの言葉を使って、さらに情報を聞き出さなくてはならない。

「ともだちしらべ」の際の聞き方を学ぶために、教師が実演するモデル動画とそのシナリオを教材とすることで、子供は興味をもって学ぶことができるようにした。うなずきながら聞いたり、笑顔で聞いたり、相づちを打ったりするなど、共感して聞くための態度や、さらに詳しく友達のことを知るための質問の仕方（聞き方のこつ）を学ぶことができるようにしている。この動画やシナリオを何度も繰り返し活用することで、よく聞くための態度やコツを理解し、実際の対話の中で習得できるようにした。

(2) 共に更新するための工夫

友達に質問したことをメモとしてワークシートに記入していくことで、子供は聞いた内容を客観的に見直すことができるだけでなく、次に自分が聞きたい内容を明確にもち、学びの振り返りや変容の自覚に効果的であると考えた。また、話し手の子供に質問を受けた時の感想を聞き、話し手の満足度を確かめる時間を設定する。このことで、聞き手が聞きたいことを聞き出せるような聞き方や、聞き手側の姿勢、表情、質問などの態度や聞き方のこつについて振り返ることができると考えた。

4 おわりに

「聞く」を態度面と聞き方のコツにという技能面に分け、1年生にも掴みやすいように単元を組み立てた。話し手に聞き手から質問を受けた時の感想（気持ち）を発表することは、聞き手への相互評価になった。

第2学年4組「書くこと」分科会提案

提案者 広島県 広島市立舟入小学校 作花 詞子

1 分科会テーマ

「書くこと」のよさを実感できる授業の実現

2 はじめに

「未来を拓く言葉の力を培う国語科学習の創造」に向けて、学びを自覚し共に更新し続ける子供を育成するためには、自分の考えを相手に伝えるために言葉を使うという意識をもつことができるようにすることが大切であると考えます。本研究では、自分の考えを言葉にする楽しさや伝わったときの喜びを実感できる授業を目指し、自分の考えを言葉で伝え合えることの価値に気付くことができるようにしていきたい。その目標を達成するために、「お話のさくしゃになろう」の学習で、物語を書き交流したことを振り返る活動を通して、「書くことのよさを実感できる授業」を実現したいと考えた。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

① 学びの土台づくり

「こんなもの、見つけたよ」で、「始め・中・終わり」の3段落で文章をまとめ、簡単な構成を考える力を付けたことを想起できるようにする。また、朝読書や読み聞かせを継続して行ったり、昔話出前授業を実施したりして、多様な人物像や物語の展開を考えることができるようにする。

② 学習課題

単元のはじめに、完成した物語を4年生に読み聞かせをするというゴールを示す。学習へ向かう意欲を高めるとともに、4年生に楽しんでもらえたという経験が、書いてよかったという達成感につながると考える。

③ 振り返り

毎時間の終わりに、つくりたい物語に近付けられたかを自己評価する時間を設定する。物語の展開が明確になるような構成にするために、この時間に学んだことが何かを振り返ることができるようにする。また、単元を通して、1枚の用紙に振り返りを記録することで、自分の努力や成長が感じられるようにする。

(2) 共に更新するための工夫

物語の内容を考える際に、「始め」「中」「終わり」に分かれたお話シートを活用する。メモを三つに分けて貼ることで、構成を意識しながら、自分の想像した事柄を表現できるようにする。そして、ペアで物語を説明し合う活動を通して、想像した事柄をより具体的にする場を設定する。内容メモを増やしたり、語と語や文と文の続き方を工夫したりして、自分のつくりたい物語になるよう構成や書き表し方を考えることができるようにする。

4 おわりに

子供たちは、物語づくりを通して、自分の自由な想像が言葉になる楽しさや、それが人に伝わる喜びを味わうことができた。「書くこと」に対する苦手意識を少し和らげることができたように思う。

今後も、子供たちが書くことのよさを実感し、自分の考えを進んで書いて伝えたいよう、実践を積み重ねていきたい。

第2学年1組 「読むこと」分科会提案

提案者 長崎県 川棚町立石木小学校 北川 翔太

1 分科会テーマ

子供たちが、主体的に取り組む「読むこと」の学習指導

2 はじめに

本学級の子供たちは、本を読むことが好きで、図書室の本の貸し出し冊数は多い。しかし、資料を流し見ているだけの子も多く、しっかりと本に書かれていることを理解できている子は少ない。また、資料をもとに調べて紹介する活動を1年生で行っているが、必要な情報を選び出すところまでは至っていない。本に親しみを持っているが、読む力や必要な情報を自分で選び出す力をつけさせる必要がある。子供たちがより主体的に読む目的を意識できるように、「どうして? どうぶつクイズ」を作り、1年生や全校児童に紹介するという最終目標を設定し、テーマの実現を目指して授業を行った。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

- ①「学びの土台作り」として、動物に関する図鑑や、すみかや食べ物に特化した本を学級文庫として紹介をし、日頃から動物に関係する本を見ることができるようにして、学習意欲を高められるようにした。
- ②「学びの指針となる『学習課題』」として、指導事項である「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」、言葉の力の「知りたいことを本で調べる力」を身につけさせるために、「どうして? どうぶつクイズ」という言語活動を通して学習できるように、学習課題を設定した。
- ③「立ち止まって振り返る場の設定」として、単元計画・身につけたい力・学習活動を教室内に掲示し、学習の流れや目的が常に見ることができるようにし、授業の導入で確認を行っていった。また、「知りたいことを本で調べる力」を身につけるために、「しらべ方名人のわざ」を増やしていき、授業の振り返りで学びを蓄積していくことをねらった。

(2) 共に更新するための工夫

- ①「考えを表出し、比較する場」の設定のために、子供たちがどの「びっくりポイント(体、行動、餌、巣)」を調べているかをお互いが分かるように、表に名前を記入して、確認できることをねらった。
- ②「納得解を生み出す根拠や理由づけの充実」として、同じ「びっくりポイント」を調べている相手との「わいわいタイム(ペア交流)」を実施し、読み取ることができているポイントをお互いに称賛したり、答えを探せずにいる子へアドバイスをしたり、自分の考えを修正したりすることをねらった。

4 おわりに

子供たちの意識として、「ビーバーの大工事」という説明文を読み取ることが目的ではなく、説明文の学習を通して、「びっくりポイント」を見つけるための読み方の方法を増やしていき、それが自分たちの「どうして? どうぶつクイズ」を作る力になっていることを実感として振り返ることができた。“主体的・対話的で深い学び”の実現に向けて、課題解決の必要性や目的を子供たちに理解させながら、子供たちの目的にあったペア学習を進めていく授業の工夫を、今後も続けていきたい。

第3学年3組「話すこと・聞くこと」分科会提案

提案者 宮崎県 宮崎大学教育学部附属小学校 佐藤 健一

1 分科会テーマ

子供が自分の学びを自覚し、更新させていく話すことの学習指導の在り方

2 はじめに

「学びのつながり」、「学びのゴール」、「学びの価値」この三つに対する自覚と、「協働的に学ぶ」ことによる考えの更新がある授業が、本大会における、「子供が『学びを自覚し、共に更新し続ける』授業」と捉えている。本学級の子供は、学びにおける三つの自覚についてまだまだ無自覚であったり、かかわり合うことに意欲的ではあるものの、理由に目を向けたやり取りに至っていなかったりする。そこで本提案では、「話すこと」に焦点を当て、後述する手立てを講じながら、本大会で掲げる授業の実現、さらには子供の育成を目指していきたい。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

① 学びの土台づくり

2年単元「すきな場しよを教えよう」を取り上げ、「始め-中-終わり」、「始めて話すことを伝える」等の既習を確認し、全員に想起させることで、既習を基に、既習と本単元との相違点を捉え、学びのつながりを自覚したうえで本単元の学習に取り組めるようにする。

② 学びの指針となる『学習課題』

既習の物語文「すいせんのラッパ」を基に、そのなかで登場する蟻が、好きな時間を仲間に話す場面設定を確認する。その後、本単元で扱う書き出しメモの特徴から話の中心の意味を理解させたり、蟻とのやり取りを通して、自分たちも好きな時間を共に考えていくことを確認したりすることで、単元のゴールイメージをもったり学習課題を設定したりできるようにする。

③ 立ち止まって振り返る場の設定

第二次の毎時間の終末に、始めと終わりの自分の考えを比較し、変容の有無を確認させることで、本時の学びを実感したり、言葉の力を自覚したりして学びの価値を自覚できるようにする。第三次では、これまでの学びを振り返ったり、本単元で身に付けた言葉の力が日常生活のどのような場面等で生かせそうかを言語化したりさせることで、話の中心が明確になっていることを実感し、学んだことを日常生活につなげる意欲や意識を高められるようにする。

(2) 共に更新するための工夫

① 考えを表出し、比較する場

第2次の書き出しや構成のメモを作成する際、タブレット端末によるピラミッドチャートやフィッシュボーンズの思考ツールを活用し、提出した各自の考えを配置や順序、色等の視点で比較させることで、思考を可視化し、自他の考えの共通点や相違点に気付けるようにする。

② 納得解を生み出す根拠や理由づけの充実

特に本時では、構成メモの終結部について、冒頭部や展開部の内容と異なる文章を提示し、その是非を問い、理由を説明させながら話し合わせることで、納得解を生み出せるようにする。

4 おわりに

本提案をとおして、話の中心が明確になるように話の構成を考えて、自分の伝えたいことを話すことができる子供、そして、学びにおける三つの自覚を行い、理由に着目したやり取りで共に考えを更新していく子供の姿を今後も広げていきたい。

第4学年1組「書くこと」分科会提案

提案者 福岡県 福津市立神興東小学校 杉本 竜也

1 分科会テーマ

子供が主語になる「書くこと」の学習指導

2 はじめに

言葉に着目し、自分なりの考えをもち、言葉による見方・考え方を働かせることを繰り返し、未来を拓く言葉の力を培うために、子供自身が「書くこと」における資質・能力を身に付け、発揮していくことができるような学習指導を行う。子供の実態として、教師に与えられた課題に対して、真剣に取り組むことができる。しかし、活動の目的を考えたり、課題意識をもって取り組もうとしたりすることができていない子供が多くいる。そこで、教師が子供に身に付けさせたい力を指導するだけでなく、子供が、身に付けようとする力と認識して学習することができるように、活動の目的や学習の目標を子供自身が自覚し、自ら学ぶことができるような学習過程をデザインしていく。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

まず、学びの土台づくりとして、さまざまな伝統工芸について調べる活動を通して、自分が価値を感じたものや、もっと知りたいと興味をもったものを選択できるようにする。次に、学びの指針となる学習課題として、リーフレットでよさを伝えるという言語活動を設定する。また、どのようなリーフレットにしたいかという子供の思いを大切に、子供が価値を感じたことや興味をもったことをよさとして発信していくことを学習課題として設定し共通理解を図る。そして、立ち止まって振り返る場の設定として、毎時間の自らの学びについて、子供自身がコメントする形で記述することができるようにする。ICTを活用し、リーフレットをタブレット端末で作成していくことで、その時間の進捗状況について客観的に見たり、前回との自分の考えの変容を自覚したりすることができるようにする。また、単元全体を通して子供が何を学んだのかを整理・分析したり、それぞれの振り返りを共有したりすることができるようにする。

(2) 共に更新するための工夫

子供が自分の考えを表出し、比較することができるように、自分が関心をもったことをどのようなよさとして伝えるのか構想段階でのメモを作成し、友達と見合う場を設定する。その中で子供は、自分が価値を感じたことをどのようによさとして伝えることができるか「言葉による見方・考え方」を働かせる。リーフレットを作成する中で、友達から読者の視点としてよさが伝わっているかアドバイスをもらうことができるようにする。その際、読者側は、それまでにどのような思いをもってリーフレットに書き表してきたのかを見ることができると、伝えたいと思っていることが伝わるようになっていくのかという視点で助言することができる。

4 おわりに

教師が子供に学ばせるのではなく、子供が自ら学んでいくことができるように授業をデザインしていくことで、「書くこと」における資質・能力を身に付け、発揮していくことができるようにしたい。活動の目的や学習のゴールが明確であれば子供は自分で学習を調整しながら学ぶことができると考える。今後も子供が主語になる国語科における学習指導を行うことができるようにしたい。

第4学年「読むこと」分科会提案

提案者 大分県 別府市立南小学校 甲斐 理彩

1 分科会テーマ

次代を生き抜く力を育む国語科授業の探究
～目的に応じて必要な言葉に着目し、適切に表現する「読むこと」の学習の工夫～

2 はじめに

大分県小国研では「次代を生き抜く力を育む国語科授業の探究」というテーマで「主体的・対話的で深い学び」のうち、主に「主体的な学び」に重点を置いて「学びのコーディネート」をキーワードに研究を進めてきた。これは熊本大会における「未来を拓く言葉の力を培う国語科学習の創造」の研究に通じる部分も大きい。そこで、子供が目的意識を持って主体的に取り組むことのできる学習をコーディネートするという意識のもと本テーマを設定し、言語活動として大分の伝統工芸について説明した文章を要約して学校の人々に紹介する活動を取り入れた。

児童の実態として、これまで「読むこと（説明文）」の学習においては目的や文章事実から逸れた読みになってしまうことがあった。また中心となる語は捉えられるが、なぜその言葉が大事なのか根拠をもって説明したり、中心となる語を使って考えを適切にまとめたりするところまでは至っていない子供もいる。

今回の言語活動を通して、目的に応じて必要な語に着目し、適切に表現する力を身につけ、今後の言語生活をより豊かなものにしてほしい。主体的に学び、対話を通して「言葉への自覚」を高めながら、生きて働く言葉の力を身につけさせたい。

3 研究の実際

（1）学びを自覚するための手立て

第一次では、和紙や大分の伝統工芸の実物や資料を見せ、その美しさや精巧さを実感させることで、その魅力を紹介カードで学校の人々に知らせたいという思いを持たせる。また、紹介カードに何をどうまとめていくかを話し合う中で既習事項である要約に目を向けさせ、そのよさを想起させながら課題につなげていく。学びのゴールを自覚し、見通しをもつことが主体的に学ぶ姿にもつながる。第二次では共通学習材で要約のしかたを学び「本時で学んだこと」「次時の学習に生かせること」の視点で、自らの学びを振り返る場を設定する。学びのつながりを自覚するために、常に相手意識を持たせ要約の目的に立ち返らせながら、要約に必要な中心となる語や段落の役割やまとまりに着目させる。第二次の学びを生かし、第三次では、教師が作成した「大分の伝統工芸」の複数の教材文のうち、児童が興味をひかれたものを一つ選び、要約して紹介カードを作る。交流後は本単元の学びの価値を共有し、次の学びへとつなぐ足がかりとしたい。

（2）共に更新するための工夫

本時では、中心となる語を見つける際、1枚につなげた教材文に線を引かせる。どの段落に出てくる語なのかを押さえながら個々の考えを位置づけることで、思考を可視化し、考えの共通点や相違点を視覚的に理解しやすくする。また、中心となる語だと考える根拠を明確にしながらか交流させることで、段落の役割やまとまりに着目させる。事例を踏まえながら具体的な語と抽象的な語の関係を捉えさせたり、要約の目的に立ち返らせたりしながら納得解を生み出していけるようにする。

4 おわりに

学習意欲を喚起するとともに、学習のゴールをイメージし、見通しをもたせる導入が大事である。学びを自覚し更新し続けるために、「①目的意識や相手意識を明確に持たせ、常にそこに立ち返る②振り返りの視点を焦点化する③学びの価値を共有し、次につなげる」ことを心がけて学習を展開した。子供一人一人が「伝えたい」という思いをもち、試行錯誤しながらも自分の言葉で表現する姿が見られた。こうしたことを繰り返しながら、目標に向かって粘り強く取り組み、豊かな言語感覚を身につけた子供を育てていきたい。

第5学年1組「書くこと」分科会提案

提案者 熊本県 甲佐町立龍野小学校 藤田 沙織

1 分科会テーマ

学んだことを活用し、自分の考えを主体的に表現することにつなぐ授業づくりの工夫

2 はじめに

「書きたい！」という意欲をどう引き出すか。これは、書くこと領域の授業づくりを考える際、常に課題となる自身のテーマである。本大会主題との関わりを考えると、児童が本来持っている書く力を支え、授業での学びを自覚できる手立てを講じることが、学んだことの活用につながるのではないかと考えた。さらに、書くという表現を通して学びを更新し続けるとは、児童同士が互いのよさに気付き、よりよい表現方法を発信していくことではないかと考え、上記の分科会テーマを設定した。

本学級の児童は、相手意識をもち文章を書く学習は複数回積み重ねてきている。ただ、資料の情報と自分の主張を関連付けて考えを述べる経験はなく、その方法や効果についても十分に捉えきれてはいない。そこで今回は、複合単元である読むことの学習で学んだ筆者の書き方の工夫を活用することで、書くことのよさを実感しながら自分の考えを主体的に表現することにつなげていきたいと考えた。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

第一次で、「社会はくらしやすい方向に向かっているか」というテーマで一つの資料と関係付けた文章を実際に書くことで、書き方の課題や疑問をもつことができた。さらに、甲佐町役場に展示する「なるほどレポート」を作成するために書き方を学ぼうと提案したことで、児童は書くことへの相手意識をもつとともに、学習への見通しをもって授業に臨むことにつながった。

第二次に至るまで、筆者の書き方の工夫やよさを繰り返し捉え直していたことで、児童は実際に書く際にも「自分たちの文章にも使えそうだ」という自覚をもって取り組んでいた。また相手を読みたくなる表現の工夫や、構成を意識した書き方等を児童の文章から取り上げ共有したことで、その効果やよさに関心をもって考えることができ、一人一人が学んだことを活用するという意識を高めることにつながった。

(2) 共に更新するための工夫

各論を書く際は、共通資料をもとに、個人、班、全体で書き方を検討し、そこでの学びを自分のレポートにつなぐという授業展開を位置づけた。このような推敲過程を繰り返すことで、一人一人が書き方の工夫に対する必要感を高めることができ、もっと効果的な表現方法はないか考えることにつながった。実際に、自分の「なるほどレポート」を書いていく際にも、書き方の工夫を意識的に活用しようとする姿が見られた。

4 おわりに

児童は本来、一人一人が書く力を備えている。その力を伸ばしていくためには、書くことへの必要感と書くことを支える具体的な手立てが重要であると今回改めて感じた。単元構成の工夫として、書くことでの学びにつなぐために説明文を読むという授業展開にしたことで、私自身、読むことの学習に対する授業づくりも見直すことができた。また、児童にとっては、読むことでの学びは書くことの学びにつながっていると実感しながら学習に臨むことで、書くことへの継続的な意欲につながっていた。児童にとっての学びの自覚が書くことへの自信につながっていると実感することができたのは嬉しい発見であった。児童の「書きたい！」という思いを大切に、一人一人が自分の考えを主体的に表現できる授業づくりに今後も取り組んでいきたい。

第5学年1組「読むこと」分科会提案

提案者 佐賀県 鹿島市立鹿島小学校 花島 宏明

1 分科会テーマ

人物像を具体的に想像し、読みと朗読をつなげる学習の工夫

2 はじめに

教材文「大造じいさんとがん」は、第5学年で学習する最後の物語文である。本年度培ってきた力、更には子供がこれまでに積み重ねてきた力を発揮しながら読み進めることのできる単元である。これまでも子供が言葉で立ち止まれるように、言葉の意味、働き、使い方などに着目できるように様々な仕掛けを単元の中で仕組み、子供が教師と一緒に言葉への自覚を高めることができるように指導してきた。本単元ではさらに子供自ら朗読を通して言葉に立ち止まり、その言葉に自分なりの考えをもつことができるように単元を仕組んでいる。さらに、その自分なりの表現読みと考えが他者と微かにズレることで対話の必然性を生み出し、共に更新していくことを目指し、本分科会のテーマを設定した。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

子供自らが創り上げる国語の学習を目指している。そのために、教師はスタート（ここで身に付けてほしい力）とゴール（言語活動）を提示し、ゴールの達成のためにどのような活動が必要になるのかを子供と共に、自分たちの考えた計画でゴールに向かうことを意識させている。

全単元の『注文の多い料理店』で同じような授業形態で「解説朗読」を行い、定期的に2年生と「朗読コラボ」を進めて行ってきた。人前で読むことに対しての障壁を取り除き、同じ土台（すべての子供が同じ学習方法を身に付け）で単元に入れるようにするためである。その他にも教科で横断的に単元のスタートで全子供の足並みが揃うような手立てを数多く行った。

学習の終末に書かせる振り返りには、前の学習や単元とのつながり（過去思考）、これからしてみたいこと（未来思考）と本時の学習（現在思考）その三つが線となり繋がることを意識させ、授業の始まりは、子供の振り返り（未来志向）からめあてに繋げ、学びを自覚するための手立て（オープンエンド方式の授業形態）とした。

(2) 共に更新するための工夫

「解説カード」を見比べると、同じ言葉からの解説でも他者と微妙にズレていくことに気付く。その微かなズレをお互いに比較検討し合ったり、更新していったりすることで、考えや理由付けを整理したり、再検討できるようにしたりして、言葉への自覚を高めていく。また、「解説カード」には、叙述の中から特に目を付けた言葉（心情が外化する動詞や助詞など）を子供に着目させ、教師が対話を仕組むことで、他者と考えを更新していくことができる。

本来朗読とは、音声のみだが、本授業では、映像として読み手を登場させて製作することで、読み手の表情や動作も確認することができる。音声だけが頼りの表現読みではなかなか思うようにできない子供も、読む表情や姿勢など視覚化することで人物像に迫れるようにしていく。

4 おわりに

日常生活の中でも、次々に流れ続けているたくさんの言葉。「子供自らがそれらの言葉で立ち止まってほしい」というこの思いから「大造じいさんとがん」を使って単元を設定した。本単元を他教科、他学年との横断的な指導との両輪で行ってきたことにより、日常生活の読書でも朗読的手法が生かされていくようになった。別のクラスでも先行授業を行ったが、子供の気持ちや性格を表す言葉の豊かさで読みの深まり（見えてくる人物像）が全く異なった。国語の授業を通してそれらの言葉を継続して獲得させていく必要があると感じた。言葉で立ち止まり、微かなズレを他者と検討し合い、自らの読みを深めていく子供を育てていきたいと考える共に、国語科で培ってきた手法を他教科でも使いこなしていくことで学習の話し合いが深まっていくと強く感じた。

第6学年ろ組「話すこと・聞くこと」分科会提案

提案者 鹿児島県 鹿児島大学教育学部附属小学校 原之園 翔吾

1 分科会テーマ

成長感と達成感のある「話すこと・聞くこと」の学習指導

2 はじめに

学研教育総合研究所の小学生「好きな教科・嫌いな教科」2021年8月調査ⁱによると、「国語」は、嫌いな教科第2位（男子 26.8%, 女子 12.0%, 全体 19.4%）との結果である。この結果を見ると、国語科教育に携る者のひとりとして「私は、本当に国語が好きな児童を育てているのだろうか」と、日々の実践営為を省察せざるを得ない。

児童が国語を嫌いになる理由に関して、「私はこんな力を身に付けた」「私はこんなことができた」という成長感や達成感が国語科の学習には乏しいとの指摘がなされているⁱⁱ。国語科の学びに「成長感」や「達成感」を生み出すためには、基調提案で指摘しているように、何を・いかに学んだのかという学びの自覚や、他者との協働的な課題解決が必要となってくるだろう。そこで、成長感と達成感のある「話すこと・聞くこと」の学習指導について、基調提案に基づきながら提案したい。

3 研究の実際

（1）学びを自覚するための手立て

① 学びの土台づくり

ア 「試しの活動」の設定による既有知識の想起

⇒単元の初めに動画撮影に挑戦し、成果と課題を明らかにする話し合い活動を設定する

イ 「読むこと」領域と接続する単元のデザイン

⇒「海の命(光村6年)」や並行読書によって自分の「生き方」を明確にしていく

② 学びの指針となる「学習課題」

ウ 児童の生活の文脈に即した必然性のある言語活動の設定

⇒卒業タイムカプセルに動画メッセージを入れるという言語活動を設定する

エ 身に付ける力の明確化

⇒本単元で身に付ける「話の構成を考える力」「効果的に伝える力」を児童と共有する

③ 立ち止まって振り返る場の設定

オ 「書く」と「話す」の二つの振り返りの設定

⇒振り返りをノートに記述することに加え、動画に「話す」ことで残す活動を設定する

（2）共に更新するための工夫

① 考えを表出し、比較する場

カ 音声言語の可視化

⇒文字化資料や動画資料の活用により「言葉」を視覚的に捉えられるようにする

② 納得解を生み出す根拠や理由づけの充実

キ 児童が学びを組み立て、発展していく「学び方」の育成

⇒本単元に限らず、児童が自分たちで学んでいく「学び方」を発揮した際に価値付けたり、教師自らが問い返したり、根拠を明確にしたりする「学び方」のモデルを示す。

4 おわりに

8年後の自分自身という「相手」や、動画メッセージを残す「目的」に応じて、児童らは他者と協働的に学びながら、自分の話の構成や伝え方を吟味・修正し続けた。成長感や達成感がある学びをデザインしていくことは、児童の主体的な言葉学びを創造し、言葉の力を育んでいくと考える。

i 学研教育総合研究所 (<https://www.gakken.co.jp/kyouikusouken/whitepaper/202108/chapter8/01.html>)

ii 例えば、国語科教育の先行研究である鶴田清司(2008)は、「読解力」の育成に関して、児童が自身の言葉の力の成長（技が上達した実感）を自覚することの重要性を指摘している（『読解力を高める国語科授業の改革』、明治図書）。

第1学年2組「書くこと」分科会提案

提案者 熊本市立託麻原小学校 中島 麗子

1 分科会テーマ

書きたいという意欲を大切に、順序に気をつけて書く力を育てる国語科学習の創造

2 はじめに

1年生は、ひらがなに始まり、カタカナ、漢字と「書く」活動の土台となる文字の習得において大変文量が多く、難しい。文字の学習と合わせて、あらゆる活動の中を通して文章の量が少しずつ増え、作文へとつながっていくのだが、文量を増やすことは子どもにとって難しいことの1つだと思う。自分で書きたい題材を決めて、必要な事柄を集めることは、1年生ではまだ難しい。一方で、「伝えたい」「おしゃべりしたい」という意欲は高く、毎日の出来事を担任に伝えることは大好きである。この実態をふまえて、1年生では「書く」意欲を大切にしつつ、そして「書く」技能をしっかりと身に付けた子どもを育てていきたい。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

単元の導入では、入学後から今まで書きためてきた材料を十分に振り返る時間を設ける。国語科の絵日記等に限らず、生活科での朝顔や昆虫の観察で気付いたことや発見したことをまとめたシートも活用したい。また、学校行事の写真を一緒に活用することで、入学後からの思い出と一緒に共有することを通して、友達と話し合いながら、自分が書きたい事柄を決めることができるようにする。その際、最後に学級みんなで読み合うことや、あらためて家族にも伝えることを想定して、学習計画を立てていくようにする。「伝えたい」という思いを膨らませた上で、『つとておきの思い出作文』を書こう」という学習課題を設定する。そして、学習途中で友達とメモを読み合う活動を通して、伝えたいことが相手に分かりやすい順序になっているかを検討する時間を設ける。このような学習過程の中で、十分に自分の学びを自覚できるようにしたい。

(2) 共に更新するための工夫

本単元では、以下の手立てを設けていく。

① 文章を比較する

書きたいことが決まったら、材料をカードにまとめていく。そのカードを並べ替えて、相手に伝わりやすくするための順序を考えていく。その際に、出来事の順序が異なる文章を提示することで、正しい順序について考える活動を取り入れる。この場合、時間の流れに着目する形になるが、話し合う活動の中で、子ども自身が気付くことができるようにしたい。

② 振り返りの場を設定する

各学習活動を進める中で、自分の学びがどうだったのか、適時振り返る時間を設けていく。振り返りも書く活動にあたるので、視点を明確に与えながら書くことができるようにする。また、授業の導入時に紹介することを通して、友達のよさや自分の成長を感じて互いに喜び合うことができるようにする。

4 おわりに

名前を書くことも拙かった入学当初から、様々な場面で書く活動が増えてきている1年生を見てみると、自分が書いたものを読んでもらう嬉しさや友達が書いたものを読む楽しさを、心から感じている姿が見られるようになった。この「書きたい」「伝えたい」意欲を大切にしつつ、友達や家族からほめてもらう経験を通して達成感をもつことができるようにしていきたい。この経験がさらなる書く意欲へと繋がっていくと考える。

第1学年2組「読むこと」分科会提案

提案者 福岡県 福岡市立金武小学校 檜崎 公美子

1 分科会テーマ

読み書き連動型の学習指導の工夫 ～デジタルじどう車ずかん作りを通して～

2 はじめに

教科書では、「じどう車くらべ」を読んだ後に、自動車図鑑を書く単位が続いている。そのため、読んだことを生かして書く力を螺旋的に高めることができるように、「読むこと」「書くこと」を交互に繰り返す単元を構想した。子供が学びのつながりを意識しながら、「自動車図鑑を作る」という学びのゴールを自覚し、毎時間学びを振り返り、自分の自動車図鑑を作ろうとする意欲や読んだことを生かして書けたという達成感や満足感を味わえるようにすることで、学びの価値を自覚できるのではないかと考えた。

子供たちはこれまでに、「読むこと」において、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉える学習を繰り返している。また、「書くこと」において、対象をよく観察して分かったことや見つけたことを文章にする経験をしている。これらの学習を踏まえ、自動車図鑑を作るために自動車の「しごと」と「つくり」を読むという必要感をもたせて教材文を読み、読んだことを生かして書いた図鑑プリントをタブレットで撮影してつなぎ、オリジナルのデジタル自動車図鑑を作成することとした。デジタル化することで、友達との共有もしやすく、学びの蓄積により、次の学習の土台作りにも役立つと考える。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

まず、ICTを活用してこれまでの説明文の学習を振り返り、「問いに対する答えを見つけて読む」「事柄の順序を読む」「挿絵や写真を手がかりにして内容を読む」といった経験を想起させ、学びの土台づくりをする。次に、題名と冒頭文を読み、言葉と挿絵、言葉と生活経験をつなぎながら自動車の形や大きさ等の車同士の違いに着目し、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を意識できるようにする。そして、モデルとなるデジタル自動車図鑑を提示し、読んだことを生かして自分が選んだ自動車図鑑を作るというゴールの姿を提示し、学習課題を設定する。さらに、「読むこと」「書くこと」を交互に繰り返す単元構成を工夫することで、学習を進めるごとに図鑑のページが増え、書き方を理解し活用できるようになる等の達成感や満足感を味わわせる。そして、毎時間の始めと終わりに振り返り活動を位置付けることで、学びの価値を自覚できるようにする。

(2) 共に更新するための工夫

自動車の「しごと」につながる「つくり」について、例えば、荷物を運ぶトラックの「広い荷台になっているよさ」や「タイヤがたくさんついているよさ」について話し合い、子供の考えの共通点や相違点を板書で整理していく。その際、子供がどの言葉に立ち止まり、どう考えたのかが分かるように、文章と挿絵をつないだり、文章と生活をつないだりしながら構造的に板書に表す。

また、本当に「しごと」に合った「つくり」になっているのか、発問や問い返し、音読の工夫を行うことで、「そのために」の言葉の意味や働きに気付かせたり、説明の順序を確かめたりする。

4 おわりに

「読むこと」「書くこと」を交互に繰り返す単元構成の工夫を通して、「読む力」「書く力」を同時に高めていくことができると考える。また、教材文の言葉に立ち止まり、先生や友達、自分と対話することを通して、言葉の意味や働きに気付き、理解し活用することで、確かな言葉の力を身に付け、未来を拓く豊かな言葉の使い手になってほしいと願っている。

第2学年「話すこと・聞くこと」分科会提案

提案者 佐賀県 神崎市立神埼小学校 高野 那美

1 分科会テーマ

自己を振り返りながら「話すこと・聞くこと」の力を段階的につけていく指導の工夫

2 はじめに

未来を拓いていく子供たちに必要なものとは何だろうか。未来を拓いていくためには、対話と協働がキーワードになる。対話・協働といえはコミュニケーション力が中心の力と考えられる。

コミュニケーションの力は、自分が話したいことを一方的に話すということではなく、相手のことも考えながら話したり、聞いたりすることをくり返していく。そこには、内容面と技能面において、相手に寄り添うものが必要であると考えられる。この力をつけるためには、自分の話し方・聞き方をモニタリングし、足りない部分をスモールステップでつけていくことが効果的であると考えた。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

子供たちはこれまでの国語科の学習で話すこと・聞くことについて身につけてきたものがある。しかし、それは無自覚であることがほとんどであるといっても過言ではない。そこで、実際に指導者が作成したモデルを動画で見せながら解説し、これまで学習してきたことについても振り返りをさせる。その上で、できていなかったこと、今後身に付けたいことについて自覚させ、目標をもたせる。

子供たちの活動については、話す内容とともに話し方や仕草なども振り返ることができるようにするようタブレットで動画を撮影しながら活動させる。その振り返りから、自分の現状を確認させ、話す内容や話し方・聞き方について一体的で段階的に足りない部分を付け加えるようにする。

(2) 共に更新するための工夫

相談者の悩みは3名程度の回答者が順に回答していく。その際には他の回答者の内容と自分の内容を比較し、共通点や相違点を見つけ出ししていく。また、他のグループの回答について、指導者が情報提供し、自分たちの話し方・聞き方と比較することで、自分たちが身に付けるべきこと、すでに身に付いていることの確認が行われる。身に付いていないことについては、次の機会にその部分を意識しながら活動することで、学びへと向かわせる。

話の内容、話し方・聞き方については共通点や相違点が明らかになっても、そのことの善し悪しは、子供には判断がつかないことが多い。そこで、指導者の情報提供の後には、よいことなのか、どうかについて理由や根拠を考えさせ、価値付けをさせる。そのことの納得によって、子供たちは、自分の今後の回答に取り入れたり、話し方・聞き方に取り入れたりするようになると考える。

4 おわりに

これまで、単元の中につけたい力や知識・技能があると一度に提示して、使わせる、身につけさせるという手法を採ってきたことが多い。しかし、一人一人の力の違いを考えると単元の中でも段階的に身に付けさせることが個に応じることにつながるのではないかと考えた。できるかどうかを評価することも大事だが、身に付けるべき力の段階的な中のどの部分に自分は居て、次にどのような力をつけていけばよいのかということが明らかになっていることは、主体的な学びにつながるものとなる。

話し合いを含めた話すこと・聞くことの活動は、自分でモニタリングすることは困難であったし、指導者による評価やフィードバックも簡単ではなかった。タブレットの導入によって、これらの部分は解決できそうである。さらに、効果的な使い方を探ると評価や振り返りに大いに生かせそうである。

第3学年6組「読むこと」分科会提案

提案者 大分県 大分市立明治小学校 水間 清香

1 分科会テーマ

次代を生き抜く力を育む読むことの授業の研究
～過去と現在の学び・自己と他者・日常と授業をつなげる～

2 はじめに

今後、子どもたちが生きていく社会は、多様性の幅がより広がり、さまざまな価値観の中で、より個人としての生き方が問われる社会になると考える。誰かの模倣をし続けたり、決断を他者に依存したりすると、ますます生きづらくなってしまいうように思う。そんな社会の中で大切なのは、自分の考えをもち、悲観せずに他者と比べたり協働したりすることを通して、解決策を見出すことだ。これは、本大会のテーマである「学びを自覚し、共に更新し続ける子供の育成」にも重なる。

このような力を育てるためには、過去と現在の学びをつなげて考えることが必要だと考える。以前は失敗だと思っていたことや何気なく考えていたことなどが意味をもち、解決のヒントになったり、自分の考えをより軸のあるものにしたりする。さらにそこに他者との協働が加わることで、新たな考えを生み出したり、考えを広げたりすることができる。

3年6組の子供たちは「いろんなことを知りたい」「できるようになりたい」という前向きな気持ちをもっている。授業で自分の考えを書いた後は「友達の考えも知りたい」という発言をする。子供たちのもつ、純粋な学びへの好奇心や意欲を削ぐことなく、今後も伸ばしていきたい。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

導入で栄養教諭が「給食週間の企画として、食べ物ひみつ巻物を作ってほしい」と子供たちに投げかけ、子供たちは「どうしたら巻物を作れるのだろう」という問いをもつだろう。そこで、教師が『すがたをかえる大豆』の説明の仕方を真似してみよう」と提案し、「国分さんの説明の仕方の工夫を読み、『食べ物ひみつ巻物』を作ろう」という学習課題をもつ。さらにその後、既習教材を扱うことで、学びのつながりを意識させる。1学期の既習教材だけでなく、1年生の時に学んだ「じどう車くらべ」も扱うことで、本単元に入る上でのハードルを低くし、どの子も参加できるようにしたい。また、1年生からの学びが3年生の学びにも繋がっていることにも気付かせたい。毎時間終了後に、学習の振り返りを書き、自分の学びを自覚できるようにする。

(2) 共に更新するための工夫

自分と他者の考えの共通点や相違点を見つけるために、国分さんの例の並び順のいいところを、付箋に書き出し、全体発表の際に、意見ごとにグルーピングして板書する。

「国分さんの例の書き方はなぜ違和感なく読めたのか」について考える際に、エラーモデルとの比較や、既習事項を根拠とすることで、国分さんの例の書き方の良さについての納得解を生み出す。

4 おわりに

昨年度、与えられた言語活動の中での主体性は、本当に子供たちが今後生き抜く力に変わるのだろうかという疑問から、一人一人が問いをもち解決していく授業を5年生で行った。今年は、純粋に国語の授業を楽しんでほしいという思いもあり、日常と繋がる言語活動を設定し、子供たちが前のめりになるような授業を考えた。その中で気付いたことは、言語活動を通して身に付けた力が土台になり、自ら課題や解決策を見出せる力に繋がるのではないかということだ。今後も、子供たちが自分の力を信じて未知の課題にも挑戦できるように、学びを楽しむ授業を考えていきたい。

第3学年い組「書くこと」分科会提案

提案者 鹿児島県 鹿児島市立東谷山小学校 亀崎 智明

1 分科会テーマ

作家の工夫を意識させる単元構成

2 はじめに

物語づくりの学習は想像の世界に浸れる時間であることから、子供たちはこの学習を大変好んでいる。ところが、それは自分自身の中だけの話であり、読み手に面白いと思ってもらえる物語を書くこととなると話は変わってくる。読み手に面白いと言ってもらえる物語をつくるためには、「じっくり考える」「何度も考え直す」など、一生懸命書くための材料を探したり、選んだり、組み直したりする必要があるからである。もし、こうしたことを効果的に学びながら「物語づくり」に取り組むことができるのであれば、子供たちにとって「思考力・判断力・表現力等」の能力を駆使させながら、主体的・対話的で深い学びにつながる魅力的な言語活動であると言える。

私たちは、読み手を面白いと思わせ書き手自身も納得できる物語を書かせるための授業を構想するに当たり、学習指導要領国語編「第3・4学年 書くこと(2)ウ」の解説に示された次の文に着目した。

作家の創作による物語は、主人公やその他の登場人物がそれぞれの役割をもっていたり、冒頭部に状況や登場人物が設定され、事件とその解決が繰り返され発端から結末へと至る展開によって構成されていたりするなどの工夫がなされている。児童が物語をつくる際には、このような工夫を参考にすることも考えられる。（【国語編】学習指導要領解説 p 107. 波線亀崎。）

波線には、作家の「工夫を参考にすることも考えられる」とあるが、私たちが目指したのは、作者の創作にみられる「主人公の役割」「事件や解決に至る展開」などの工夫である「見方・考え方」を子供たちが意識的に働かせながら物語を書くことができるような単元を構築することである。

以上のことを踏まえ、本研究では、作者の工夫を意識させ物語を書かせるために、主教材「たから島のぼうけん（光村三年下）」と、直前に学ぶ物語「三年とうげ」や既習の物語などを関連させた物語づくりの単元構成を提案する。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

- 学びの土台となる2年「お話のさくしゃになろう」で学んだ構成や、既習の物語を基に事件や解決に至る展開について思い起こさせるために、教材を用意しておく。
- 学びの指針となる学習課題としては、相手・目的意識を明確した上で、「登場人物や組み立てを考え、4年生をハラハラドキドキさせるぼうけん物語を書こう」と設定する。
- 学びの価値を自覚させるために、物語づくりに関心をもたせる段階、物語の書くコツを意欲的に探究する段階、粘り強く物語を書く段階で何をどのように学び、次に何を生かしていくかを共有する振り返る場を位置づけ、その都度、教師が価値づけていく。

(2) 共に更新するための工夫

- 考えを表出し、比較させるための場として、自分が主人公にしたい人物の特徴の共通性・類似性を踏まえ、物語の共同制作グループを作らせる。また、物語の下書き段階では、制作途中の作品を共有する場を設け、互いの作品中のつながりを意識して創作できるようにさせる。
- 納得する作品を生み出す根拠や理由付けとして、「三年とうげ」と他の物語の人物設定や組み立てを比較・関係づけながら、作者の工夫が意識できるように単元構成を工夫する。

4 おわりに

本研究では、グループごとに「たから島〇〇の大ぼうけん」（〇〇は主人公名）という題で、宝島の場面を分担して一つの物語として共同制作した作品が仕上がった。子供たちが書いた作品は、人物の特徴・役割が明確となり、ハラハラドキドキさせる組み立てが工夫された内容が充実した作品が多くみられた。このことから、子供自身が納得する作品を生み出すために、「三年とうげ」や他の物語と関連させながら作者の工夫を意識させるような単元構成は有効であったと考える。

第4学年1組「話すこと・聞くこと」分科会提案

提案者 熊本県 あさぎり町立免田小学校 高濱 寿枝

1 分科会テーマ

児童一人一人が「分かった」「できた」「やってみたい」と言える授業づくり

2 はじめに

校内の授業研究会の中で「やっぱり問題文を読んで理解する力が大切だ。」「相手が理解しているか確認しながら説明する力を高めたい。」という意見が何度も挙げられた。その度に、国語科授業の役割について考え、児童がその授業の中だけでなく、他教科や日常生活で学びを生かそうとする姿を目指していかなければならないと感じている。これは、本大会の研究主題「未来を拓く言葉の力を培う国語科学習の創造」とも繋がるものである。

そこで、授業を通して、児童一人一人が「わかった」を実感し、それを使って自分で「できた」を味わい、更に次の授業や他の場面で「やってみたい」と言えるような授業をつくりたいと思い、このような分科会テーマを設定した。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

児童は、3年生で班ごとに役割を意識して話し合う学習を経験している。しかし、学習後、継続的に班での話し合い等は行っていないため、学びが十分に定着しているとは言い難い。そこで、単元の導入では、3年生での学びを振り返り、これまでの学びを確かめるようにした。その後、実際に自分たちが話し合いをしている様子を撮影した動画を視聴した。その中で、自分たちの話し合いの課題を見つけ、それらを解決する方法を考えていくことを学習課題として設定することで、児童の学習意欲を高めるようにした。

(2) 共に更新するための工夫

二次において教科書に示されている見本の話し合いと教師が作成した悪い例の話し合いの二つの動画を見比べ、その違いから話し合いの課題の解決方法を探す場面を設定した。その中でも意見を絞り込んでいく方法に重点を置き、意見の整理の仕方や絞り込みの視点の決め方について見本をもとに考えることができるようにした。更に、具体的な話し合い場面を提示し、学んだことを活用する活動を設定した。実際に「どのような絞り込みの視点がよいか」を考えたり、絞り込みの視点に従って意見を整理したりすることを通して、そのよさや必要性を感じることができるようにした。それらを通して、学びを第三次の話し合いへと繋げようとする姿を引き出すことができるようにした。

4 おわりに

本時の授業では、二つの動画の比較から解決方法について考え「わかった」を感じられるようにした。また、見つけた解決方法を様々な場面で活用できるよう一般化してまとめた。更に具体的な話し合い場面を提示し、一般化したものをもう一度具体化することを通して、「できた」を味わうことができるようにした。授業の中でこのような具体化と一般化をくり返すことで、学んだことを生かす機会を確保し、国語科の学びを生かそうとする児童の姿へと近づけることを目指した。今後も具体化と抽象化をくり返すことを通して、児童が「わかった」「できた」「やってみたい」と言える授業づくりに努めたい。

第5学年2組「話すこと・聞くこと」分科会提案

提案者 長崎県 長崎市立西町小学校 近藤 拓斗

1 分科会テーマ

主体的に表現しようとする子供の育成
～ ICT 機器の活用を通して ～

2 はじめに

本学級の実態として、学びに対する困り感を抱いている子供が多く、主体的に学習に参加できるように手立てを模索している状況である。そこで、分科会テーマを上記の通りにした。大会の柱である「学びを自覚し、共に更新し続ける」授業の創造のため、本学級の子供たちには、まず「諦めずに学習に向かおうとする主体性」の育成が必要不可欠だと考えたからである。副題については、子供たちのタブレット端末を利用した際の学習意欲が高く、実態と合っていることから、主体性向上の切り口として設定した。

以上の経緯から、今回「話すこと、聞くこと」の「相手にはっきり伝わる構成を考え、学校生活をよりよくするための『5年2組プレゼン大会』をしよう」という単元を構想し、テーマの実現を目指して授業を行った。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

- ①「学びの土台作り」として、昨年度の「話すこと・聞くこと」の既習事項の確認、YouTube や教師の模範を観ることを通して、「プレゼン」について知り、意欲を高めることをねらった。
- ②「学びの指針となる『学習課題』」として、「指導事項＋言語活動」で学習課題を設定し、何を学ぶために「プレゼン大会」があるのか、意識化することをねらった。
- ③「立ち止まって振り返る場の設定」として、タブレット端末を用いて Classroom に本時の振り返りを投稿していくことで、学びを蓄積することをねらった。また、振り返りの視点を与えたり、全員の振り返りを可視化したりして、困り感のある子供もそれらを参考にできるようにした。

(2) 共に更新するための工夫

- ①「考えを表出し、比較する場」の設定のために、本時においては、正しい構成に入れ替えたり、事実や感想、意見を当てはめたりすることで比較・検討する場を位置付けた。またその際、タブレット端末を用いて、Jamboard に思考を整理しながら、話し合うことをねらった。
- ②「納得解を生み出す根拠や理由づけの充実」として、構成の決め手やどんな言葉が相手にはっきり伝わる構成になるか話し合うことで、「文末表現」を根拠として説明し、納得解を生み出すことができるようにした。

4 おわりに

成果として、自分の学びを振り返る場面を普段より意識することで、自分の学びの位置を確認し、前向きに学習に向かおうとする姿が見られるようになったことが挙げられる。また、他教科の様々な場面においても、タブレット端末を用いて諦めずに課題解決しようとする姿が見られるようになった。

今回は分科会テーマとして「主体」を掲げ、本大会テーマとを往還しながら、研究を進めることができた。子供自身の内側から湧き起こるやる気がなければ、学習は成立し得ない。全員を「学びの土俵」に乗せ、「学びがい」のある授業の創造のため、子供たちの実態に合った手立ての模索を続けたい。

第6学年1組「書くこと」分科会提案

提案者 宮崎県 宮崎市立大塚小学校 斉藤 友則

1 分科会テーマ

自分の考えを効果的に伝える力を育む「書くこと」の指導の工夫

2 はじめに

本分科会テーマにある「効果的に伝える力」とは、具体的には、構成の工夫や、事実と意見、感想などの考えの区別をすること、簡単に書いたり詳しく書いたりすることなどの書き表し方の工夫、言葉の選び方や使い方の工夫を行う力などが挙げられる。子供はこれまでの学習において、以上に挙げた効果的に伝えるための工夫について意識することは、概ねできるようになってきている。しかし、中には、自分の考えを伝える際に、目的に応じて自分の経験を結び付けて書いたり、考えを伝えるために簡単に書いたり、詳しく書いたりすることができる子供は、多いとは言えない。これらの要素を特に意識した「書くこと」の学習を通して、本大会の主題にある『学びを自覚し、共に更新し続ける子供の育成』に迫りたい。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

- ① 「学びの土台づくり」については、写真や日記、道德のノート、読書記録を用いながら、6年間で経験してきた出来事を想起させ、自分を励ましたり目標としたりする言葉と出合っていることに気付かせる。また、これまで子供たちが出合ってきた言葉を蓄積させることで、目的意識をもって「座右の銘」にしたい言葉を選ぶことができるようにする。
- ② 「学びの指針となる『学習課題』」については、選んだ座右の銘と自分自身の経験や考えを結び付けながら「座右の銘となる言葉を選んで『卒業文集』を作る」という言語活動を位置づけ、それに必要な指導事項の見通しをもたせながら学習課題を設定する。
- ③ 「立ち止まって振り返る場の設定」については、単元全体を通して、毎時間の学習計画と学習の振り返りを一枚のシートに書き留めさせ、「何を学んだのか、学び方はどうだったのか、今後の学習にどのように生かされるのか」を自覚することができるようにする。

(2) 共に更新するための工夫

- ① 「考えを表出し、比較する場」については、モデルの文章から書き表し方の工夫が見られる箇所を見つけて付箋に書いたり、それらをタブレット端末で共有したりしながら、「書き表し方の工夫」についての自分の考えを表出し、友達の考えと比較できるようにする。
- ② 「納得解を生み出す根拠や理由付けの充実」については、モデルの文章を基にして自分の考えの根拠や理由を示しながら話し合わせるとともに、教師が積極的に問い返しを行いながら子供たちの考えを充実させ、納得解を生み出していけるようにする。さらに、清書した文章を全体で読み合い、推敲をさせることで、よりよい書き表し方となった部分や作品全体の感想について互いに交流できるようにする。そのことにより、言葉による見方・考え方を働かせながら、自分の考えを再構築したり更新したりし、今後の学習や生活に生かすことができるようにする。

4 おわりに

本研究での学習は子供にとって、小学校6年間の「書くこと」の集大成に当たる学習ととらえている。本学習を通して、子供が生涯にわたって「書くこと」の楽しさや喜びを味わい、「言葉による見方や考え方」を働かせながら自らを更新して学び続けることのできる力が育まれることを願う。

第6学年4組「読むこと」分科会提案

提案者 熊本県 合志市立西合志東小学校 内田 麻衣

1 分科会テーマ

言葉に着目し、読むことを楽しむ文学的文章の授業の在り方

2 はじめに

大会主題の「未来を拓く言葉の力」とは、子供たちが自分の人生を自分で切り拓いていくための力であると考えます。人生において人と関わることは避けて通ることができない。その時に、言葉をどのように捉え、どのような言葉を使って多様な人々とつながっていくのか。国語科の授業を通して、言葉に着目して自分の考えをもち、それを問い直しながらさらに深めていく経験を積み重ね、言葉への自覚を高めていくことが、子供たちが自ら未来を切り拓く力の獲得につながるだろう。

物語を読むことが大好きな子供は多い。しかし、学年が上がるにつれて、その楽しさをうまく受け取れずに、読むことに対して消極的になっていく姿が多く見られる。本実践を通して、言葉に着目して読むことでより深く物語を味わえることに気付かせたい、友達と一緒に言葉について考えることが「楽しい」と思ってもらいたいと考え、進んで言葉にかかわりながら、言語生活を、ひいては未来を豊かにしていく子供たちの姿を求めて、本テーマを設定した。

3 研究の実際

(1) 学びを自覚するための手立て

- 学びの土台づくりでは、既習の文学教材を使って読み方の技能を確認した。また、「物語が自分に最も強く語りかけてきたこと」(主題)を考えることについてのイメージを揃え、子供たちが学習課題を的確に捉えることができるようにした。
- 子供たちから出た問いは、学習課題の解決につながるかという視点から全体で吟味し、精選したものを基に単元計画を立てた。それにより、毎回の授業が学習課題の解決に向かっていくことを自覚しながら、学習を進めることができた。
- 振り返りは、学び方を中心に行った。本時の学びが次時にどのように生かせるかを、常に意識させるようにした。また、振り返りシートは一枚にまとめ、自分の考え方や学び方の変容を自覚できるようにした。

(2) 共に更新するための工夫

- グループや全体での話し合いの際には、子供たちがこれまでの問いに対して出した答えや人物関係図、本文に書き込んできた気付き等を示しながら、根拠や理由を明確にして説明できるようにした。また、友達の考えとの共通点や相違点、新たな気付きを常に意識させ、その場で出し合いながら話し合いを深めていけるようにした。
- 必要に応じて教師が問い返し、子供たちの既有知識や経験を引き出しながら理由づけを充実させるようにした。さらに、そのような理由づけに対してさらに教師が価値づけることで、理由づけを豊かにし、言葉の捉え方を広げられるようにした。

4 おわりに

言葉に着目して深く読むことで、「読むこと、考えることが楽しい」「友達の考えを聞きたい」「他の本も読んでみたい」と思う子供を育てることが一番の願いである。今後は、子供たち自身が互いに問い返ししながら、主体的に学習を深めていく姿も追究していきたい。

大会役員・組織

第52回 全国小学校国語教育研究大会(創立50周年記念大会)
 第63回 九州小学校国語教育研究大会熊本大会
 役員・大会運営組織

部	役 職	氏 名
本部	大会委員長 大会顧問	清田 浩文(植木小) 楳山 範夫(元九小国研会長) 佐藤 俊幸(前九小国研会長)
運営	大会運営委員長 大会運営副委員長	齊藤 正信(白山小) 濱本 竜一郎(小坂小)
総務	理事 郡市事務局 事務局長 事務局員	内田 雅三(大浜小) 荒平真寿美(三岳小) 村田 典子(室小) 井上 由紀(河原小) 山下 淳子(矢部小) 中村 道恵(豊福小) 久保 瞳 (鏡小) 濱田真理子(田浦小) 浅生昇一郎(西瀬小) 鶴田 英子(倉岳小) 高宗 智史(月出小) 松原 孝行(山西小) 内山 理恵(宇土花園小) 松岡 さゆり(龍野小) 馬淵 美佳(荒尾第一小) 藪 沙代子(八代小) 北島 智博(小天小) 池部 千里(湯出小) 益田 裕子(菊鹿小) 矢住 美亜(本町小) 西山 桂子(合志南小) 溝上 剛道(附属小) 田邊 友弥(月出小) 木下 忠志(附属小)
研究	顧問 委員長 委員	宮村 幸宏(池田小) 宮本 義久(杉上小) 馬原 大介(桜木小) 岩崎 功起(日吉小) 中里 宏 (秋津小) 田畑 浩二(本荘小) 久保 綾 (励徳小) 松崎 文子(菊水小) 洲上真理子(広安西小) 本多 剛 (鹿本小) 廣田 健生(人吉東小) 徳淵 香織(菊之池小) 甲斐 誠 (河江小)
庶務 会計	顧問 委員長 委員	小山 恵子(小島小) 桃崎佐知子(古町小) 都田 雅美(楡木小) 石井 舞 (富合小)
広報 編集	顧問 委員長 委員	藤米田成二(春日小) 松本 幸(弓削小) 岩崎 功起(日吉小) 緒方 傑(桜木小) 大仁田剛 (龍田小) 森川 尚哉(若葉小) 岩崎(一新小)
会場案 内	顧問 委員長	木下 浩文(健軍小) 穴井 佳典(高橋小) 園田麻倫子(力合西小)
受付 接待	顧問 委員長	梅田 博子(秋津小) 深川 佳織(白山小)
駐車場 整理	顧問 委員長	水本 幸三(託麻南小) 入江 亮介(城東小)

全国小学校国語教育研究会主催 研究大会一覧

回	開催地・年度		研究主題
第1回	東京	昭48	読むことの本質に基づいた読解・読書の学習法の創造
第2回	東京	昭49	読者を育てる読みの指導の究明
第3回	栃木	昭50	国語科学習の本質に基づく指導法の創造
第4回	千葉	昭51	国語科の本質に基づく指導法の改善
第5回	札幌	昭52	国語科の本質に基づき、一人一人の能力を培う指導法の究明
第6回	東京	昭53	表現力を高める学習指導法の究明
第7回	神戸	昭54	国語科の本質に迫る学習指導法の確立を目指して
第8回	大阪	昭55	確かな言語力を育てる学習指導法の究明
第9回	北九州	昭56	基礎的・基本的事項が確かに身に付く学習法・指導法の研究
第10回	三沢	昭57	確かな言語力をつけるための“作文指導”“関連指導”はどうあればよいか
第11回	東京	昭58	表現力を育てる国語教育
第12回	和歌山	昭59	確かな思考力と豊かな創造力を育てる国語科教育
第13回	浜松	昭60	確かで豊かな理解と表現
第14回	鳥取	昭61	ことばに命をかよわす国語教育
第15回	盛岡	昭62	心をはぐくむ国語教育
第16回	東京	昭63	ことばと心を結ぶ国語教育
第17回	札幌	平元	「ことばの力を高め合う」授業の創造
第18回	名古屋	平2	生きる力に培う国語教室の創造
第19回	仙台	平3	豊かな心を育てる国語教育の創造
第20回	広島	平4	一人一人に確かな言語の力と豊かな心を育てる国語科授業の創造
第21回	大阪	平5	学びがい、生きがいにつながる国語科教育の展開
第22回	岩手	平6	ことばを磨き、心をはぐくむ国語教育
第23回	秋田	平7	心豊かに ことば豊かに
第24回	静岡	平8	未来を拓く確かで豊かな言葉の担い手の育成
第25回	愛媛	平9	生きてはたらく言葉の力の育成
第26回	山口	平10	21世紀を拓くことばの世界
第27回	北九州	平11	ことばを磨き、自己を語る学習者の育成
第28回	千葉	平12	豊かなことば・豊かな心を育てる国語教育
第29回	滋賀	平13	新世紀が求める国語教育の展開
第30回	東京	平14	新しい世紀を担う学びの創造
第31回	大阪	平15	新しい国語科教育2003 ～言葉の学び手を育てる授業の創造～
第32回	石川	平16	子どもとともに未来を拓く国語教育 ～生きたことばの使い手を育てる国語科学習～
第33回	鹿児島	平16	生きて働く「ことば」の力を高める国語科教育の創造 ～基礎基本の明確化と評価～
第34回	山形	平17	生きて働く言葉の力を高める国語教育 ～幼・保、小、中、高の連携を通して～
第35回	沖縄	平18	生きて働く言葉の力を高める国語教育 ～基礎的・基本的事項の定着を図る授業の創造～
第36回	名古屋	平19	未来に生きることばの力 ～知性と感性を育てることばの授業をめざして～
第37回	埼玉	平20	生きてはたらく国語の力の定着を図る授業の創造
第38回	北海道	平21	豊かなかかわりから、確かな国語の力を育む授業の創造
第39回	北九州	平22	生きて働く「ことば」の力を育てる国語科学習指導
第40回	浜松	平23	「言葉の力」を育てる魅力的な国語科授業の創造 ～生きて働く言語活動を通して～
第41回	京都	平24	言語活動を通して、豊かに学ぶ子
第42回	船橋(千葉県)	平25	言語活動を通して確かな力を育む国語科学習 ～学習材の特性を生かして～
第43回	大阪	平25	生きてはたらく言語力の育成をめざした国語科学習指導 ～質の高い言語活動を求めて～
第44回	奈良	平26	伝統的な言語文化を通して主体的な思考・判断等を発動する学習活動の創造 ～言語活動の充実とその具現化～
第45回	新潟	平27	生きて働く言語力の育成を目指した国語科学習の展開 ～学習への見通しをもち、言葉の力を高めていく学習過程の工夫～
第46回	東京	平28	未来を拓く国語教育の創造 ～思考力・表現力及び探究力が育つ言語活動の充実～
第47回	北海道・釧路	平29	新たな価値を生み出す国語科授業の創造 ～小・中9年間の主体的な言葉とのかかわりを促す、確かで豊かな言語活動を通して～
第48回	名古屋	平30	未来に生きることばの力 ～「深い学び」を拓く国語教室の創造～
第49回	京都	令元	ことばに向き合い 自らの変容を確かめ 発信できる子
第50回	北九州	令2	「ことば」を問い続ける子どもを育てる国語教育の創造

第 51 回	愛媛大会 令 3	確かで豊かな言葉の力を育む深い学びの実現～言葉による見方・考え方を働かせる授業づくりを通して～
第 52 回	熊本大会 令 4	未来を拓く言葉の力を培う国語科学習の創造～学びを自覚し、共に更新し続ける子供の育成～

全国小学校国語教育研究会 会則

昭和47年 8月 4日制定
昭和48年 6月20日改定
昭和50年 6月21日制定
昭和52年 6月29日改定
昭和57年 6月28日改定
平成元年 6月27日改定
平成3年 6月10日改定
平成7年 6月28日改定
平成23年 6月25日改定
平成24年11月29日改定

第Ⅰ章 総 則

- 第1条（名称） 本会は、全国小学校国語教育研究会と称する。（略称：全小国研）
- 第2条（目的） 本会は、全国の小学校国語教育関係者の力を結集し、わが国の小学校国語教育の推進と発展に寄与することを目的とする。
- 第3条（方針） 本会の運営にあたっては、全国の小学校国語教育研究団体を通じて、広く現場の意見等を反映するように努力する。
- 第4条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 1 全国小学校国語教育研究大会の開催
 - 2 各都道府県・指定都市における小学校国語教育研究大会の協力・後援
 - 3 各都道府県・指定都市の小学校国語教育研究団体との協力・後援
 - 4 機関誌・会報・紀要等の発行
 - 5 その他の必要な事業
- 第5条（事務所） 本会の事務所は、会長の勤務校に置く。
- 第6条（会員） 本会の会員は、各都道府県・指定都市の小学校国語教育研究団体を正会員とし、本会の趣旨に賛同し、研究大会に参加する者を一般会員とする。

第Ⅱ章 機関及び役員

- 第7条（機関の名称） 本会に次の機関を置く。
- 1 役員会
 - 2 理事会
 - 3 事務局

- 第8条（機関の構成） 機関は、次の者によって構成する。
- 1 役員会は、会長1名・副会長 若干名・常任理事 若干名・事務局長1名・会計1名をもって構成する。
 - 2 理事会は、各都道府県・指定都市の小学校国語教育研究会長、若しくは、これに代わる者をもって構成する。
 - 3 事務局は、事務局長1名・事務局次長 若干名・事務局員 若干名をもって構成する。

- 第9条（機関の活動） 各機関は、次の活動を行う。
- 1 役員会は、次の活動を行う。
 - (1) 事業計画の立案
 - (2) 予算・決算の立案
 - (3) 会務執行の基本方針の立案
 - (4) 会則の改廃・細則の立案
 - 2 理事会は、役員会で企画・立案した前項の基本事項を審議・決定する。
 - 3 事務局は、役員会の決定に基づいて、担当業務を執行する。

- 第10条（役員・理事・会計監査・事務局次長・事務局員・顧問・参与の選出）
- 1 会長・副会長・事務局長・会計・会計監査は、理事会で選出する。
 - 2 理事は、各都道府県・指定都市の小学校国語教育研究会長、若しくは、これに代わる者があたる。
 - 3 常任理事は、各ブロックの理事の中から互選する。
 - 4 事務局次長・事務局員は、会長が委嘱する。
 - 5 顧問は、役員会に諮って、会長が委嘱する。

- 第11条（役員・理事・事務局次長・顧問・参与の役割）
- 1 会長は、本会を代表し、会務を総括する。また、役員会・理事会・総会を招集する。
 - 2 副会長は、会長を補佐し、会務を総括する。また、役員会・理事会・総会を招集する。
 - 3 理事は、役員と協力し、会務の円滑な執行に努める。
 - 4 事務局長は、役員会の決定に基づいて、会務の運営を行う。
 - 5 事務局次長は、事務局長を補佐し、事務局長に事故ある時は、職務を代行する。
 - 6 会計監査は、本会の会計を監査する。
 - 7 顧問・参与は、本会の役員会・理事会・その他の会合に出席して、意見を述べたり、助言したりすることができる。

- 第12条（役員の任期） 本会の役員の任期は、1年とする。但し、再任を妨げない。補欠によって就任した役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第Ⅲ章 総 会

- 第13条 総会は、毎年1回開催し、理事会で決定した事項を報告する。

第Ⅳ章 会 計

- 第 14 条 本会の経費は、次の収入をもってあてる。
- 1 会費
 - 2 寄附金
 - 3 助成金
 - 4 その他
- 第 15 条 各都道府県・指定都市の小学校国語教育研究団体は、会費 2 万円を納入する。会費の変更は、理事会に諮って決定する。
- 第 16 条 本会の予算及び決算は、会計監査を受けて理事会で承認されなければならない。
- 第 17 条 本会の会計年度は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。会計処理にかかる振替手続き等の住所は、会計部長の勤務校とする。

第Ⅴ章 付 則

- 第 18 条 会則の変更は、理事会で承認されなければならない。
- 第 19 条 本会の運営に関する必要な細則は、役員会の議決を経て、決定する。
- 第 20 条 役員会は、細則を制定した場合、その結果を理事会に報告しなければならない。
- 第 21 条 この会則は、昭和 47 年 8 月 4 日から施行する。

細 則

第Ⅰ章 ブロックの構成

第1条

本会に次のブロックを置く。

- 1 北海道ブロック（北海道・札幌市）
- 2 東北ブロック（青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県）
- 3 関東ブロック（茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県・
横浜市・川崎市・千葉市）
- 4 東京ブロック（東京都）
- 5 甲信越ブロック（新潟県・山梨県・長野県）
- 6 北陸ブロック（富山県・石川県・福井県）
- 7 東海ブロック（岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・名古屋市）
- 8 近畿ブロック（滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・
京都市・大阪市・神戸市）
- 9 中国ブロック（鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県）
- 10 四国ブロック（徳島県・香川県・愛媛県・高知県）
- 11 九州ブロック（福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・
鹿児島県・沖縄県・北九州市）

第Ⅱ章 事務局

第2条

本会に次の部を置く。

- 1 企画・組織部（企画・運営・組織・その他の必要な企画事務：本部及び全国
ブロックの連絡・調整）
- 2 庶務・情報部（文書発送・連絡・会務報告のための資料作成・その他必要な
庶務事務：研究資料の収集と保存・研究調査・その他必要
な調査事務）
- 3 会計部（会費徴収・支払い・予算決算のための資料整備・出納簿への記帳・
現金管理・その他必要な会計事務）
- 4 編集部（機関誌及び会報の編集・紀要の編集・発表資料の作成・その他の
必要な編集事務）
- 5 研究部（研究活動の推進及び援助）

第Ⅲ章 役員選出

第3条

本会の役員選出は、次のように行う。

- 1 役員選出のために委員会を構成する。
- 2 委員会は、各地方ブロックの代表理事1名をもって構成し、委員長は副会
長1名があたる。副会長についての選出は役員会で決定する。
- 3 委員会は、役員候補者として推薦された候補者を審査して、第10条に示
す各役員を指名（内定）し、理事会に提案して承認を受ける。

九州小学校国語教育研究大会のあゆみ

回	会 場 名	期 日	大会主題・備考	講 師
1	大分県日田市立日隈小学校	1958/5/16・17	研究授業・研究発表	倉澤栄吉 石黒 修
2	熊本県熊本市立五福小学校	1959/5/27	国語科の基本的学習指導をどう進めていくか	倉澤栄吉
3	長崎県長崎市立新興善小学校	1960/6/2	国語科の学習指導の系統性をどう高めていくか	倉澤栄吉
4	鹿児島県鹿児島市立山下小学校	1961/5/25	正しさ、確かさを求めている国語学習指導	倉澤栄吉
5	佐賀県佐賀大学教育学部附属小学校	1962/6/2	正しさ、確かさを求めている国語学習指導	倉澤栄吉
6	福岡県福岡教育大学附属福岡小学校	1963/6/24	正しさ、確かさを求めている国語学習指導 〈研究誌「これからの国語教育」(新光閣) 発刊〉	倉澤栄吉
7	宮崎県宮崎大学教育学部附属小学校	1964/6/2	正しさ、確かさを求めている国語学習指導	倉澤栄吉
8	大分県大分大学教育学部附属小学校	1965/6/25	文学教材の指導と心情の陶冶 (沖縄から初参加)	倉澤栄吉
9	福岡県福岡教育大学附属久留米小学校	1966/7/2	聞く・話す・読む・書くの有機的運営をどのようにしたらよいか (中国・四国から参加)	倉澤栄吉
10	熊本県熊本大学教育学部附属小学校	1967/7/7	国語科教育の問題とその解決策 〈研究誌「明日への国語教育(振興閣) 発刊〉	倉澤栄吉
11	福岡県福岡教育大学附属小倉小学校	1968/6/28	小学校における文学教育の可能性を探る	倉澤栄吉
12	佐賀県佐賀市立赤松小学校	1970/10/30	これからの作文指導の在り方を求めて創造性に資する国語教育 ～情報社会に生きるために～ (1年間の空白を置いて、佐賀が発火点となり九附連から九小国研となる)	倉澤栄吉
13	長崎県長崎大学教育学部附属小学校	1971/10/6	創造的思想を助長する国語教育 ～作文・読書の正しい指導を求めて～	倉澤栄吉
14	宮崎県宮崎大学教育学部附属小学校	1973/2/1	自ら学ぶ力を育てる国語教育	倉澤栄吉
15	熊本県熊本大学教育学部附属小学校	1974/2/1	正しさ、確かさを求めている国語学習指導 〈研究誌「これからの国語教育」(新光閣発刊)〉	倉澤栄吉
16	鹿児島県鹿児島大学教育学部附属小学校	1975/1/24	確かさ、豊かさを育てる国語科の学習指導	倉澤栄吉
17	大分県別府市立北小学校	1976/1/30	豊かなことばの創造をうながす国語科の学習指導 (参加者 2,000 名を超す)	倉澤栄吉
18	福岡県福岡市立大名小学校・赤坂小学校	1977/2/4	子どもの未来に生きる確かな国語科指導の展開 (参加者 2,000 名超す)	倉澤栄吉
19	佐賀県佐賀市立神野小学校	1978/2/3	生きて働く国語力を育てる学習指導	倉澤栄吉
20	長崎県長崎大学教育学部附属小学校	1979/11/28	自己革命をめざす「表現」「理解」の指導	倉澤栄吉
21	熊本県熊本大学教育学部附属小学校	1980/2/22	言葉で考え、自己を創造する国語科の学習指導	藤原 宏
22	宮崎県宮崎大学教育学部附属小学校	1981/1/23	豊かな表現力・理解力を培う国語科授業の創造 〈研究誌「自己創造の国語教育」(明治図書) 発刊〉	倉澤栄吉
23	鹿児島県鹿児島大学教育学部附属小学校	1982/1/29	確かで豊かな言語能力の育成をめざして	倉澤栄吉
24	大分県竹田市立竹田小学校	1983/1/20	子どもが生きる国語科学習の創造	倉澤栄吉
25	福岡県福岡市立平尾小学校	1984/1/26	言語の教育としての国語科学習指導の成立 〈研究誌「言語の教育としての国語科学習指導」(九教研) 発刊〉	倉澤栄吉
26	佐賀県佐賀市立勸興小学校	1985/2/8	ことばと心をつなぐ国語科学習指導	倉澤栄吉
27	長崎県長崎市立新興善小学校	1986/2/7	言語の力を学びとる国語科の創造	倉澤栄吉
28	宮崎県宮崎市立江平小学校	1987/2/6	一人ひとりの言葉の力を大事にする国語科授業の創造	倉澤栄吉
29	熊本県熊本市立城東小学校 慶徳小学校	1988/2/5	自己表現を大切にしたい国語科学習	倉澤栄吉
30	鹿児島県鹿児島大学教育学部附属小学校	1989/2/3	主体的な言葉の学び手を育てる国語科教育 (第 30 回大会記念誌「主体的な言葉の学び手を育てる国語科教育」(九教研) 発刊)	倉澤栄吉
31	大分県大分市立金池小学校	1990/2/2	ことばが生きる国語科学習の創造	倉澤栄吉
32	福岡県福岡市立金山小学校	1991/2/7	確かな表現力を育てる国語科学習指導	倉澤栄吉 今西祐行
33	佐賀県佐賀市立若楠小学校	1992/1/31	ことばの生活を切りひらく国語科学習の創造	倉澤栄吉
34	長崎県長崎市立勝山小学校	1993/1/28	主体性をはぐくむ国語科学習の創造	倉澤栄吉

回	会 場 名	期 日	大会主題・備考	講 師
35	宮崎県宮崎市立西池小学校	1994/1/28	豊かな言語主体を育てる国語科教育 〈第 35 回大会記念誌「豊かな言語主体を育てる国語科教育」(九教研) 発刊〉	倉澤栄吉
36	熊本県熊本市立大江小学校	1995/2/3	未来をひらく国語学習の創造	倉澤栄吉
37	鹿児島県鹿児島大学教育学部附属小学校	1996/2/2	言葉で心をひらく国語科教育	倉澤栄吉
38	大分県大分市立大道小学校	1997/2/7	ことばで自己をひらく国語科学習の創造 ～自己に問い続ける子どもを育む学習指導～	倉澤栄吉
39	福岡県福岡市立城南小学校	1998/2/6	生きる力を育む国語科学習の構築	倉澤栄吉 杉みき子
40	佐賀県佐賀市立高木瀬小学校	1999/1/22	ことばの文化をひらく国語教育の展開 〈第 40 回大会記念誌「ことばの文化をひらく国語教育の展開」(九教研)〉	倉澤栄吉
41	長崎県長崎市立桜町小学校	2000/2/4	心を伝え合う国語科学習の創造	倉澤栄吉
42	宮崎県宮崎市立江南小学校	2001/2/2	生きて働く「伝え合う力」をはぐくむ国語科学習の創造	倉澤栄吉
43	熊本県熊本市立西原小学校	2002/1/25	ことばの生活をはぐくむ国語科学習の創造	倉澤栄吉
44	鹿児島県鹿児島大学教育学部附属小学校	2003/1/24	ことばで伝え合う力をはぐくむ国語科学習の創造 ～「思考・判断」を重視した学習指導と評価～	倉澤栄吉
45	大分県別府市立石垣小学校	2004/1/30	ことばでくらしをつくる国語科学習の創造 〈第 45 回大会記念誌「確かな国語力をはぐくむ授業を創る」(九教研) 発刊〉	倉澤栄吉
46	福岡県福岡市立平尾小学校	2005/1/28	確かな国語力をはぐくむ国語科学習の構築	倉澤栄吉 齋藤 孝
47	佐賀県鳥栖市立鳥栖北小学校	2006/1/20	ことばを学び実感する授業の研究	倉澤栄吉
48	長崎県長崎市立西浦上小学校	2007/1/26	言葉の力を培う授業の構築	倉澤栄吉
49	宮崎県宮崎市立江南小学校	2008/1/25	確かで豊かなことばの力を育てる国語科学習の創造	倉澤栄吉
50	熊本県熊本大学教育学部附属小学校	2009/1/23	学び方を獲得する国語科学習の創造	倉澤栄吉
51	鹿児島県鹿児島市立伊敷台小学校	2010/1/29	実生活で生きてはたらく国語の力を育成する国語科授業の創造	浜本純逸
52	大分県大分市立下郡小学校	2011/1/28	くらしに生きることばをはぐくむ国語科学習の創造	浜本純逸
53	福岡県福岡市立当仁小学校	2012/1/27	確かな国語力を育成する国語科学習の展開	浜本純逸 工藤直子
54	佐賀県武雄市立御船が丘小学校	2013/1/25	ことば学びの文化を愉しむ国語教室 ～愉しむ 10 の部屋で複線的思考に培う～	浜本純逸 青山由紀
55	長崎県長崎市立西北小学校	2014/1/26	言葉の力を高めるこれからの授業 ～思考力・判断力・表現力を育てる言語活動の充実～	浜本純逸 青山由紀
56	宮崎県宮崎市立加納小学校	2015/1/30	ことばの学び手を育てる国語科学習の創造 ～「6 つの考え方」を使って考えを高め合う授業づくり～	浜本純逸 二瓶弘行
57	熊本県熊本大学教育学部附属小学校	2016/1/29	生きて働く言葉の力を培う国語科学習の創造	浜本純逸 二瓶弘行
58	鹿児島県鹿児島大学教育学部附属小学校	2017/2/3	実生活に生きて働く言葉の力を磨き合う国語科学習の創造	浜本純逸 二瓶弘行
59	大分県大分市立明治小学校	2018/1/26	次代を生き抜く力を育む国語科授業の探究 ～学びのコーディネートキーワードに～	田中宏幸
60	福岡県福岡市立当仁小学校	2019/1/25	確かな言葉の力を育む国語科学習の展開	田中宏幸 青山由紀
61	佐賀県佐賀大学教育学部附属小学校	2020/1/24	学びをつなぐ国語教室の探究 ～単元を通じた学習課題を位置づける～	田中宏幸 青山由紀
62	長崎県長崎市立山里小学校	2022/1/28	『未来に生きる言葉の力』を高める授業 ～本気、共創、実感のある学びの創造～	田中宏幸 青山由紀
63	アークホテル熊本	2023/1/26, 27	未来を拓く言葉の力を培う国語科学習の創造 ～学びを自覚し、共に更新し続ける子供の育成～	大塚健太郎 田中宏幸 重松清

第52回全国小学校国語教育研究大会熊本大会 役員・運営組織

【大会名誉顧問】

榑原 良子

【大会顧問】

紅林 幸一	大石 臣二	民木康三郎	須田 忠治	小山 善造	鈴木 博
栗岩 英雄	矢口 龍彦	鈴木 一雄	二村 政典	倉光 浄晃	藤井 秀昭
岩田 進	押上 武文	菅原 吉男	佐藤 貞一	水本 光	山本 道國
奥田 敦夫	平山 威	中原 國明	新井 晋学	佐藤 陽祐	森 希一
能瀬外喜雄	富永 琢見	藤原 宏堂	桐谷 澄男	大内 敏光	安達 知子
中澤 敬	花村 惠	中野 道代	村越 正則	清水 健	吉永 幸司
柴山 憲司	福本 菊江	中村 明人	伊藤 節子	西村 佐二	帆足 文宏
藤田 慶三	西澤 清	若松 和子	和田 耕一	福田信一(金沢)	尾崎 多
齋藤 二郎	藤井 英子	向田 宏男	黒澤 修	依田 雅枝	中嶋美千代
土井 俊信	日比野基伸	蛭田 正朝	鈴木 一徳	石野日出夫	柴田 房雄
堂免 國好	新井 啓子	高倉 照男	齋藤 裕吉	福田信一(札幌)	上田 保明
堂前 禮二	垣内 成剛	西澤 徹	玉城 節子	飯田 薫	阿部 澄子
田窪 豊	西岡 由郎	山田 修平	岡本 由美	阪田 幸子	悴田 康之
五十嵐則也	山本 直子	庄子 剛	友松 重雅	鶴巻 景子	川畑 庄二
小野江 隆	齋藤 照代	大川内英樹	篠原 敦子	大野 泰弘	鈴木 美紀
加村 和美	田頭 良博				

【大会参与】

池田袈裟美	依田 好一	加藤 れい	金田 可久	鈴木 幸子	宮崎 憲子
島貫 金雄	永井のり子	福原 忠	佐藤 修	武田 恭宗	原田美智子
稲葉 実	増田 潔	岡崎 美恵			

【大会会長】

佐伯 孝司

【大会副会長】

清田 浩文 岩本 和貴 山口 麻衣 中島 亮子 吉井 広明

【本部事務局長】

長沼 正城

【全国小学校国語教育研究会 本部役員】

会 計 部 長	関根 幸男	企画・組織部長	田中 順子
庶務・情報部長	須釜久美子	編 集 部 長	早乙女通英
研 究 部 長	植杉 義久		
会 計 監 査	笹河 悦郎	会 計 監 査	小原 太一